

介護テクノロジー等による生産性向上の取組に
関する調査及び効果測定事業 報告書

Ⅱ/Ⅲ

令和8年3月
厚生労働省 老健局高齢者支援課

目次

(Ⅱ/Ⅲ)

IX.	実証結果:①-4 訪問・通所系.....	Ⅱ-1
	【A】介護記録の効率化.....	Ⅱ-1
1.	実証概要.....	Ⅱ-1
	(1) 実証目的.....	Ⅱ-1
	(2) 実証仮説.....	Ⅱ-1
	(3) 実証機器.....	Ⅱ-1
	(4) 対象事業所.....	Ⅱ-1
	(5) 実証方法.....	Ⅱ-2
	(6) 調査項目.....	Ⅱ-5
2.	実証結果.....	Ⅱ-6
	(1) 利用者・職員概要.....	Ⅱ-6
	(2) タイムスタディ調査結果.....	Ⅱ-8
	(3) 職員向けアンケート調査結果.....	Ⅱ-12
	(4) 利用者向けアンケート調査結果.....	Ⅱ-17
	(5) 業務時間等記録調査結果.....	Ⅱ-23
	(6) ヒアリング調査結果.....	Ⅱ-24
	【B】腰痛リスクの把握と対応.....	Ⅱ-28
1.	実証概要.....	Ⅱ-28
	(1) 実証目的.....	Ⅱ-28
	(2) 実証仮説.....	Ⅱ-28
	(3) 実証機器.....	Ⅱ-28
	(4) 対象事業所.....	Ⅱ-28
	(5) 実証方法.....	Ⅱ-29
	(6) 調査項目.....	Ⅱ-31
2.	実証結果(装着).....	Ⅱ-32
	(1) 利用者・職員概要.....	Ⅱ-32
	(2) 職員向けアンケート調査結果.....	Ⅱ-34
	(3) 利用者向けアンケート調査結果.....	Ⅱ-38
	(4) チェックリストを用いたアセスメント.....	Ⅱ-41
	(5) ヒアリング調査結果.....	Ⅱ-43

3. 実証結果(非装着).....	II-45
(1) 利用者・職員概要.....	II-45
(2) 職員向けアンケート調査結果.....	II-47
(3) 利用者向けアンケート調査結果.....	II-50
(4) チェックリストを用いたアセスメント.....	II-53
(5) 訪問記録票、計測機器による調査.....	II-54
(6) ヒアリング調査結果.....	II-54
4. 実証結果(移動用リフト).....	II-56
(1) 利用者・職員概要.....	II-56
(2) 職員向けアンケート調査結果.....	II-58
(3) 利用者向けアンケート調査結果.....	II-60
(4) チェックリストを用いたアセスメント.....	II-61
(5) 訪問記録票、計測機器による調査.....	II-62
(6) ヒアリング調査結果.....	II-63
【C】アセスメントの効率化.....	II-65
1. 実証概要.....	II-65
(1) 実証目的.....	II-65
(2) 実証仮説.....	II-65
(3) 実証機器.....	II-65
(4) 対象事業所.....	II-65
(5) 実証方法.....	II-65
(6) 調査項目.....	II-67
2. 実証結果.....	II-69
(1) 利用者・職員概要.....	II-69
(2) タイムスタディ調査結果.....	II-71
(3) 職員向けアンケート調査結果.....	II-73
(4) 利用者向けアンケート調査結果.....	II-82
(5) ヒアリング調査結果.....	II-93

X.	実証結果:①－5AI 活用	Ⅱ-95
	【訪問スケジュール作成ツール】	Ⅱ-95
1.	実証概要	Ⅱ-95
	(1) 実証目的	Ⅱ-95
	(2) 実証仮説	Ⅱ-95
	(3) 実証機器	Ⅱ-95
	(4) 対象事業所	Ⅱ-95
	(5) 実証方法	Ⅱ-96
	(6) 調査項目	Ⅱ-98
2.	実証結果	Ⅱ-101
	(1) 職員概要	Ⅱ-101
	(2) タイムスタディ調査結果	Ⅱ-101
	(3) 職員向けアンケート調査結果	Ⅱ-103
	(4) 経営的指標調査結果	Ⅱ-111
	(5) 業務時間等調査結果	Ⅱ-112
	(6) ヒアリング調査結果	Ⅱ-114
	【送迎スケジュール作成ツール】	Ⅱ-118
1.	実証概要	Ⅱ-118
	(1) 実証目的	Ⅱ-118
	(2) 実証仮説	Ⅱ-118
	(3) 実証機器	Ⅱ-118
	(4) 対象事業所	Ⅱ-118
	(5) 実証方法	Ⅱ-119
	(6) 調査項目	Ⅱ-120
2.	実証結果	Ⅱ-122
	(1) 職員概要	Ⅱ-122
	(2) タイムスタディ調査結果	Ⅱ-123
	(3) 職員向けアンケート調査結果	Ⅱ-124
	(4) 経営的指標調査結果	Ⅱ-132
	(5) 業務時間等調査結果	Ⅱ-134
	(6) ヒアリング調査結果	Ⅱ-135
	(7) 実証対象事業所以外の送迎スケジュール作成ツール活用事例	Ⅱ-139

IX. 実証結果:①-4 訪問・通所系

【A】介護記録の効率化

1. 実証概要

(1) 実証目的

訪問系サービス及び通所系サービスにおける介護記録ソフト活用による介護サービスの質の維持・向上、職員の負担軽減、オペレーションの見直しによる業務効率化等の観点の効果を把握する。

(2) 実証仮説

訪問系サービス及び通所系サービスにおける介護記録ソフト活用により下記の変化がみられることを仮説とした。

- 手書きの記録に係る職員の業務時間が減る
- いわゆる一気通貫機能を有するソフトの場合、転記時間の削減に加えて、他事業所との連携機能により、電話や FAX、訪問に費やす時間が減る

(3) 実証機器

本実証では以下の機器を用いた。なお、導入状況は施設によって異なっていた。

図表 IX-1 実証で使用した機器

No	メーカー名	機器名
1	株式会社 LITALICO	ナーシングネットプラスワン
2	株式会社ビーシステム	ファーストケア

(4) 対象事業所

本実証の対象事業所は以下の通り。

図表 IX-2 実証対象施設

No	法人名	施設名	導入機器
1	株式会社ヘルパーハウス吉河	ケアセンターであい	ナーシングネットプラスワン
2	株式会社ヘルパーハウス吉河	デイサービスセンターであい	ナーシングネットプラスワン
3	Life-iz 株式会社	もとすみよしハッピーデイ	ファーストケア
4	庄内みどり農業協同組合	JA 庄内みどり福祉センター	ファーストケア
5	株式会社ぐりーんりーふ	ときわ介護サービス	ファーストケア
6	シュクルケア株式会社	シュクルケアデイサービス リハ&スパ	ファーストケア

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。

図表 IX-3 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和 7 年6月～8 月のうち平日 5 日間
事後調査①	令和 7 年9月～10 月のうち平日 5 日間
事後調査②	令和 7 年11月のうち平日 5 日間
ヒアリング調査	令和 8 年1月

※新型コロナウイルス感染症の影響や機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査①・②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「業務時間等調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 IX-4 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	実証期間中、介護記録作成に従事した全職員	<ul style="list-style-type: none"> 回答方法: 自記式(1 分刻みで自身が実施した作業項目を記入)による回答 調査スケジュール: 事前(オペレーションの工夫・変更前)1 回、事後①・②(オペレーションの工夫・変更後)2 回の計 3 回。各日に勤務した職員全員が回答 調査実施の時間帯: 実際に勤務した時間全て
職員向けアン	実証期間中、介護	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式: 自記式または Web による回答

調査名	調査対象者	調査概要
ケート調査	記録作成に従事した全職員	<ul style="list-style-type: none"> 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、職員1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査	調査対象利用者	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式またはWebによる回答 ※職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のブレを防止するため、可能な限り同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依頼 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、利用者1名につき1回のみ回答
業務時間等調査	実証期間中、介護記録作成に従事した全職員	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:自記式 調査スケジュール:事後調査②終了後に、実証に参加した職員全員について施設管理者等が回答
ヒアリング調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:Web 会議または訪問(対面)による聞き取り 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

ウ. 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの工夫・変更の内容

本実証の対象施設においては、以下の通りオペレーションの変更を実施した。

図表 IX-5 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容

施設名	A.通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ
ケアセンター であい	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録は複写シートに記載の上、訪問先と事務所に保存している。 介護記録を参照してから訪問先に移動するため、朝夕は事務所を訪問する。 サービス提供表の集計に基づき、転記を伴う請求業務を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録ソフトに記載することで、訪問先で記載する資料と介護記録を両方記載する必要がなくなる。 事務所で介護記録を作成する必要がなく、前日までの介護記録はアプリで参照できる。 記録から請求が一気通貫で行われる為、請求業務の負荷 	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録を複数作成する必要がなくなるため、業務時間が削減され、残業が減る。 直行/直帰で業務を担当することができるようになり、業務負荷が軽減される。直行/直帰が増えることで、職員同士の対面コミュニケーションが減少する可能性があるが、定例ミーティングの設定により対面コミュニケーションの場を確保する。請求業務に伴う

施設名	A.通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、目指すところ
		が低減する。	転記作業負荷が低減し、また正確な請求業務が実現できる。
デイサービスセンター あい	<ul style="list-style-type: none"> 紙で記録を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録ソフトで記録を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 記録業務・転記業務の負担を軽減する。
もとすみよし ハッピーデイ	<ul style="list-style-type: none"> 紙での介護記録を実施。 紙の記録を基に転記を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録ソフトを使用して介護記録をする。 介護ソフトによる転記業務の負担軽減。 	<ul style="list-style-type: none"> 記録業務の軽減、利用者ファイルの管理業務の軽減を目的とする。 正確な請求業務を実施できる。
JA 庄内みどり 福祉センター	<ul style="list-style-type: none"> サービス利用確認書(紙)での介護記録を実施する。 シフトはエクセルで作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録ソフトを用いて介護記録をする。 シフトはエクセルで作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> 実績チェックをサービス利用確認書(紙)ではなく介護ソフトで行う事ができ、請求作業に伴う転記作業の作業負荷が軽減する。 利用者の特記事項を個人モバイルの SNS を利用しているため、介護記録ソフトを利用することで情報漏洩を防ぐ。 シフトの作成作業が軽減する。 急なシフト変更や利用者の体調変化による担当変更等に迅速に対応できる。
ときわ介護 サービス	<ul style="list-style-type: none"> 管理表(紙)での介護記録を実施。 管理表(紙)での記録に基づき、月末に転記を行っている。 モニタリングを手作業で作成。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録ソフトでの介護記録を行う。 ソフト利用でモニタリング半自動化。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙での記録負荷を低減 引継ぎ負荷を低減。 転記作業の負荷の低減。 正確な請求作業の実施。 モニタリング作成の負荷の低減。
シュクルケア デイサービス リハ&スパ	<ul style="list-style-type: none"> 紙で記録を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録ソフトで記録を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 月末の請求時の転記作業の時間を削減する。

(6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、業務時間等調査、ヒアリング調査を行った。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「A.直接介護(小分類 1 つ)」「B.間接業務(小分類 7 つ)」「C.休憩・待機」「D. その他」の4分類で整理し、計 10 項目を用意した。

図表 IX-6 タイムスタディ調査 項目

No	分類	Sub -No	項目
A	直接介護	1	直接介護・リハビリテーション(※1)
B	間接業務	2	記録・文書作成(※2)
		3	転記作業
		4	情報連携(事業所内)(※3)
		5	情報連携(他事業所・家族)(※4)
		6	ソフト導入対応(※5)
		7	移動 / 送迎
		8	その他間接業務
C	休憩	9	休憩・待機
D	その他	10	その他

※1 見守りによる介助を含む

※2 利用者に関する記録等の作成

※3 申し送り、職員間の連絡調整、事業所内の情報連携

※4 他事業所や家族への情報連携(利用者の状況報告、実績報告など)

※5 ベンダーとの連絡調整、職員への教育・活用定着支援等の導入初期対応

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18 に基づく)と、加えて事前では、記録業務の課題、事後では、機器導入によるモチベーションの変化、介護記録ソフト導入の必要性の理解、機器導入による職員や施設業務の変化、導入機器の満足度評価、記録業務の質の向上、業務時間の変化を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の2種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、対象利用者のADLの変化、認知機能の変化、心理的な影響（意欲の指標 Vitality index に基づく）、QOLの変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に1回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

オ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

2. 実証結果

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

図表 IX-7 利用者概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	13	27	0	40
	割合	33%	68%	0%	100%

図表 IX-8 利用者概要 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	2	3	5	5	12	8	5	0	40
	割合	5%	8%	13%	13%	30%	20%	13%	0%	100%

図表 IX-9 利用者概要 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	9	8	1	2	3	15	2	0	40
	割合	23%	20%	3%	5%	8%	38%	5%	0%	100%

図表 IX-10 利用者概要 障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	9	1	6	2	0	0	0	1	21	0	40
	割合	23%	3%	15%	5%	0%	0%	0%	3%	53%	0%	100%

イ. 職員概要

図表 IX-11 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	8	47	0	55
	割合	15%	85%	0%	100%

図表 IX-12 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	3	17	13	10	11	0	55
	割合	0%	2%	5%	31%	24%	18%	20%	0%	100%

図表 IX-13 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	34	0	2	0	0	0	19	0	55
	割合	62%	0%	4%	0%	0%	0%	35%	0%	100%

図表 IX-14 職員概要 役職

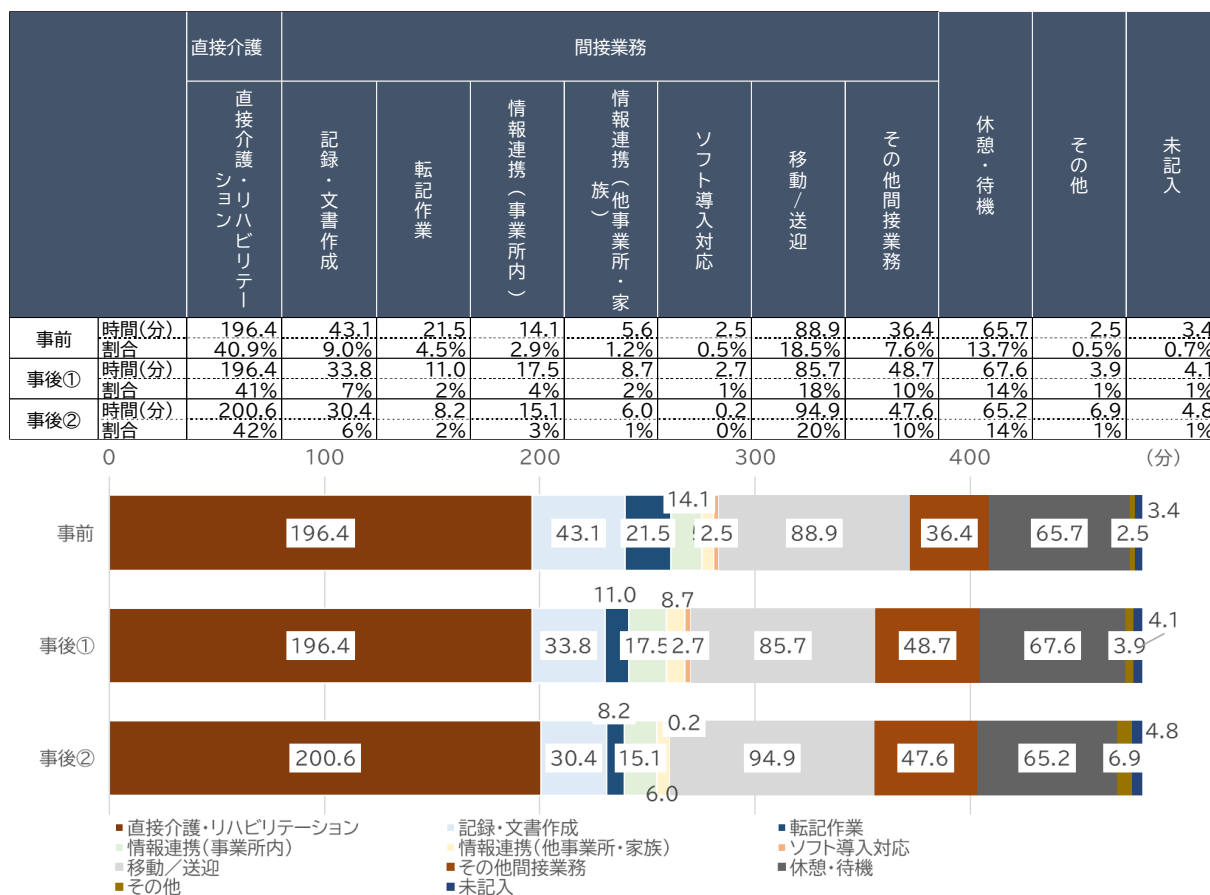
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	2	12	35	6	0	55
	割合	4%	22%	64%	11%	0%	100%

(2) タイムスタディ調査結果

ア. タイムスタディ調査結果

介護職員のタイムスタディ調査の結果は以下の通り。

図表 IX-15 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)



事前調査 n=43

事後調査① n=39

事後調査② n=36

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

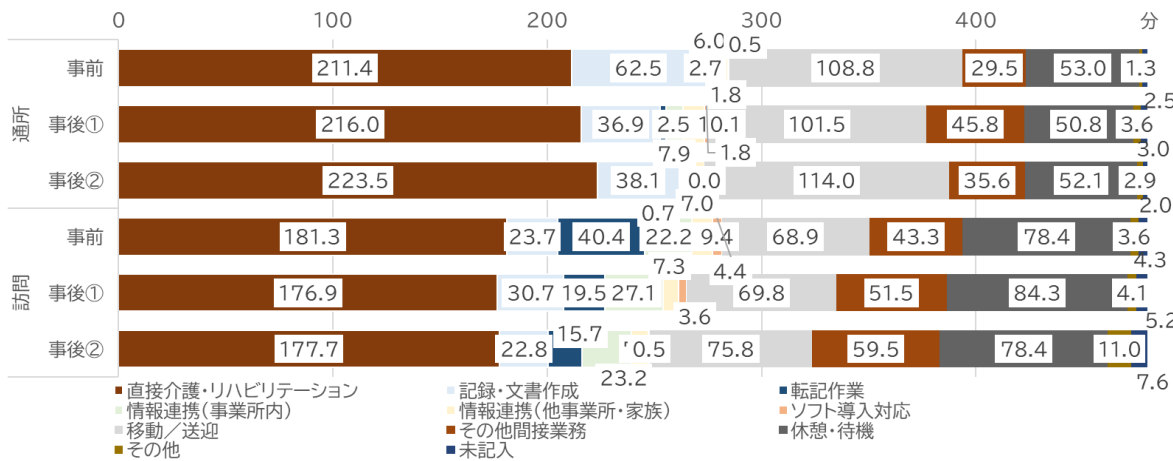
※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

イ. サービス種別のタイムスタディ調査結果

サービス種別のタイムスタディ調査の結果は以下の通り。

図表 IX-16 サービス種別タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)

		時間(分)	直接介護		間接業務							休憩・待機	その他	未記入
			直接介護 シヨーン	記録・文書作成	転記作業	情報連携(事業所内)	情報連携(他事業所・家族)	ソフト導入対応	移動/送迎	その他間接業務				
通所	事前	211.4	62.5	2.7	6.0	1.8	0.5	108.8	29.5	53.0	1.3	2.5		
	割合	44.0%	13.0%	0.6%	1.3%	0.4%	0.1%	22.7%	6.2%	11.0%	0.3%	0.5%		
	事後①	216.0	36.9	2.5	7.9	10.1	1.8	101.5	45.8	50.8	3.6	3.0		
訪問	事後②	223.5	38.1	0.7	7.0	4.1	0.0	114.0	35.6	52.1	2.9	2.0		
	割合	47%	8%	0%	1%	1%	0%	24%	7%	11%	1%	0%		
	事前	181.3	23.7	40.4	22.2	9.4	4.4	68.9	43.3	78.4	3.6	4.3		
訪問	割合	37.8%	4.9%	8.4%	4.6%	2.0%	0.9%	14.4%	9.0%	16.3%	0.7%	0.9%		
	事後①	176.9	30.7	19.5	27.1	7.3	3.6	69.8	51.5	84.3	4.1	5.2		
	割合	37%	6%	4%	6%	2%	1%	15%	11%	18%	1%	1%		
訪問	事後②	177.7	22.8	15.7	23.2	7.9	0.5	75.8	59.5	78.4	11.0	7.6		
	割合	37%	5%	3%	5%	2%	0%	16%	12%	16%	2%	2%		



事前調査 通所 n=27、訪問 n=16

事後調査① 通所 n=23、訪問 n=16

事後調査② 通所 n=21、訪問 n=15

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

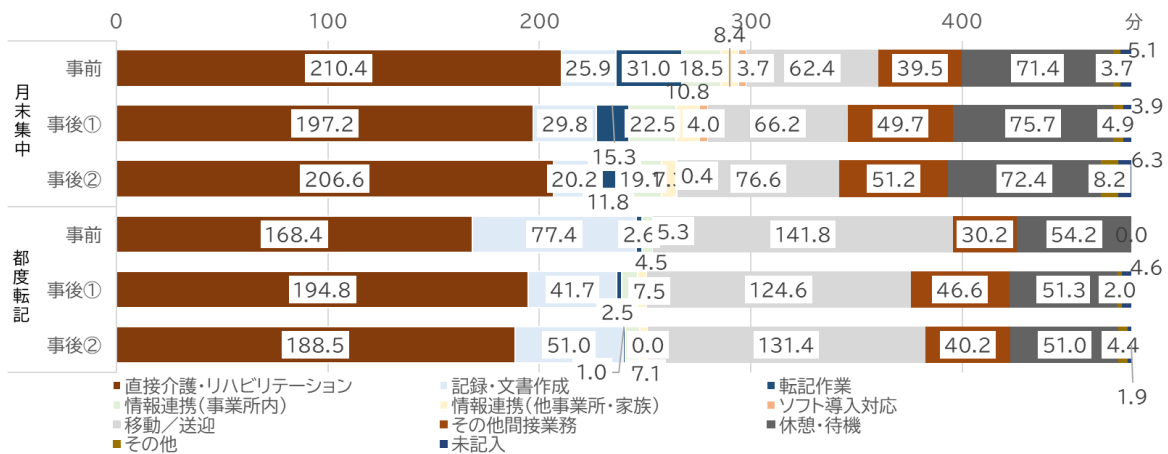
※「通所」は通所介護または地域密着型通所介護、「訪問」は訪問介護を指す。

ウ. 転記作業種別のタイムスタディ調査結果

転記作業種別のタイムスタディ調査の結果は以下の通り。

図表 IX-17 転記作業種別タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)

		時間(分)	直接介護		間接業務							休憩・待機	その他	未記入
			直接介護 シヨソ	記録・文書作成	転記作業	情報連携(事業所内)	情報連携(他事業所・家族)	ソフト導入対応	移動/送迎	その他間接業務				
月末集中 転記事業所	事前	210.4	25.9	31.0	18.5	8.4	3.7	62.4	39.5	71.4	3.7	5.1		
	事後①	197.2	29.8	15.3	22.5	10.8	4.0	66.2	49.7	75.7	4.9	3.9		
	事後②	206.6	20.2	11.8	19.1	7.3	0.4	76.6	51.2	72.4	8.2	6.3		
都度転記 事業所	事前	168.4	77.4	2.6	5.3	0.0	0.0	141.8	30.2	54.2	0.0	0.0		
	事後①	194.8	41.7	2.5	7.5	4.5	0.0	124.6	46.6	51.3	2.0	4.6		
	事後②	188.5	51.0	1.0	7.1	3.5	0.0	131.4	40.2	51.0	4.4	1.9		



事前調査 月末集中 n=27、都度転記 n=16

事後調査① 月末集中 n=22、都度転記 n=17

事後調査② 月末集中 n=19、都度転記 n=17

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

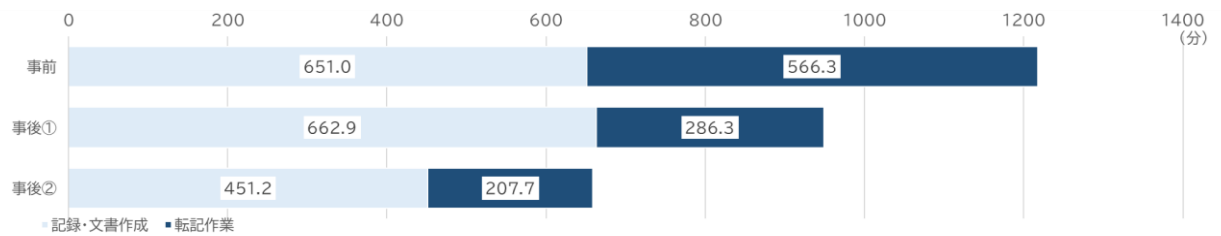
※「月末集中転記作業事業所」は月末にまとめて転記作業を行っている事業所、「都度転記事業所」は都度転記作業を行っている事業所を指す。

エ. タイムスタディ調査結果(総時間の減少状況)

タイムスタディ調査結果に基づく総時間の減少状況の結果は以下の通り。

図表 IX-18 転記作業種別タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)

		直接介護		間接業務						休憩・待機	その他	未記入
		直接介護・リハビリテーション	記録・文書作成	転記作業	情報連携(事業所内)	情報連携(他事業所・家族)	ソフト導入	移動/送迎	その他間接業務			
事前	時間(分)	4496.7	651.0	566.3	357.6	156.1	67.3	1530.6	817.6	1520.3	67.2	93.2
	割合	44%	6%	5%	3%	2%	1%	15%	8%	15%	1%	1%
事後①	時間(分)	4227.2	662.9	286.3	454.9	200.6	75.0	1590.6	1026.3	1631.4	89.9	90.0
	割合	40.9%	6.4%	2.8%	4.4%	1.9%	0.7%	15.4%	9.9%	15.8%	0.9%	0.9%
事後②	時間(分)	3741.5	451.2	207.7	372.7	127.3	5.8	1486.3	935.6	1451.3	128.6	100.0
	割合	42%	5%	2%	4%	1%	0%	16%	10%	16%	1%	1%



事前調査 n=43

事後調査① n=39

事後調査② n=36

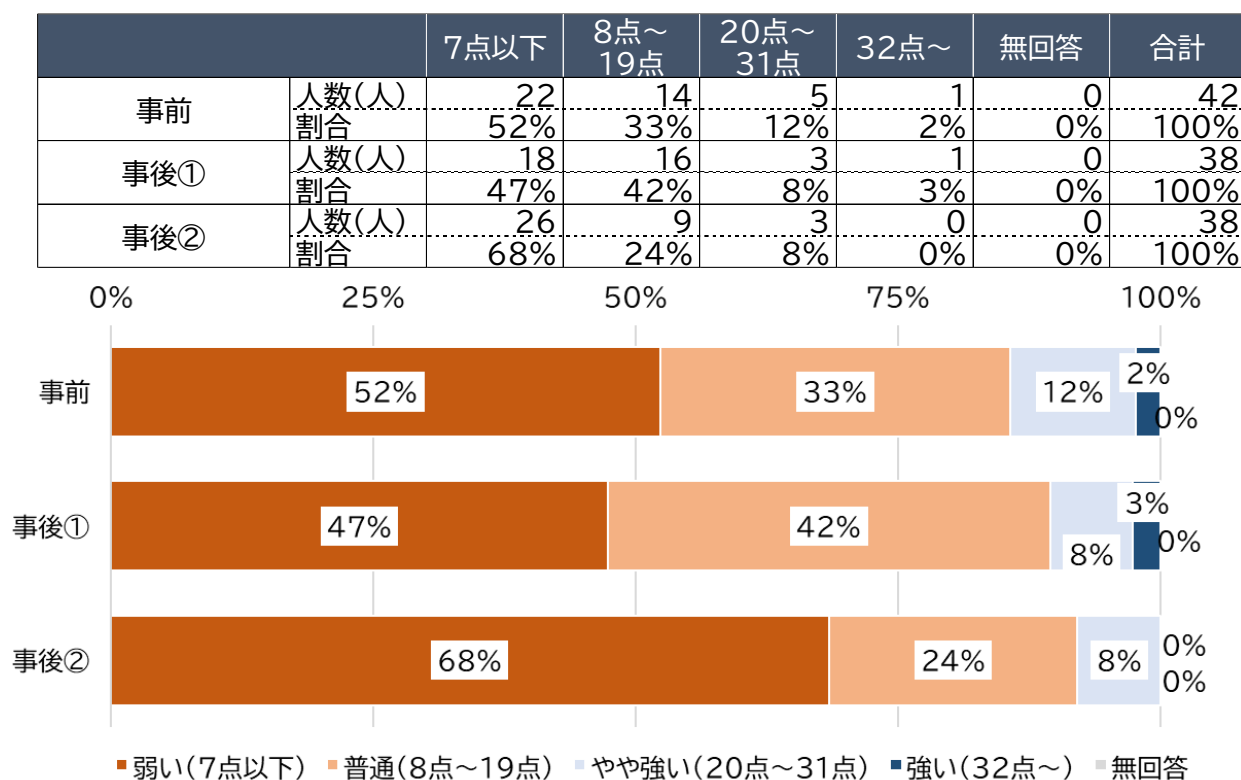
※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

(3) 職員向けアンケート調査結果

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

図表 IX-19 心理的負担評価(SRS-18)

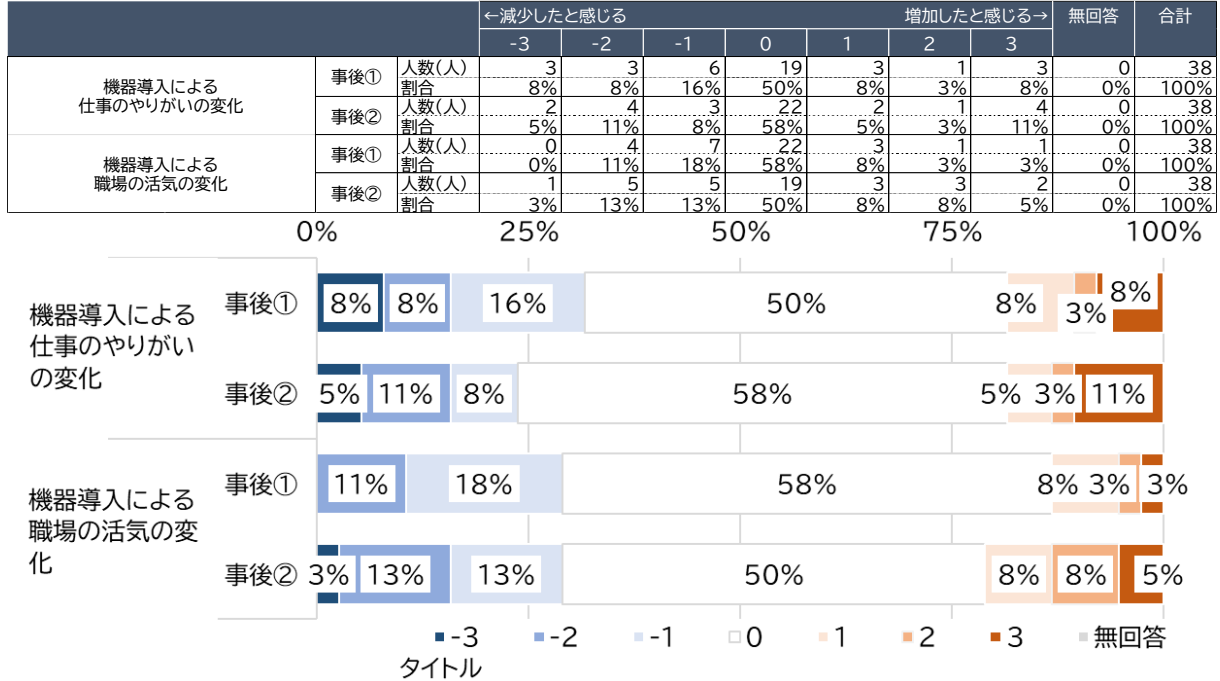


※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査もしくは事後調査に1度でも回答のあった職員を集計対象とした。また、事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

イ. 機器導入によるモチベーションの変化

機器導入によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 IX-20 機器導入によるモチベーションの変化



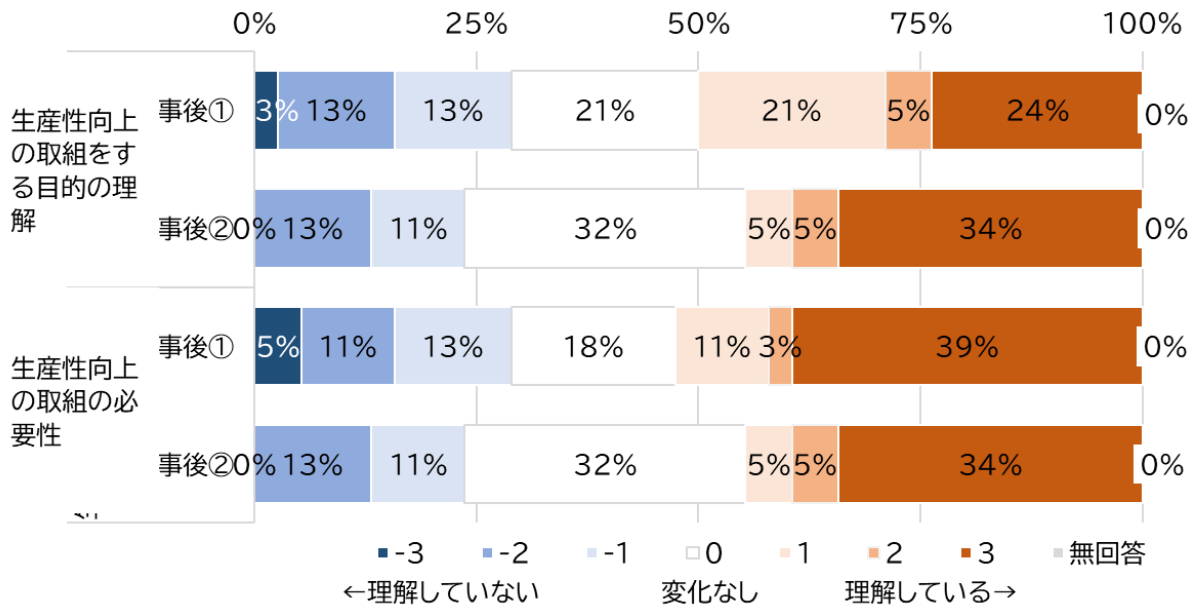
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

ウ. 機器導入の必要性の理解

機器導入の必要性の理解に関する結果は以下の通り。

図表 IX-21 機器導入の必要性の理解

		←理解していない							理解している→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
生産性向上の取組をする目的の理解	事後①	人数(人)	1	5	5	8	8	2	9	0	38	
		割合	3%	13%	13%	21%	21%	5%	24%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	5	4	12	2	2	13	0	38	
		割合	0%	13%	11%	32%	5%	5%	34%	0%	100%	
生産性向上の取組の必要性	事後①	人数(人)	2	4	5	7	4	1	15	0	38	
		割合	5%	11%	13%	18%	11%	3%	39%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	5	4	12	2	2	13	0	38	
		割合	0%	13%	11%	32%	5%	5%	34%	0%	100%	



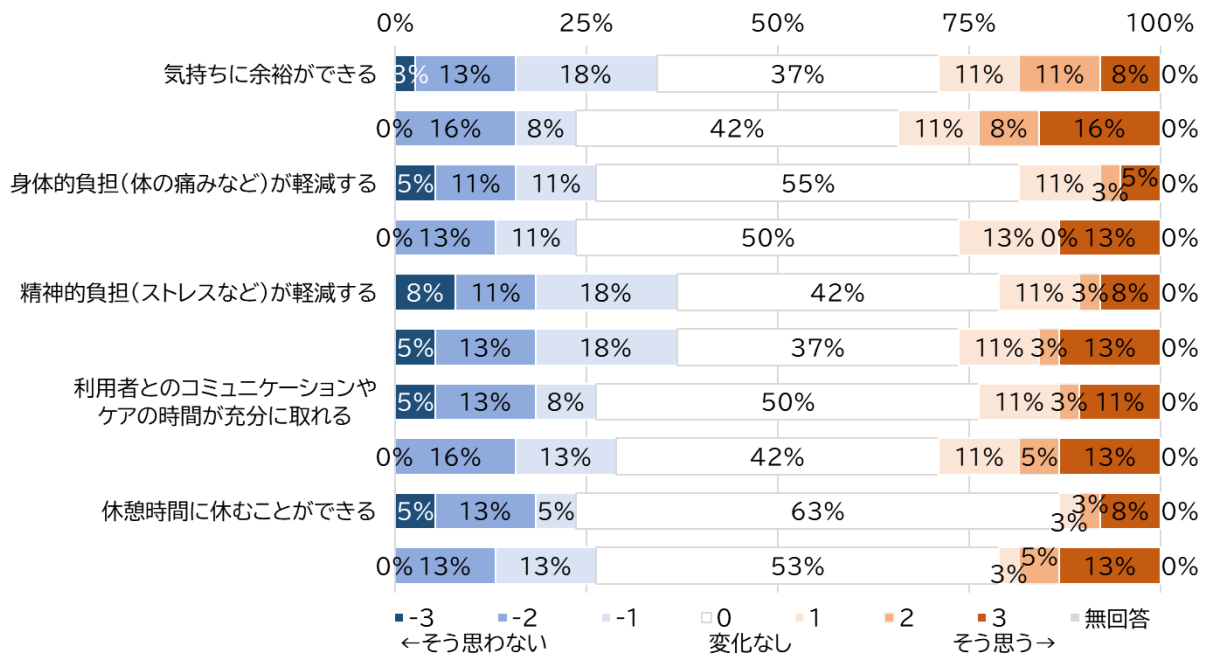
※質問項目に対し、-3(理解していない)~+3(理解している)の7段階で評価した。

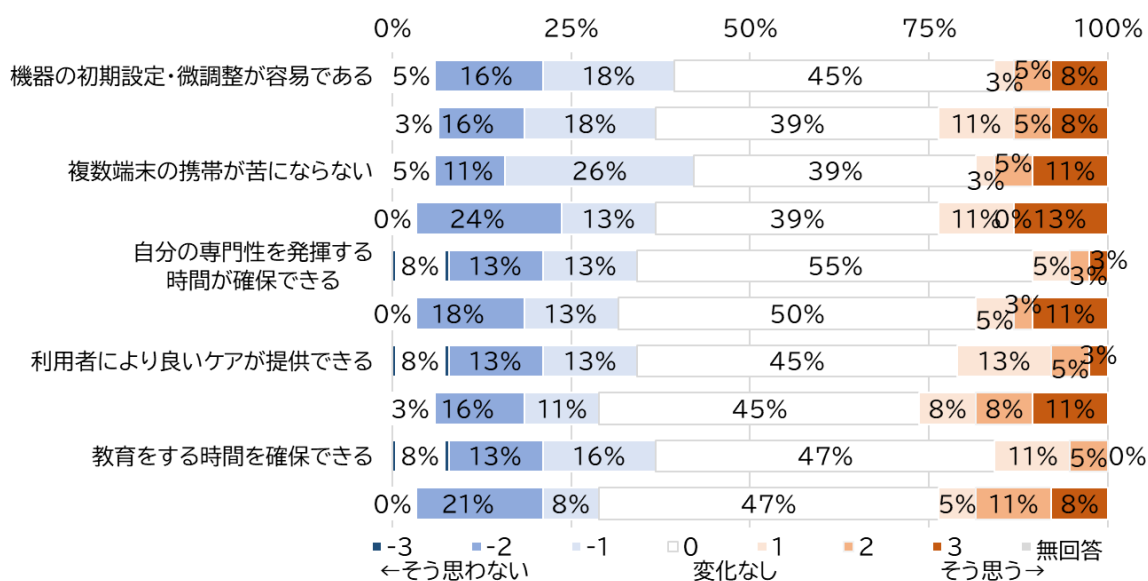
工. 機器導入による職員や施設業務の変化

生産性向上の取組による職員や施設業務の変化の結果は以下の通り。

図表 IX-22 生産性向上の取組による職員や施設業務の変化

		←そう思わない							変化なし			→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3	0	1	2	3				
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人)	1	5	7	14	4	4	4	3	0	0	38			
	割合	3%	13%	18%	37%	11%	11%	8%	0%	0%	100%					
	事後②	人数(人)	0	6	3	16	4	3	6	0	0	38				
	割合	0%	16%	8%	42%	11%	8%	16%	0%	0%	100%					
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人)	2	4	4	21	4	1	2	0	0	38				
	割合	5%	11%	11%	55%	11%	3%	5%	0%	0%	100%					
	事後②	人数(人)	0	5	4	19	5	0	5	0	0	38				
	割合	0%	13%	11%	50%	13%	0%	13%	0%	0%	100%					
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人)	3	4	7	16	4	1	3	0	0	38				
	割合	8%	11%	18%	42%	11%	3%	8%	0%	0%	100%					
	事後②	人数(人)	2	5	7	14	4	1	5	0	0	38				
	割合	5%	13%	18%	37%	11%	3%	13%	0%	0%	100%					
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人)	2	5	3	19	4	1	4	0	0	38				
	割合	5%	13%	8%	50%	11%	3%	11%	0%	0%	100%					
	事後②	人数(人)	0	6	5	16	4	2	5	0	0	38				
	割合	0%	16%	13%	42%	11%	5%	13%	0%	0%	100%					
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人)	2	5	2	24	1	1	3	0	0	38				
	割合	5%	13%	5%	63%	3%	3%	8%	0%	0%	100%					
	事後②	人数(人)	0	5	5	20	1	2	5	0	0	38				
	割合	0%	13%	13%	53%	3%	5%	13%	0%	0%	100%					
機器の初期設定・微調整が煩雑である	事後①	人数(人)	2	6	7	17	1	2	3	0	0	38				
	割合	5%	16%	18%	45%	3%	5%	8%	0%	0%	100%					
	事後②	人数(人)	1	6	7	15	4	2	3	0	0	38				
	割合	3%	16%	18%	39%	11%	5%	8%	0%	0%	100%					
複数端末の携帯が煩雑である	事後①	人数(人)	2	4	10	15	1	2	4	0	0	38				
	割合	5%	11%	26%	39%	3%	5%	11%	0%	0%	100%					
	事後②	人数(人)	0	9	5	15	4	0	5	0	0	38				
	割合	0%	24%	13%	39%	11%	0%	13%	0%	0%	100%					
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人)	3	5	5	21	2	1	1	0	0	38				
	割合	8%	13%	13%	55%	5%	3%	3%	0%	0%	100%					
	事後②	人数(人)	0	7	5	19	2	1	4	0	0	38				
	割合	0%	18%	13%	50%	5%	3%	11%	0%	0%	100%					
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人)	3	5	5	17	5	2	1	0	0	38				
	割合	8%	13%	13%	45%	13%	5%	3%	0%	0%	100%					
	事後②	人数(人)	1	6	4	17	3	3	4	0	0	38				
	割合	3%	16%	11%	45%	8%	8%	11%	0%	0%	100%					
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人)	3	5	6	18	4	2	0	0	0	38				
	割合	8%	13%	16%	47%	11%	5%	0%	0%	0%	100%					
	事後②	人数(人)	0	8	3	18	2	4	3	0	0	38				
	割合	0%	21%	8%	47%	5%	11%	8%	0%	0%	100%					





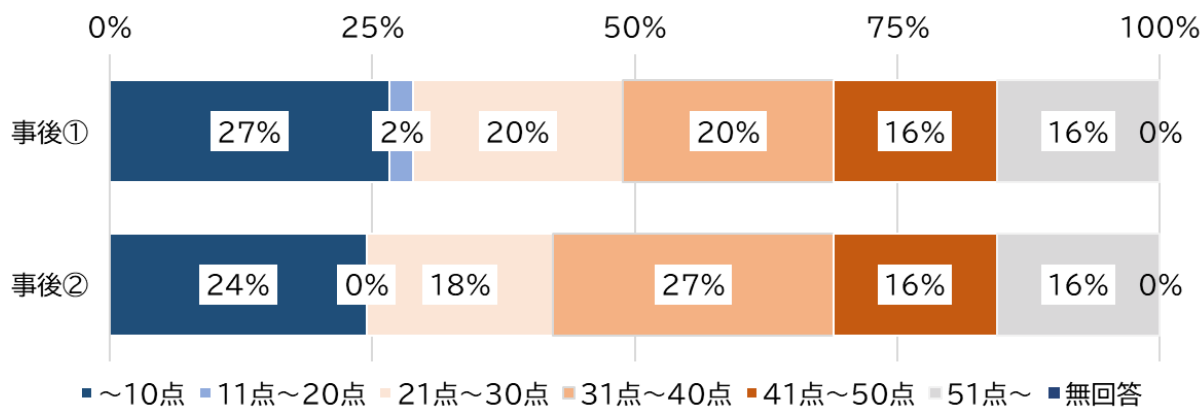
※質問項目に対し、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の7段階で評価した。

オ. 全体的な満足度評価

全体的な満足度評価の結果は以下の通り。

図表 IX-23 全体的な満足度評価

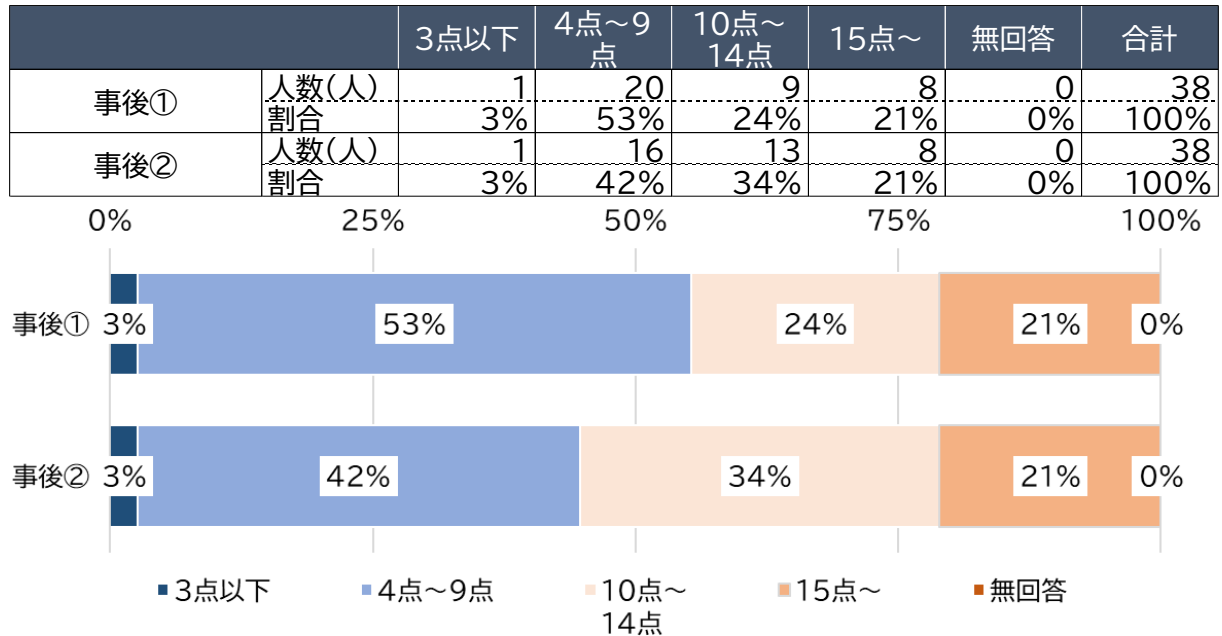
		～10点	11点～20点	21点～30点	31点～40点	41点～50点	51点～	無回答	合計	
全体的な満足度評価	事後①	人数(人)	12	1	9	9	7	7	0	45
	割合		27%	2%	20%	20%	16%	16%	0%	100%
事後②	人数(人)	11	0	8	12	7	7	0	45	
	割合		24%	0%	18%	27%	16%	16%	0%	100%



カ. 記録業務の質の向上

記録業務の質の向上の結果は以下の通り。なお、点数については記録業務の負担や手間等の改善状況を6項目、0～3点で回答し、それらの合計点数(最小:0点、最大:18点)として数値化した。

図表 IX-24 記録業務の質の向上



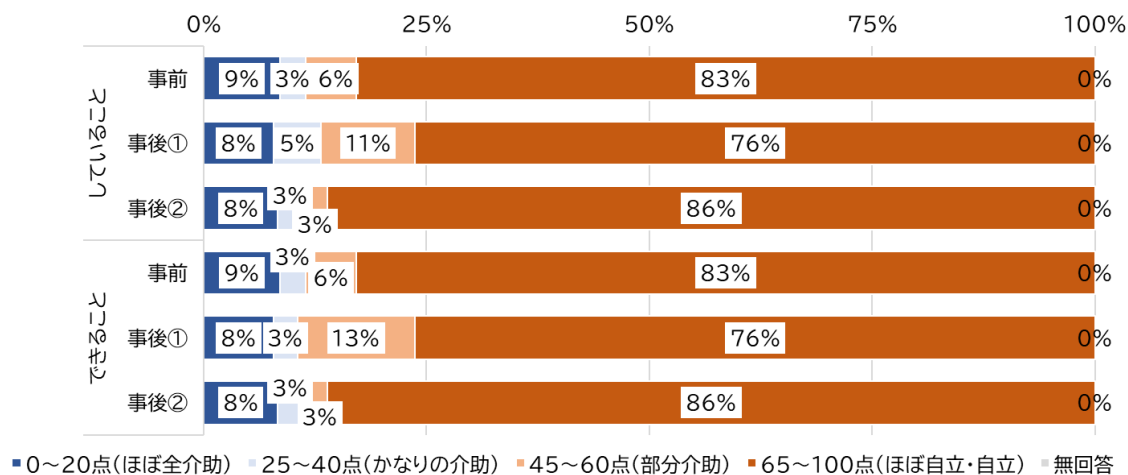
(4) 利用者向けアンケート調査結果

ア. ADLの変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の結果は以下の通り。

図表 IX-25 日常生活動作(ADL)(Barthel Index)

		0点～20点	25点～40点	45点～60点	65点～100点	無回答	合計	
していること	事前	人数(人)	3	1	2	29	0	35
		割合	9%	3%	6%	83%	0%	100%
	事後①	人数(人)	3	2	4	29	0	38
		割合	8%	5%	11%	76%	0%	100%
事後②	人数(人)	3	1	1	31	0	36	
	割合	8%	3%	3%	86%	0%	100%	
できること	事前	人数(人)	3	1	2	29	0	35
		割合	9%	3%	6%	83%	0%	100%
	事後①	人数(人)	3	1	5	29	0	38
		割合	8%	3%	13%	76%	0%	100%
事後②	人数(人)	3	1	1	31	0	36	
	割合	8%	3%	3%	86%	0%	100%	

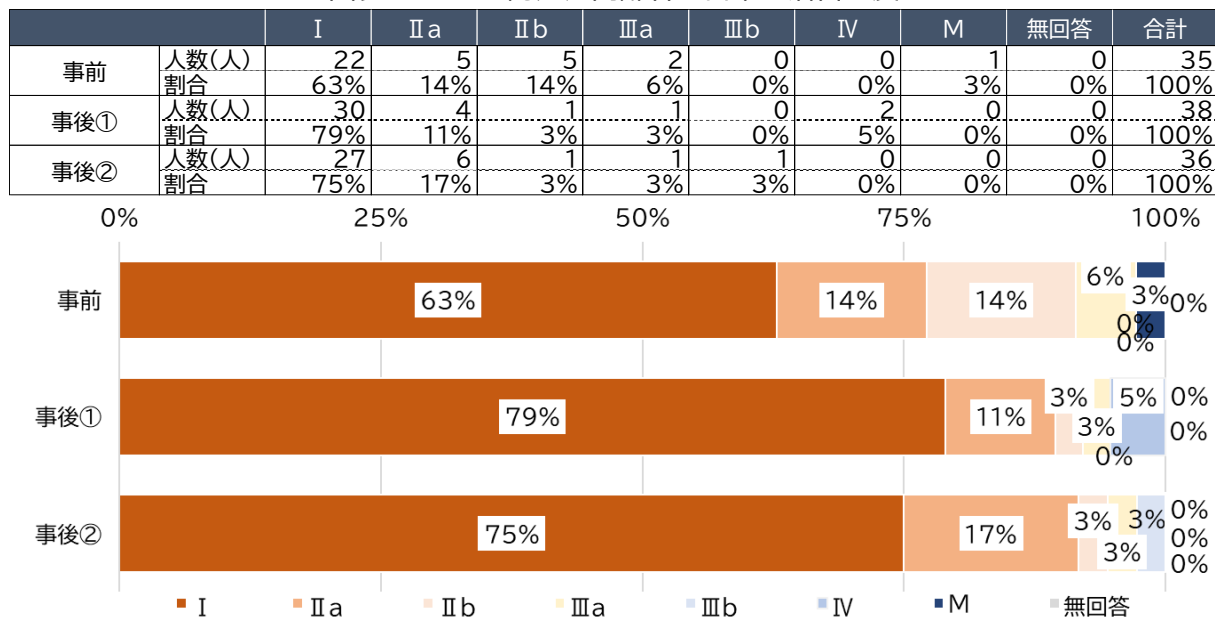


※事前調査または事後調査①・②で、各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の結果は以下の通り。

図表 IX-26 認知症高齢者の日常生活自立度

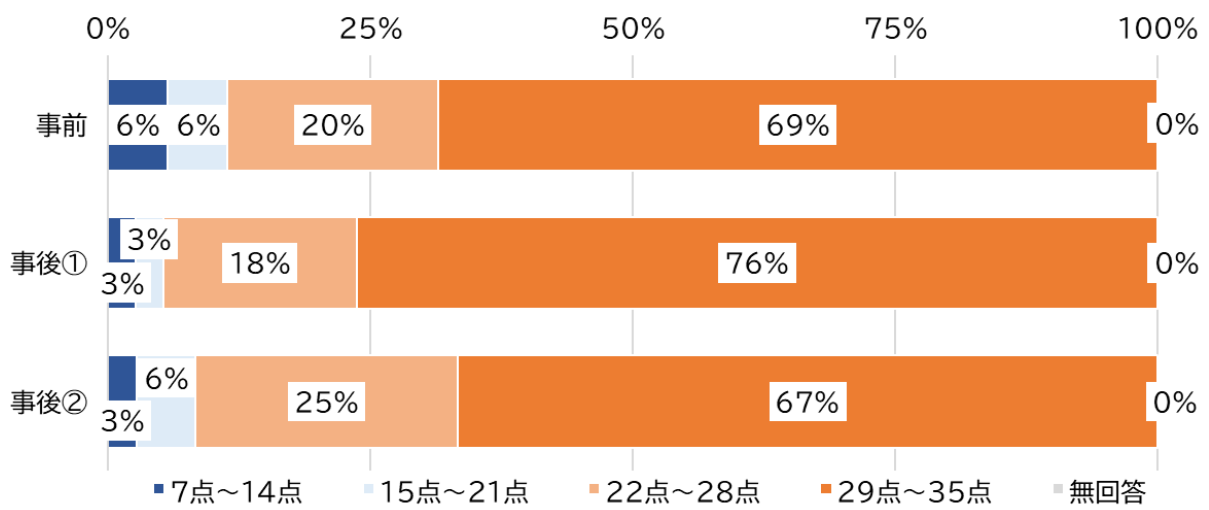


ウ. 認知機能の変化(生活・認知機能尺度)

認知症高齢者の生活・認知機能尺度の結果は以下の通り。

図表 IX-27 生活・認知機能尺度

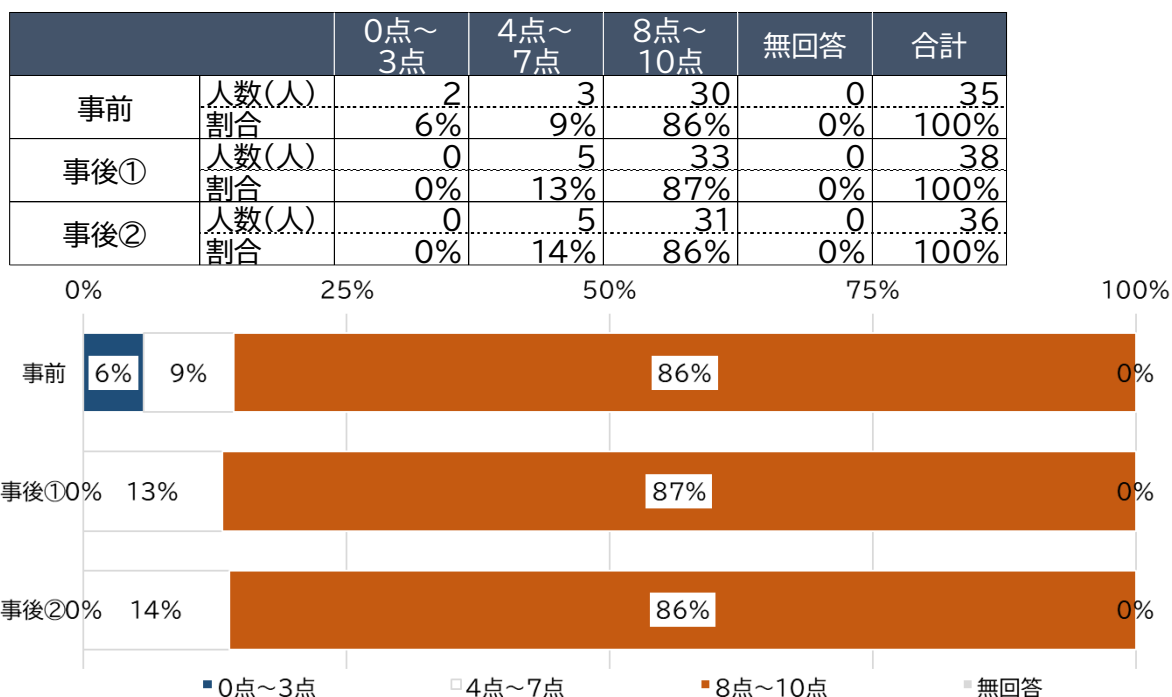
		7点～ 14点	15点～ 21点	22点～ 28点	29点～ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	2	2	7	24	0	35
	割合	6%	6%	20%	69%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	1	7	29	0	38
	割合	3%	3%	18%	76%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	2	9	24	0	36
	割合	3%	6%	25%	67%	0%	100%



工. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の結果は以下の通り。

図表 IX-28 Vitality Index



※事前調査または事後調査で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2 以外の場合は無回答処理をした。

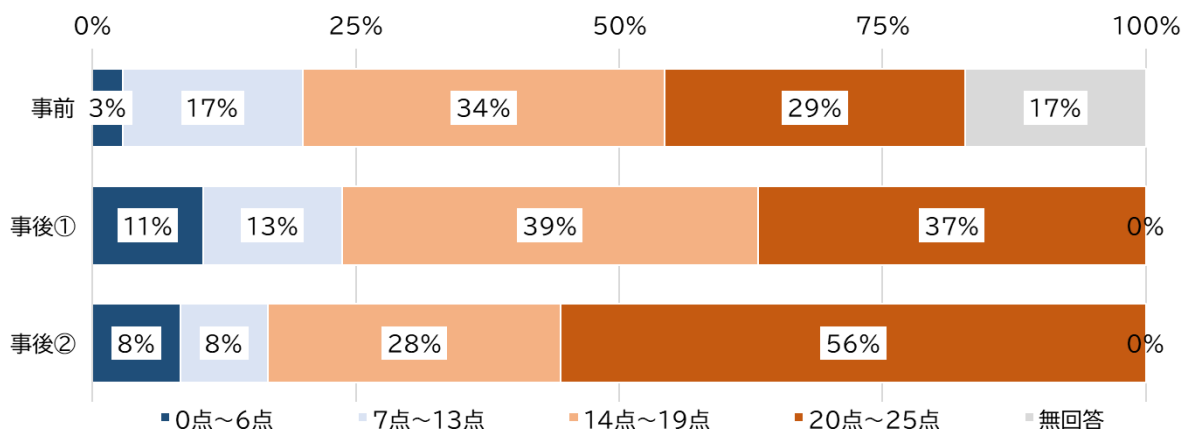
※Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに 0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

オ. QOL の変化(WHO-5)

WHO-5 の結果は以下の通り。

図表 IX-29 WHO-5

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
事前	人数(人)	1	6	12	10	6	35
	割合	3%	17%	34%	29%	17%	100%
事後①	人数(人)	4	5	15	14	0	38
	割合	11%	13%	39%	37%	0%	100%
事後②	人数(人)	3	3	10	20	0	36
	割合	8%	8%	28%	56%	0%	100%



※事前または事後で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

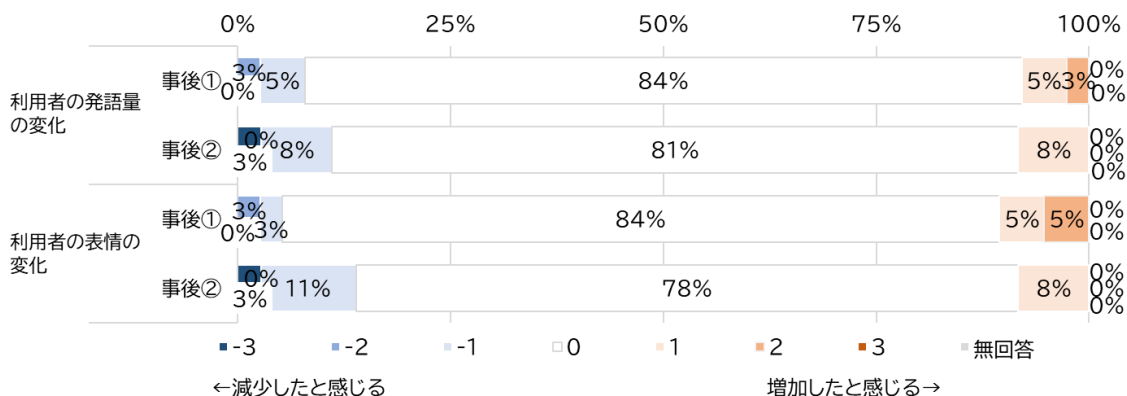
※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

カ. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化の結果は以下の通り。

図表 IX-30 コミュニケーションの変化

		←減少したと感ずる					増加したと感ずる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者の発語量の変化	事後①	人数(人)	0	1	2	32	2	1	0	0	38
		割合	0%	3%	5%	84%	5%	3%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	3	29	3	0	0	0	36
		割合	3%	0%	8%	81%	8%	0%	0%	0%	100%
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	人数(人)	0	1	1	32	2	2	0	0	38
		割合	0%	3%	3%	84%	5%	5%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	4	28	3	0	0	0	36
		割合	3%	0%	11%	78%	8%	0%	0%	0%	100%



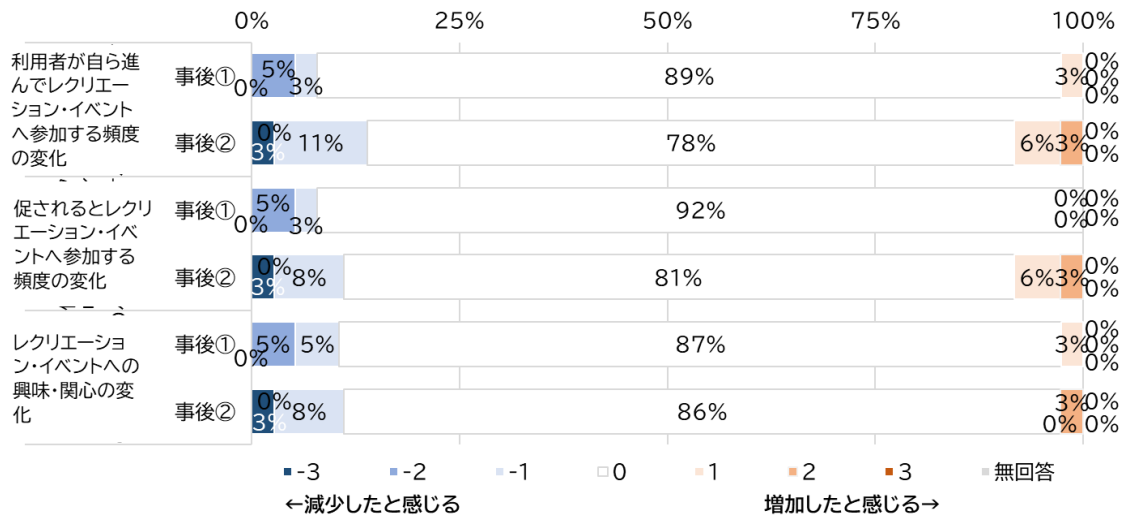
※質問項目に対し、-3(減少したと感ずる)~+3(増加したと感ずる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

キ. 社会参加の変化

レクリエーション・イベントへの参加状況の変化の結果は以下の通り。

図表 IX-31 レクリエーション・イベントへの参加状況の変化

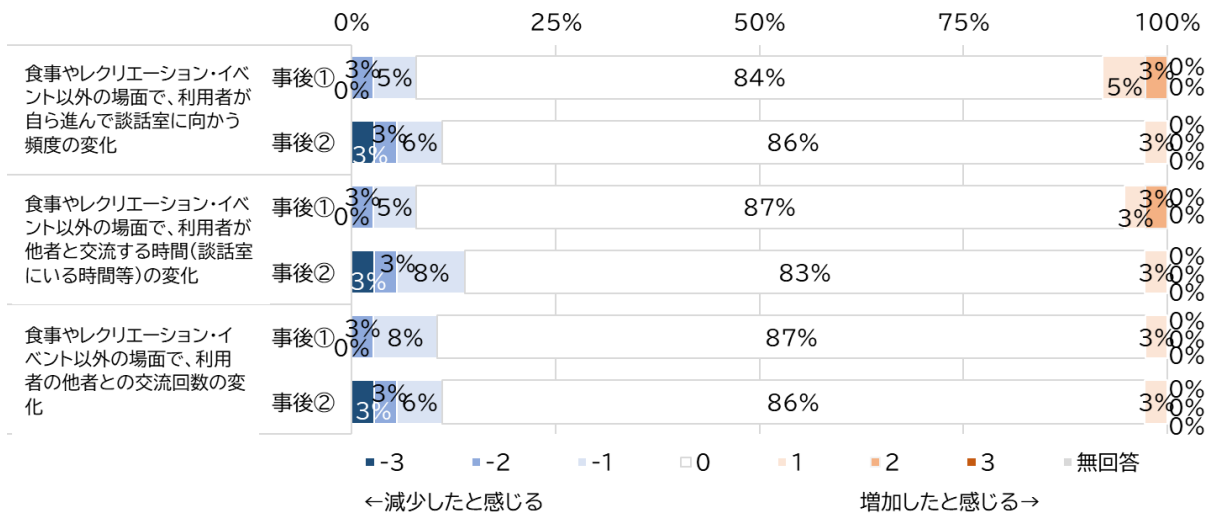
			←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	2	1	34	1	0	0	0	0	38
		割合	0%	5%	3%	89%	3%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	4	28	2	1	0	0	0	36
		割合	3%	0%	11%	78%	6%	3%	0%	0%	0%	100%
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	2	1	35	0	0	0	0	0	38
		割合	0%	5%	3%	92%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	3	29	2	1	0	0	0	36
		割合	3%	0%	8%	81%	6%	3%	0%	0%	0%	100%
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	2	2	33	1	0	0	0	0	38
		割合	0%	5%	5%	87%	3%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	0	3	31	0	1	0	0	0	36
		割合	3%	0%	8%	86%	0%	3%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

図表 IX-32 食事やレクリエーション・イベント以外の場面での他者との交流の変化

			←減少したと感じる→					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	0	1	2	32	2	1	0	0	0	38
		割合	0%	3%	5%	84%	5%	3%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	2	31	1	0	0	0	0	36
		割合	3%	3%	6%	86%	3%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	0	1	2	33	1	1	0	0	0	38
		割合	0%	3%	5%	87%	3%	3%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	3	30	1	0	0	0	0	36
		割合	3%	3%	8%	83%	3%	0%	0%	0%	0%	100%
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	0	1	3	33	1	0	0	0	0	38
		割合	0%	3%	8%	87%	3%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	2	31	1	0	0	0	0	36
		割合	3%	3%	6%	86%	3%	0%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

(5) 業務時間等記録調査結果

職員1人1か月当たりの所定外労働時間について、集計結果は以下の通り。

図表 IX-33 職員1人1か月当たりの所定外労働時間

		残業なし	5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上 15時間未満	15時間以上	平均時間
令和6年9月～12月(n=43)	人数(人)	24	9	2	2	6	4.56
	割合	56%	21%	5%	5%	14%	
令和7年9月～12月(n=46)	人数(人)	27	6	3	1	9	5.49
	割合	59%	13%	7%	2%	20%	

職員1人12か月当たりの有給休暇取得日数について、集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12か月に満たない場合、取得日数(a)を実績を把握した月(b)で除し、12か月換算した推計値(a/b×12)を算出し、以下に取りまとめた。

図表 IX-34 有給休暇の取得状況の変化

		0日	5日未満	5日以上 10日未満	10日以上 15日未満	15日以上	平均日数
令和6年度(n=46)	人数(人)	22	12	5	7	0	3.26
	割合	48%	26%	11%	15%	0%	
令和7年度(n=24)	人数(人)	15	2	1	5	1	3.75
	割合	63%	8%	4%	21%	4%	

実証期間中のヒヤリハット・事故についての結果は以下の通り。

図表 IX-35 実証期間中のヒヤリハットの内容・再発防止策

内容	再発防止策
利用者様の買い物依頼があり、スマホのラインで間違いがないように送信している。以前も購入希望があり、レシートの写メを見て購入し、見てもらうとこれではないと言われる。交換に行くが生ものは交換できず、不快な思いをさせてしまう。	交換ができない場合は事業所で買い取り、希望の品を購入し、対応すれば良かった事を話し合う。不快な思いをさせないように、いつもと違うことがあったら、すぐ事業所に連絡するというマニュアルを再度、共有となった。
ケア終了時、スマートフォンに入力しようとしたら、ケア時間を 30 分間違っていた事に気づき、ハットした。	ケア時間を十分に何度も確認する。
送迎時にチャイムを鳴らさずに玄関を開けたため、家族が驚かれた。	送迎時にチャイムを鳴らすことを職員に再認識、確認。
レクゲーム中利用者がボールを転がした際、後ろに倒れそうになった。	安全確認を再度行う。

(6) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の 2 項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証時発生した課題とその対応について

図表 IX-36 実証時発生した課題とその対応について

施設名	カテゴリ	主なご意見
デイサービスセンターであい	職員	<ul style="list-style-type: none"> 若手メンバーは介護記録ソフトを使いこなすことができたが、<u>年齢層の高いメンバーは使い方に慣れることが難しかった。</u>
もつすみよしハッピーデイ	職員	<ul style="list-style-type: none"> <u>介護記録ソフトと並行して従来の紙の記録も作成したため、負担が大きかった。</u> <u>異なるデバイスへの転送時にエラーが起こることが多かった。ICT 機器に慣れていない場合はパニックになってしまうのではないか。</u>
もつすみよしハッピーデイ	事業所全体	<ul style="list-style-type: none"> <u>将来的な使用を見据えると、導入費用がネックである。中小規模事業所であるため費用対効果が高いとは感じなかった。</u>

施設名	カテゴリ	主なご意見
		<ul style="list-style-type: none"> 他事業所と記録を連携するニーズは高いが、同じ介護記録ソフトを用いていないと連携できない点がネックである。
JA 庄内みどり福祉センター	利用者	<ul style="list-style-type: none"> <u>紙で記録を作成していた頃とは異なり、介護記録ソフトは内容をそのまま利用者や家族と共有することはできない。そのため、介護記録の閲覧を希望される場合には、利用者との連絡ノートやカレンダーに記録を転記するといった対応を行うケースがあった。</u>
ときわ介護サービス	職員	<ul style="list-style-type: none"> <u>記録を他のデバイスに送信する際にエラーが発生することが多かった。</u> <u>訪問先でケア内容が変更になった際、その場で記録の変更ができない点が不便だった。</u>
ときわ介護サービス	利用者	<ul style="list-style-type: none"> <u>介護記録ソフトの利用を嫌がる利用者が多かった。その場合は、紙で記録を作成し、その写真を介護記録ソフトにアップロードする形で対応した。</u>
ときわ介護サービス	事業所全体	<ul style="list-style-type: none"> <u>介護記録ソフトを使用することでペーパーレス化につながる一方、ソフトの導入費用や通信費がかかる点が懸念である。</u>

② 機器導入による効果について

図表 IX-37 機器導入による効果について

施設名	カテゴリ	主なご意見
ケアセンターであい	職員	<ul style="list-style-type: none"> <u>記録・文書作成時間が少なくなった結果、残業時間が減った。また、職員に精神的ゆとりが生まれた。</u> <u>紙で記録を作成していた時は、事業所に戻って記録を作成する必要があったが、介護記録ソフトを導入したことでロスタイムが減った。その結果、訪問回数が増加したとともに、訪問先からの直帰ができるようになった。</u> <u>導入時は不安があったが、時間の経過とともに慣れることができた。</u>
ケアセンターであい	事業所全体	<ul style="list-style-type: none"> <u>ペーパーレス化ができるので、経営面でも記録整理の観点でもよかった。</u>
デイサービスセンターであい	職員	<ul style="list-style-type: none"> <u>記録・文書作成時間が少なくなった結果、残業時間を減らすことができた。</u>
デイサービスセンターであい	利用者	<ul style="list-style-type: none"> <u>記録・文書作成時間が少なくなった結果、利用者との会話やレクリエーションに時間を割けるようになった。</u>

施設名	カテゴリ	主なご意見
デイサービスセンターであい	事業所全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>ペーパーレス化につながった点良かった。</u>
もとすみよしハッピーデイ	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>紙の記録と比べて、どこでも誰でも参照できる点が魅力だと感じた。他事業所との連携時や家族との情報連携の際にすぐに記録を見つけることができる。</u> • <u>記録項目等のカスタマイズが可能なので、記録を選択式にする等工夫することで記録の負担を削減することが可能ではないか。</u> • 若手職員が多いため、抵抗感なく介護記録ソフトを活用することができた。
JA 庄内みどり福祉センター	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>月末の請求作業時の転記作業の時間が減少したことで、担当者会議の記録や訪問介護計画書の作成により多くの時間を充てることができるようになった。</u> • <u>介護記録ソフトを用いることで、介護記録を一覧化して読むことができるため、計画書作成時に手書きの介護記録を探して読む必要がなくなった。</u> • これまでは、介護職員間での介護記録の共有時は必ずサービス提供責任者による一次確認作業が必要だったが、<u>介護記録ソフトを導入したことで、簡単な内容についてはサービス提供責任者を介さずに共有できるようになり、負担が軽減した。</u> • <u>記録に写真が添付できるので、利用者の身体の状態や家屋の状況等を視覚的に伝えることができ、記録の質が向上した。</u> • <u>急なシフト変更や利用者の体調変化による担当変更の際、介護記録ソフト上で修正することでよりスムーズで効率的に他の介護職員に情報を共有できるようになった。</u>
JA 庄内みどり福祉センター	利用者	<ul style="list-style-type: none"> • <u>介護記録ソフトを導入している点について、高く評価する利用者もいた。</u>
JA 庄内みどり福祉センター	事業所全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>介護記録ソフトを活用することで、複写式の紙記録媒体を用意する必要がなくなるため、経費の削減につながるのではないか。</u>
ときわ介護サービス	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>実施すべきケア内容が全て介護記録ソフトに書かれているので、確認漏れが少なくなった。</u> • <u>急なキャンセルの発生時に介護記録ソフトを用いて連絡することができるため、負担の軽減につながった。</u>

施設名	カテゴリ	主なご意見
シユクルケアデイサービス リハ&SPA	職員	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録ソフトを用いたことで、記録・文書作成や転記作業の時間を削減することができた。 使い方が誰にでも使いやすい点良かった。
シユクルケアデイサービス リハ&SPA	利用者	<ul style="list-style-type: none"> <u>記録・文書作成や転記作業の時間を削減することができた結果、利用者とかかわる時間を増やすことができた。</u>

【B】腰痛リスクの把握と対応

1. 実証概要

(1) 実証目的

訪問系サービス及び通所系サービスにおける移乗支援機器(装着・非装着)および移動用リフトの活用による介護サービスの質の維持・向上、職員の負担軽減、業務効率化等の観点の効果を把握する。

(2) 実証仮説

テクノロジー導入を通じたリスクの変化を職員によるアセスメントとアンケート、計測機器で把握することで、職場の腰痛リスクへの対応を具体的に検討できる。

(3) 実証機器

本実証では以下の機器を用いた。

図表 IX-38 実証で使用した機器

No	メーカー名	機器名	機器タイプ別の区分
1	株式会社イノフィス	マッスルスーツ Soft-Power	移乗支援機器(装着)
2	株式会社 FUJI	Hug	移乗支援機器(非装着)
3	株式会社ミクニ	マイティエース II	移動用リフト

図表 IX-36 計測機器

No	メーカー名	機器名
1	日本ケアリフトサービス株式会社	腰痛リスク計測システム Malpos Major

(4) 対象事業所

本実証の対象事業所は以下の通り。

図表 IX-39 実証対象施設

No	法人名	施設名	導入機器
1	株式会社やさしい手	やさしい手 あざみ野訪問介護事業所	マッスルスーツ Soft-Power
2	株式会社カンケイ舎	クローバーケアステーション船橋	Hug
3	LIVE&LEARN 合同会社	24時間在宅介護・看護ちどり	マイティエース II

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

実証対象施設に応じ、調査の時期は以下の通りである。

なお、調査スケジュールを考慮し、クローバーケアステーション船橋では事後調査は1回のみ行い、24時間在宅介護・看護ちどりでは導入機器の使用者と非使用者を対象に同時期に調査(以下「通し調査」という。)を実施した。

図表 IX-40 調査の時期

施設名	調査	時期
やさしい手 あざみ野訪問介 護事業所	事前調査	令和7年9月のうち平日5日間
	事後調査①	令和7年10月のうち平日5日間
	事後調査②	令和7年11月のうち平日5日間
	ヒアリング調査	令和8年1月22日
クローバーケアス テーション船橋	事前調査	令和8年1月のうち平日5日間
	事後調査	令和8年1月のうち平日5日間
	ヒアリング調査	令和8年2月3日
24時間在宅介 護・看護ちどり	通し調査	令和8年2～3月のうち平日5日間
	ヒアリング調査	令和8年1月22日

※新型コロナウイルス感染症の影響や機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査、通し調査にて、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、「チェックリストを用いたアセスメント」、「訪問記録票」、「計測機器による調査」を実施、および「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 IX-41 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
職員向けアンケート調査	実証対象の介護職員	<ul style="list-style-type: none"> ● 回答方式:自記式またはWebによる回答 ● 調査スケジュール: <ul style="list-style-type: none"> ➢ 事前と事後調査にて、実証期間中それぞれについて、職員1名につき1回のみ回答 ➢ 通し調査では、実証期間中について、職員1名につき1回のみ回答
利用者向けアンケート調査	実証対象の利用者全員	<ul style="list-style-type: none"> ● 回答方式:自記式またはWebによる回答 ※職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のプレを防止するため、可能な限り同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依

調査名	調査対象者	調査概要
		頼 ・ 調査スケジュール: ▶ 事前と事後調査にて、実証期間中それぞれについて、職員1名につき1回のみ回答 ▶ 通し調査では、実証期間中について、職員1名につき1回のみ回答
チェックリストを用いたアセスメント	実証対象の介護職員	・ 調査方法:自記式 ・ 調査スケジュール:事前調査、事後調査、通し調査の終了後に、実証に参加した職員全員が1回回答
訪問記録票	実証対象の介護職員	・ 回答方式:自記式 ・ 調査スケジュール:事前調査、事後調査、通し調査の実証期間中、調査対象となる利用者への訪問時に、提供したサービスを記録 ・ なお、本調査の対象は、計測機器による調査を実施したクローバーケアステーション船橋および24時間在宅介護・看護ちどりとした
計測機器による調査	実証対象の介護職員	・ 回答方式:計測機器による自動測定 ・ 調査スケジュール:事前調査、事後調査、通し調査の実証期間中、調査対象となる利用者への訪問時に、当該計測機器を装着し、動作の一部(前傾とひねり)の回数や時間を計測 ・ なお、本調査の対象はクローバーケアステーション船橋および24時間在宅介護・看護ちどりとした
ヒアリング調査	施設管理者等	・ 調査方法:Web 会議または訪問(対面)による聞き取り ・ 調査スケジュール:実証期間中に1回実施

ウ. 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの工夫・変更の内容

本実証の対象施設においては、以下の通りオペレーションの変更を実施した。

図表 IX-42 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容

施設名	A.通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、 目指すところ
やさしい手 あざみ野訪問介護事業所	・ 訪問介護員の腰痛対策に関して、現状介護テクノロジーの活用は行っていない	・ 身体介護のご利用者に対して、実証期間中はテクノロジーを最大限活用して	・ 訪問介護員の身体的な負担を軽減する

施設名	A.通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、 目指すところ
	い	サービス提供を行う	
クローバーケアステーション船橋	<ul style="list-style-type: none"> 訪問介護員の腰痛対策に関して、現状介護テクノロジーの活用は行っていない 	<ul style="list-style-type: none"> Hug の機能を活用し、腰痛防止 二人介助が 1 人介助になること 	<ul style="list-style-type: none"> Hug を活用し、職員の腰痛予防を達成しつつ、適切なケアを提供する
24時間在宅介護・看護ちどり	<ul style="list-style-type: none"> 機器の使用者、非使用者を対象とした調査であるため、機器導入に伴うオペレーション変更は実施していない。 		

(6) 調査項目

調査項目として、職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、チェックリストを用いたアセスメント、訪問記録票、計測機器による調査、ヒアリング調査を行った。

ア. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18 に基づく)と、加えて事後では、生産性向上の取組によるモチベーションの変化、生産性向上の取組による職員や施設業務の変化、生産性向上の取組による働きやすい職場環境づくり、職員間の適切な役割分担(タスク・シフト/シェア)により増やすことができた時間、本実証による業務以外で、役割分担(タスク・シフト/シェア)が可能と考えられる業務、全体的な満足度評価とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

なお、通し調査では、調査終了時に上記の事後調査で用いた調査票で調査を行った。

イ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、対象利用者の ADL の変化、認知機能の変化、心理的な影響(意欲の指標 Vitality index に基づく)、QOL の変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、社会参加の変化、ケアの変更等を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

なお、通し調査では、調査終了時に上記の事後調査で用いた調査票で調査を行った。

ウ. チェックリストを用いたアセスメント

本アセスメントでは、平成 25 年 6 月 18 日付け 基発 0618 第 1 号 厚生労働省労働基準局長通達による「介護作業員の腰痛予防対策チェックリスト」を用い、事前および事後調査の終了時に調査を行った。

なお、通し調査では、調査終了時に調査を行った。

エ. 訪問記録票

訪問記録票による調査では、調査対象となる利用者への訪問時に、提供したサービスを記録した。訪問記録票による調査は、計測機器による調査の対象であるクローバーケアステーション船橋および 24 時間在宅介護・看護ちどりでを行った。

オ. 計測機器による調査

実証期間中、調査対象となる利用者へのサービス提供時に、計測機器を装着し、動作の一部(前傾とひねり)の回数や時間を計測した。

ただし、やさしい手 あざみ野訪問介護事業所 におけるマッスルスーツ Soft-Power による調査では、移乗支援機器と計測機器が干渉するため、計測機器による調査は実施していない。

カ. ヒアリング調査

上記調査とともに、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

2. 実証結果(装着)

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

図表 IX-43 利用者概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	0	2
	割合	0%	100%	0%	100%

図表 IX-44 利用者概要 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-45 利用者概要 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他 (区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	0	2	0	0	0	2
	割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-46 利用者概要 障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%

イ. 職員概要

図表 IX-47 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	0	2
	割合	0%	100%	0%	100%

図表 IX-48 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	割合	0%	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-49 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ職 (機能訓練指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	2	0	0	0	0	0	0	0	2
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-50 職員概要 役職

		経営層	管理者・リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	0	0	0	2
	割合	0%	100%	0%	0%	0%	100%

(2) 職員向けアンケート調査結果

事前調査・事後調査①・②ともに職員向けアンケート調査で回答のあった職員のみを対象とした。

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

ストレス反応が「弱い」割合が事前、事後①、事後②調査いずれにおいても 50%であった。

図表 IX-51 心理的負担評価(SRS-18)

		7点以下	8点～ 19点	20点～ 31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	1	1	0	0	0	2
	割合	50%	50%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	1	0	1	0	0	2
	割合	50%	0%	50%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	0	1	0	0	2
	割合	50%	0%	50%	0%	0%	100%

※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査もしくは事後調査に1度でも回答のあった職員を集計対象とした。また、事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 IX-52 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	0	1	1	0	0	0	2	
		割合	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	1	1	0	0	0	2	
		割合	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	100%	
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	1	0	1	0	0	2	
		割合	0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	1	0	1	0	0	2	
		割合	0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	0%	100%	

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

工. 福祉用具の満足度評価

福祉用具の満足度評価に関する結果は以下の通り。

図表 IX-54 福祉用具の満足度評価

			← そう思わない		変化なし			→ そう思う		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
その福祉用具の大きさ(サイズ,高さ,長さ,幅)に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	1	1	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	1	1	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	100%
その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	2	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	2	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	0	2	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	0	2	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%
その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	1	1	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	1	1	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	100%
その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	1	1	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	1	1	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	100%
その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか？その福祉用具アフターサービスに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
その福祉用具アフターサービスに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	1	1	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	0	1	1	0	2
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	100%

※質問項目に対し、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の7段階で評価した。

オ. 機器の継続利用意向

機器の継続利用意向の結果は以下の通り。

図表 IX-55 機器の継続利用意向

		はい	いいえ	無回答
事後①	人数(人)	1	1	0
	割合	50%	50%	0%
事後②	人数(人)	1	1	0
	割合	50%	50%	0%

カ. 腰の痛みについて

腰の痛みについての結果は以下の通り。

図表 IX-56 腰の痛みについて

			← 良い状態 →					無回答	合計
			1	2	3	4	5		
この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	事前	人数(人)	3	0	2	0	0	0	5
		割合	60%	0%	40%	0%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	2	2	0	0	0	0	4
		割合	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	0	0	0	0	2
		割合	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	事前	人数(人)	1	3	1	0	0	0	5
		割合	20%	60%	20%	0%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	4	0	0	0	0	4
		割合	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	事前	人数(人)	2	1	1	1	0	0	5
		割合	40%	20%	20%	20%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	2	2	0	0	0	0	4
		割合	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	0	0	0	0	2
		割合	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	事前	人数(人)	0	4	0	1	0	0	5
		割合	0%	80%	0%	20%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	2	2	0	0	0	0	4
		割合	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	1	1	0	0	0	0	2
		割合	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたが	事前	人数(人)	2	2	0	1	0	0	5
		割合	40%	40%	0%	20%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	3	1	0	0	0	0	4
		割合	75%	25%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	0	0	0	0	0	2
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	事前	人数(人)	5	0	0	0	0	0	5
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	3	1	0	0	0	0	4
		割合	75%	25%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	0	0	0	0	0	2
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

(3) 利用者向けアンケート調査結果

事前調査・事後調査①・②ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

ア. ADL の変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の結果は以下の通り。

図表 IX-57 日常生活動作(ADL)

		0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計	
していること	事前	人数(人)	2	0	0	0	0	2
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	2	0	0	0	0	2
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	0	0	0	0	2
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%
できること	事前	人数(人)	2	0	0	0	0	2
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後①	人数(人)	2	0	0	0	0	2
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	0	0	0	0	2
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%

※事前調査または事後調査①・②で、各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の結果は以下の通り。

図表 IX-58 認知症高齢者の日常生活自立度

		I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	無回答	合計
事前	人数(人)	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	割合	0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	1	0	0	0	1	0	0	2
	割合	0%	50%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	1	0	0	0	1	0	0	2
	割合	0%	50%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	100%

ウ. 生活・認知機能尺度

生活・認知機能尺度の結果は以下の通り。

図表 IX-59 性格・認知機能尺度

		7点～ 14点	15点～ 21点	22点～ 28点	29点～ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	1	1	0	0	0	2
	割合	50%	50%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	2	0	0	0	2
	割合	0%	100%	0%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	1	0	0	0	2
	割合	50%	50%	0%	0%	0%	100%

エ. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の結果は以下の通り。

図表 IX-60 Vitality Index

		0点～ 3点	4点～ 7点	8点～ 10点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	2	0	0	2
	割合	0%	100%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	2	0	0	2
	割合	0%	100%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	1	1	0	0	2
	割合	50%	50%	0%	0%	100%

※事前調査または事後調査で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2 以外の場合は無回答処理をした。

※Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに 0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

オ. QOL の変化(WHO-5)

WHO-5 の結果は以下の通り。

図表 IX-61 WHO-5

		0点~6点	7点~13点	14点~19点	20点~25点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	2	0	0	0	2
	割合	0%	100%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	0	1	1	0	0	2
	割合	0%	50%	50%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	1	1	0	0	2
	割合	0%	50%	50%	0%	0%	100%

※事前または事後で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

カ. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化の結果は以下の通り。

図表 IX-62 コミュニケーションの変化

		←減少したと感じる				増加したと感じる→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者の発語量の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後①	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%

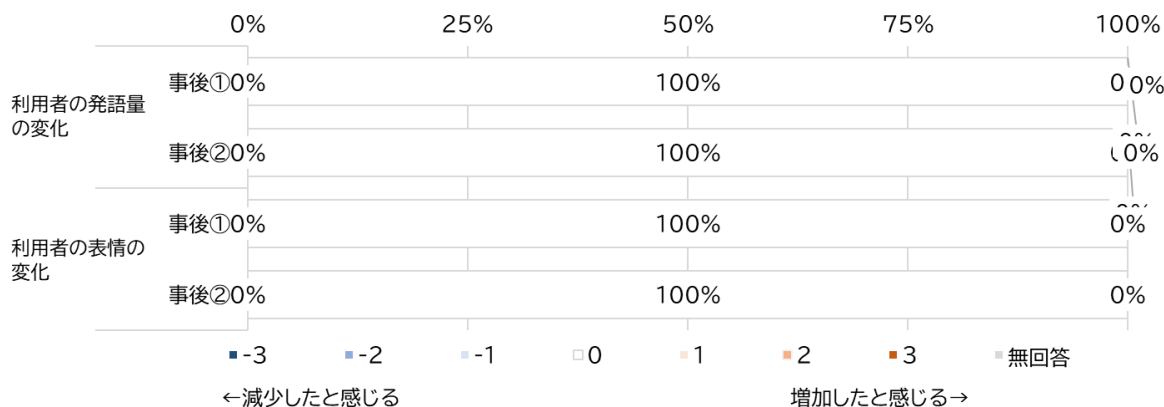
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の 7 段階で評価した(回答は職員が実施)。

キ. コミュニケーション変化の総合的な評価

コミュニケーション変化の総合的な評価の結果は以下の通り。

図表 IX-63 コミュニケーション変化の総合的な評価

		←減少したと感じる				増加したと感じる→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
コミュニケーション変化の総合的な 評価	事後①	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

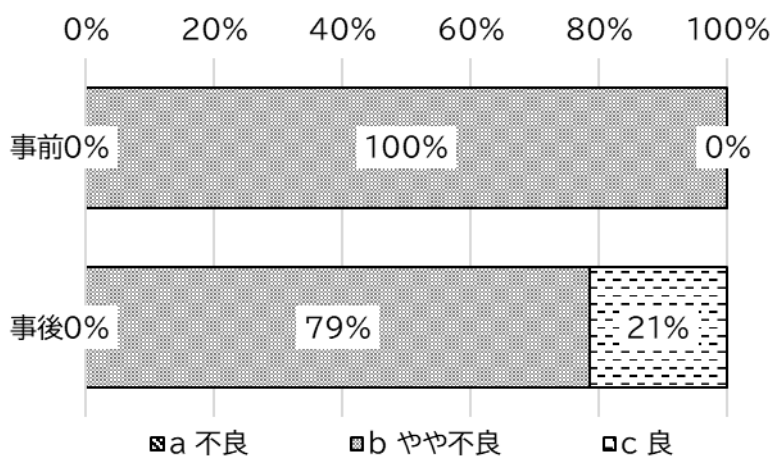
(4) チェックリストを用いたアセスメント

チェックリストを用いたアセスメントでは、調査対象の職員に対し、調査期間中の腰痛予防対策チェックを実施した。調査結果は以下の通りであり、事前・事後調査ともに、本アセスメントを実施した職員は2名である。

なお、本チェックリストを用いたアセスメントでは、調査期間中に提供されたケアに対して腰の状態を把握する調査である。そのため、事前および事後のn数は、当該調査期間中に提供されたケア内容に基づくものとなっている。

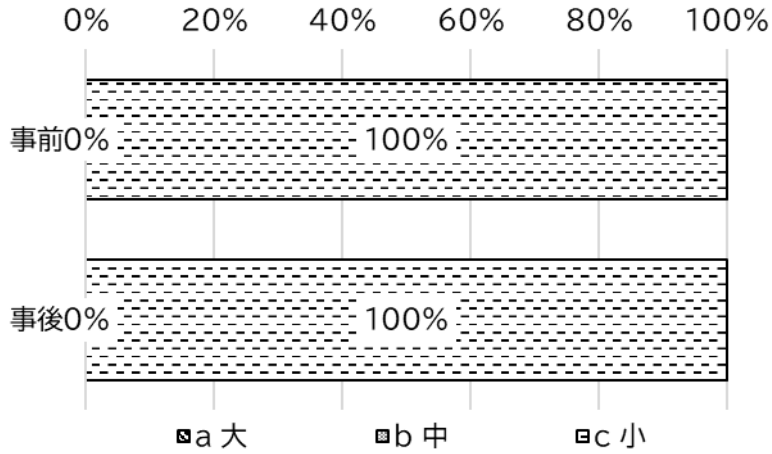
図表 IX-64 作業姿勢

	a 不良	b やや不良	c 良
事前	0	18	0
事後	0	11	3
事前	0%	100%	0%
事後	0%	79%	21%



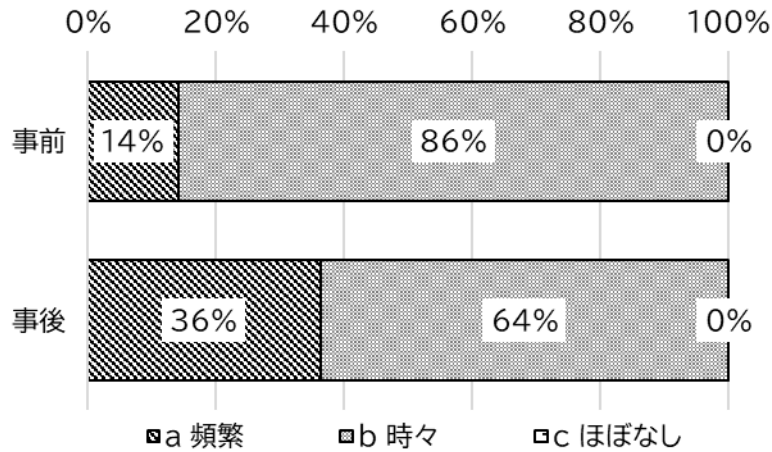
図表 IX-65 重量負荷

	a 大	b 中	c 小
事前	0	0	18
事後	0	0	14
事前	0%	0%	100%
事後	0%	0%	100%



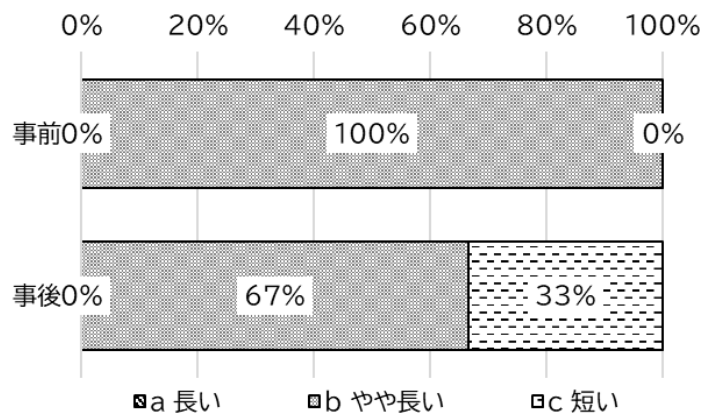
図表 IX-66 頻度

	a 頻繁	b 時々	c ほぼなし
事前	2	12	0
事後	4	7	0
事前	14%	86%	0%
事後	36%	64%	0%



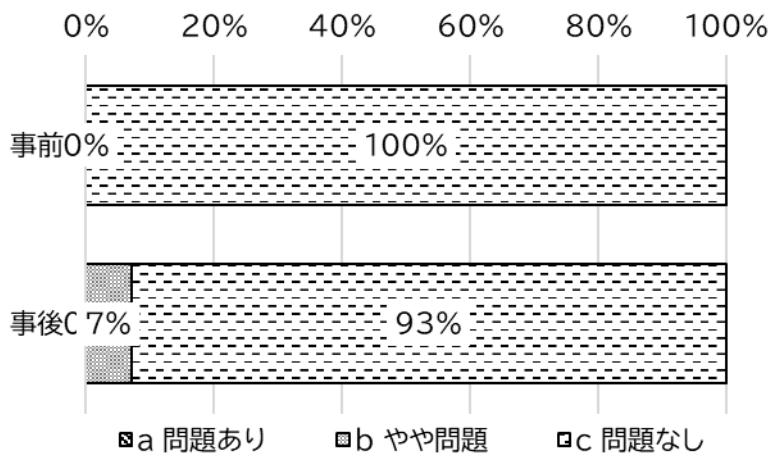
図表 IX-67 作業時間

	a 長い	b やや長い	c 短い
事前	0	4	0
事後	0	2	1
事前	0%	100%	0%
事後	0%	67%	33%



図表 IX-68 作業環境

	a 問題あり	b やや問題	c 問題なし
事前	0	0	18
事後	0	1	13
事前	0%	0%	100%
事後	0%	7%	93%



(5) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の5項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証の結果について

図表 IX-69 実証の結果について

カテゴリ	主なご意見
職員	<ul style="list-style-type: none"> 担当者よりテクノロジーの使用方法の説明を受け、該当する職員もスムーズに使用を開始できた。 <u>排泄ケアなどの腰に負担がある行為には一定の</u>

カテゴリ	主なご意見
	<u>効果があった。</u>
家族	<ul style="list-style-type: none"> 訪問介護員による介助が無い時には家族による介助をしており、テクノロジーを装着しての介助に当たり利用者家族がテクノロジー活用に対し興味関心を示していた。

② 実証時発生した課題とその対応について

図表 IX-70 実証時発生した課題とその対応について

カテゴリ	主なご意見
職員	<ul style="list-style-type: none"> <u>テクノロジーの使用開始当初、装着・脱着に慌ただしさがあった。</u>しかし、使い慣れていくうちにスムーズな装着・脱着ができるようになった。 <u>ケアの提供時、利用者にテクノロジーのバックルが当たってしまうケースがあった。</u>対応を職員間で共有し、より安心安全なケアに努めた。

③ 委員会の開催について

図表 IX-71 委員会の開催について

カテゴリ	主なご意見
職員による会議	<ul style="list-style-type: none"> 職員で安心安全な使い方や効果的な活用方法について共有を行った。

④ 実証目的に対する達成状況について

図表 IX-72 実証目的に対する達成状況について

カテゴリ	主なご意見
テクノロジー活用	<ul style="list-style-type: none"> <u>腰の負担軽減に一定の評価をする。</u>
その他	<ul style="list-style-type: none"> 通所や施設系において、ドライバー等も含めて、腰の安定性にかかる業務であれば全般的に使用できるのではないかと。 腰に不安を持っている方を対象に、施設系であれば本テクノロジーを施設に常備し、職員の状態に応じて適宜使える環境整備などをして良いと思う。

3. 実証結果(非装着)

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

図表 IX-73 利用者概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	0	1
	割合	0%	100%	0%	100%

図表 IX-74 利用者概要 年齢

		70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	割合	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-75 利用者概要 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-76 利用者概要 障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実施	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%

イ. 職員概要

図表 IX-77 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	1	1	0	2
	割合	50%	50%	0%	100%

図表 IX-78 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	0	1	0	1	0	0	0	0	2
	割合	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-79 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	1	1	0	0	0	0	0	0	2
	割合	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-80 職員概要 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	2	0	0	2
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	100%

(2) 職員向けアンケート調査結果

事前調査・事後調査ともに職員向けアンケート調査で回答のあった職員のみを対象とした。

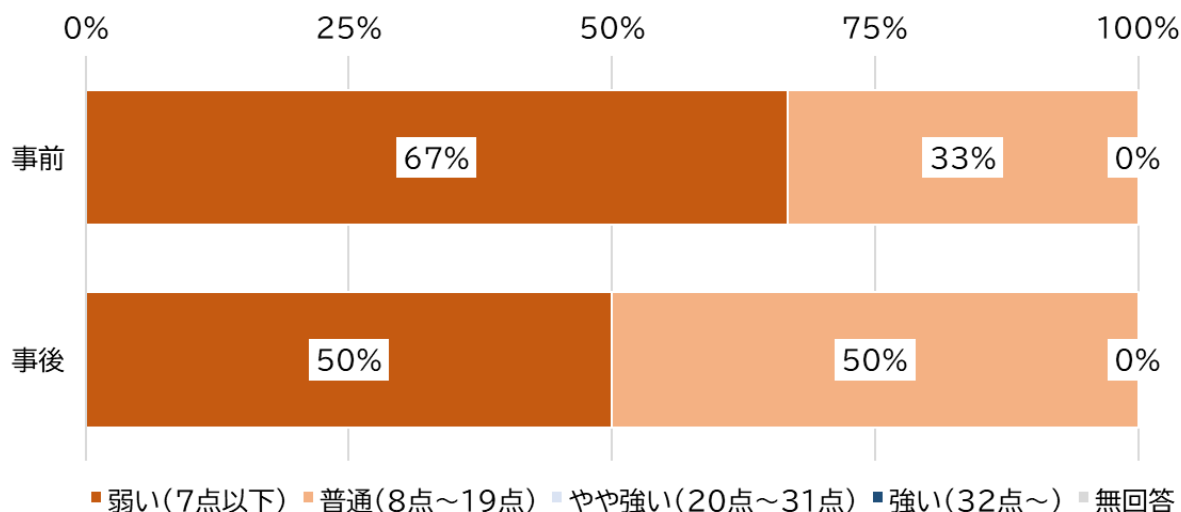
ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

ストレス反応が「弱い」割合が事前調査では、67%であったのに対し、事後では 50%となった。

図表 IX-81 心理的負担評価(SRS-18)

		7点以下	8点～ 19点	20点～ 31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	2	1	0	0	0	3
	割合	67%	33%	0%	0%	0%	100%
事後	人数(人)	1	1	0	0	0	2
	割合	50%	50%	0%	0%	0%	100%



※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査もしくは事後調査に1度でも回答のあった職員を集計対象とした。また、事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 IX-82 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる→				増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
仕事のやりがいの変化	事後	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
職場の活気の変化	事後	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

ウ. 機器導入する前の期間と比較し、機器導入した後の期間における変化

機器導入する前の期間と比較し、機器導入した後の期間における変化の結果は以下の通り。

図表 IX-83 機器導入する前の期間と比較し、機器導入した後の期間における変化

			←そう思わない		変化なし			→そう思う		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
気持ちに余裕ができる	事後	人数(人)	0	0	1	1	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後	人数(人)	1	0	0	1	0	0	0	0	2
		割合	50%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後	人数(人)	1	0	0	1	0	0	0	0	2
		割合	50%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
機器の設定や着脱が煩雑である	事後	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
機器の設定や着脱に時間がかかる	事後	人数(人)	0	1	0	1	0	0	0	0	2
		割合	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
利用者により良いケアが提供できる	事後	人数(人)	0	1	0	0	1	0	0	0	2
		割合	0%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	0%	100%
腰痛リスクが可視化されることで、働きやすい職場づくりに向けた改善が期待	事後	人数(人)	0	1	0	0	0	1	0	0	2
		割合	0%	50%	0%	0%	0%	50%	0%	0%	100%

工. 福祉用具の満足度評価

福祉用具の満足度評価に関する結果は以下の通り。

図表 IX-84 福祉用具の満足度評価

			←そう思わない		変化なし		→そう思う		無回答	合計
			1	2	3	4	5			
その福祉用具の大きさ(サイズ,高さ,長さ,幅)に、どれくらい満足しています	事後	人数(人)	0	2	0	0	0	0	0	2
		割合	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか？	事後	人数(人)	1	1	0	0	0	0	0	2
		割合	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれ	事後	人数(人)	0	0	1	1	0	0	0	2
		割合	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか？	事後	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか？	事後	人数(人)	0	0	0	2	0	0	0	2
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足してい	事後	人数(人)	0	1	0	1	0	0	0	2
		割合	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具の使い心地の良さに、どれ	事後	人数(人)	0	2	0	0	0	0	0	2
		割合	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか？	事後	人数(人)	1	0	1	0	0	0	0	2
		割合	50%	0%	50%	0%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれ	事後	人数(人)	0	0	2	0	0	0	0	2
		割合	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足しています	事後	人数(人)	0	0	1	1	0	0	0	2
		割合	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足し	事後	人数(人)	0	0	1	1	0	0	0	2
		割合	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	100%
その福祉用具アフターサービスに、どれ	事後	人数(人)	0	0	1	1	0	0	0	2
		割合	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	100%

※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価した。

オ. 機器の継続利用意向

機器の継続利用意向の結果は以下の通り。

図表 IX-85 機器の継続利用意向

		はい	いいえ	無回答
事後	人数(人)	1	1	0
	割合	50%	50%	0%

カ. 腰の痛みについて

腰の痛みについての結果は以下の通り。

図表 IX-86 腰の痛みについて

		←良い状態→					悪い状態→	無回答	
		1	2	3	4	5			
この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	事前	人数(人) 割合	1 50%	1 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
	事後	人数(人) 割合	1 50%	1 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	事前	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
	事後	人数(人) 割合	1 50%	1 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	事前	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
	事後	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	事前	人数(人) 割合	1 50%	1 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
	事後	人数(人) 割合	1 50%	1 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いましたが	事前	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
	事後	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	事前	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
	事後	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%

(3) 利用者向けアンケート調査結果

事前調査・事後調査ともに利用者向けアンケート調査で回答のあった利用者のみを対象とした。

ア. ADLの変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の結果は以下の通り。

図表 IX-87 日常生活動作(ADL)

		0点～20点	25点～40点	45点～60点	65点～100点	無回答	合計
していること	事前	人数(人) 割合	1 100%	0 0%	0 0%	0 0%	1 100%
	事後	人数(人) 割合	1 100%	0 0%	0 0%	0 0%	1 100%
できること	事前	人数(人) 割合	0 0%	1 100%	0 0%	0 0%	1 100%
	事後	人数(人) 割合	1 100%	0 0%	0 0%	0 0%	1 100%

※事前調査または事後調査で、各10項目のうち1項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の結果は以下の通り。

図表 IX-88 認知症高齢者の日常生活自立度

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
事前	人数(人)	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
事後	人数(人)	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%

ウ. 生活・認知機能尺度

生活・認知機能尺度の結果は以下の通り。

図表 IX-89 性格・認知機能尺度

		7点～ 14点	15点～ 21点	22点～ 28点	29点～ 35点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	1	0	0	0	1
	割合	0%	100%	0%	0%	0%	100%
事後	人数(人)	0	1	0	0	0	1
	割合	0%	100%	0%	0%	0%	100%

エ. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の結果は以下の通り。

図表 IX-90 Vitality Index

		0点～ 3点	4点～ 7点	8点～ 10点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	1	0	0	1
	割合	0%	100%	0%	0%	100%
事後	人数(人)	0	1	0	0	1
	割合	0%	100%	0%	0%	100%

※事前調査または事後調査で、各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2 以外の場合は無回答処理をした。

※Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の 5 項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5 項目それぞれに 0～2 点で回答し、それぞれ 2 点が最もよい状態を示す。10 点満点。

オ. QOLの変化(WHO-5)

WHO-5の結果は以下の通り。

図表 IX-91 WHO-5

		0点~6点	7点~13点	14点~19点	20点~25点	無回答	合計
事前	人数(人)	0	0	1	0	0	1
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	100%
事後	人数(人)	0	0	1	0	0	1
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	100%

※事前または事後で、各5項目のうち1項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5以外の場合は無回答処理をした。

※QOLの変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5項目それぞれに5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25点満点。

カ. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化の結果は以下の通り。

図表 IX-92 コミュニケーションの変化

			←減少したと感じる					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
利用者の発語量の変化	事後	人数(人)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%
利用者の表情の変化 (笑顔になる頻度等)	事後	人数(人)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

キ. コミュニケーション変化の総合的な評価

コミュニケーション変化の総合的な評価の結果は以下の通り。

図表 IX-93 コミュニケーション変化の総合的な評価

			←減少したと感じる					増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3			
コミュニケーション変化の総合的な 評価	事後	人数(人)	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	100%

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)~+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

(4) チェックリストを用いたアセスメント

チェックリストを用いたアセスメントでは、調査対象の職員に対し、調査期間中の腰痛予防対策チェックを実施した。調査結果は以下の通りであり、事前・事後調査ともに、本アセスメントを実施した職員は2名である。

なお、本チェックリストを用いたアセスメントでは、調査期間中に提供されたケアに対して腰の状態を把握する調査である。そのため、事前および事後のn数は、当該調査期間中に提供されたケア内容に基づくものとなっている。

図表 IX-94 作業姿勢

	a 不良	b やや不良	c 良
事前	0	8	8
事後	2	3	9
事前	0%	50%	50%
事後	14%	21%	64%

図表 IX-95 重量負荷

	a 大	b 中	c 小
事前	0	7	8
事後	2	3	9
事前	0%	47%	53%
事後	14%	21%	64%

図表 IX-96 頻度

	a 頻繁	b 時々	c ほぼなし
事前	2	10	0
事後	3	8	0
事前	17%	83%	0%
事後	27%	73%	0%

図表 IX-97 作業時間

	a 長い	b やや長い	c 短い
事前	0	1	2
事後	0	1	2
事前	0%	33%	67%
事後	0%	33%	67%

図表 IX-98 作業環境

	a 問題あり	b やや問題	c 問題なし
事前	0	4	10
事後	6	1	6
事前	0%	29%	71%
事後	46%	8%	46%

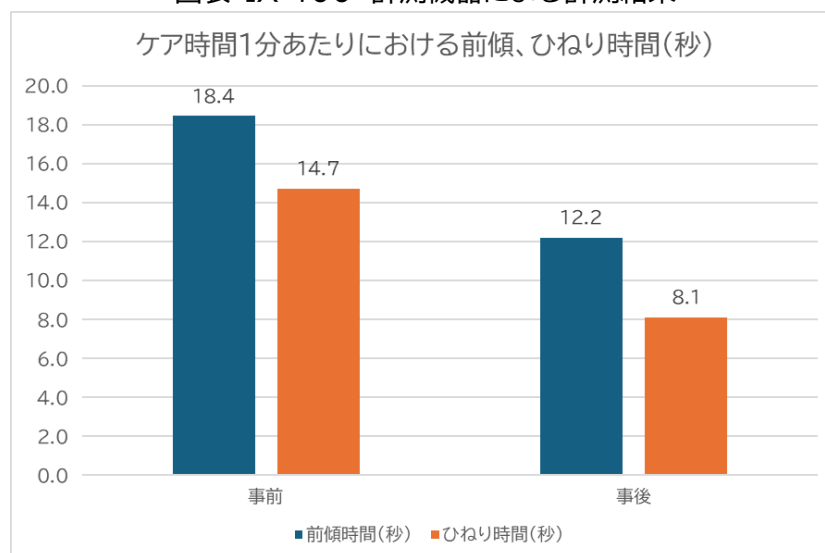
(5) 訪問記録票、計測機器による調査

実証期間中に提供されたケア内容を訪問記録票で把握し、計測機器にて、ケア提供時の前傾とひねりの回数や時間を計測した。調査結果は以下の通りであり、事前・事後調査ともに、本調査を実施した職員は2名であり、訪問記録票のn数は調査対象の利用者へのケア提供の内容に基づくものとなっており、計測機器による計測結果では当該ケアにおける前傾やひねりの状態を調査した。

図表 IX-99 訪問記録票によるケアの提供内容

	移動・移乗介助	食事介助	入浴介助・清拭	排泄介助	更衣介助	体位変換	外出介助	その他の身体介護
事前	3	0	2	3	2	0	0	1
事後	4	0	1	4	4	0	0	0
事前	27%	0%	18%	27%	18%	0%	0%	9%
事後	31%	0%	8%	31%	31%	0%	0%	0%

図表 IX-100 計測機器による計測結果



(事前:n=7、事後:n=2)

(6) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の4項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証の結果について

図表 IX-101 実証の結果について

カテゴリ	主なご意見
利用者、職員	<ul style="list-style-type: none"> 慣れるまでは恐怖心があった。本人も力が入ってしまっていた。しかし、<u>機器の操作に慣れたら</u>、<u>お互い安心安全に楽に移乗介護ができるようになった。</u>

② 実証時発生した課題とその対応について

図表 IX-102 実証時発生した課題とその対応について

カテゴリ	主なご意見
テクノロジーの活用	<ul style="list-style-type: none"> 今回の実証フィールドでは畳の居室かつ十分な広さではなかったため、一部テクノロジーを上手く使いこなせない場面があった。利用環境として、テクノロジーを十分に動かせる所であると、より効果的であるだろう。

③ 委員会の開催について

図表 IX-103 委員会の開催について

カテゴリ	主なご意見
職員による会議	<ul style="list-style-type: none"> 移乗介護にて、実際に職員同士で試してみることで使い方をより良く理解できた。テクノロジーを活用する中で、危険がないやり方を職員間で共有し、効果的に利用することができた。

④ 実証目的に対する達成状況について

図表 IX-104 実証目的に対する達成状況について

カテゴリ	主なご意見
テクノロジーの活用	<ul style="list-style-type: none"> 利用環境として、テクノロジーが十分に動かせる場所だと効果あるだろう。 今回の実証フィールドでは、畳の居室かつ十分な広さではなかったため、一部テクノロジーを上手く使いこなせない場面があった。 職員、利用者ともにテクノロジーの使用に慣れるにつれ、有効に使う方法が分かってきたと思う。

4. 実証結果(移動用リフト)

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

図表 IX-105 利用者概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	1	1	0	2
	割合	50%	50%	0%	100%

図表 IX-106 利用者概要 年齢

		70歳未満	70歳～ 75歳未満	75歳～ 80歳未満	80歳～ 85歳未満	85歳～ 90歳未満	90歳～ 95歳未満	95歳以上	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	0	1	1	0	0	2
	割合	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	100%

図表 IX-107 利用者概要 要介護度

		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支 援	その他(区 分申請中等)	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	1	1	0	0	0	2
	割合	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-108 利用者概要 障害高齢者の日常生活自立度

		J1	J2	A1	A2	B1	B2	C1	C2	不明・未実 施	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	割合	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

イ. 職員概要

図表 IX-109 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	2	0	0	2
	割合	100%	0%	0%	100%

図表 IX-110 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代~	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-111 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	0	0	0	2	0	2
	割合	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	100%

図表 IX-112 職員概要 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	0	0	0	2
	割合	0%	100%	0%	0%	0%	100%

(2) 職員向けアンケート調査結果

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

図表 IX-113 心理的負担評価(SRS-18)

		7点以下	8点～ 19点	20点～ 31点	32点～	無回答	合計
結果	人数(人)	2	0	0	0	0	2
	割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%

※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 IX-114 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

		←減少したと感じる						増加したと感じる→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2	3					
仕事のやりがいの変化	結果	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	
	割合	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	
職場の活気の変化	結果	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2		
	割合	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%		

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

ウ. 機器導入する前の期間と比較し、機器導入した後の期間における変化

機器導入する前の期間と比較し、機器導入した後の期間における変化の結果は以下の通り。

図表 IX-115 機器導入する前の期間と比較し、機器導入した後の期間における変化

		←そう思わない			変化なし			→そう思う→			無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2	3					
気持ちに余裕ができる	結果	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2		
	割合	0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	100%		
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	結果	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2		
	割合	0%	0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	100%		
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	結果	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2		
	割合	0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	100%		
機器の設定や着脱が煩雑である	結果	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2		
	割合	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	0%	100%		
機器の設定や着脱に時間がかかる	結果	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2		
	割合	0%	0%	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	100%		
利用者により良いケアが提供できる	結果	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2		
	割合	0%	0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	100%		
腰痛リスクが可視化されることで、働きやすい職場づくりに向けた改善が期待できる	結果	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2		
	割合	0%	0%	0%	50%	0%	0%	50%	0%	0%	100%		

※質問項目に対し、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の7段階で評価した。

工. 福祉用具の満足度評価

福祉用具の満足度評価の結果は以下の通り。

図表 IX-116 福祉用具の満足度評価

	結果	人数(人) 割合	←そう思わない		変化なし			無回答	合計
			1	2	3	4	5		
その福祉用具の大きさ(サイズ,高さ,長さ,幅)に、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%
その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%
その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%
その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%
その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%
その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%
その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%
その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%
その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%
その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%
その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか？その福祉用具アフターサービスに、どれくらい満足していますか？	結果	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%	0 0%	0 0%	2 100%

※該当する項目をすべて選択する設問。

オ. 機器の継続利用意向

機器の継続利用意向の結果は以下の通り。

図表 IX-117 機器の継続利用意向

		はい	いいえ	無回答
結果	人数(人)	2	0	0
	割合	100%	0%	0%

カ. 腰の痛みについて

腰の痛みについての結果は以下の通り。

図表 IX-118 腰の痛みについて

			痛くない	少し痛い	中程度痛い	かなり痛い	ひどく痛い	無回答	
この数日間、朝、起きて動き出すとき腰が痛みますか	結果	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
この数日間、立ち上がるときやしゃがみこむとき腰が痛みますか	結果	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
この数日間、腰痛のため、簡単な作業や家事(ものを片付ける、食事の準備をするなど)はどの程度つらいですか	結果	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
この数日間、腰痛のため、負担のかかる作業や家事(重いものを運ぶ、家の外の掃除など)はどの程度つらいですか	結果	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
この数日間、腰痛のため、仕事や学校、ふだんの作業や家事を差しひかえたいと思いませんか	結果	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%
この1か月、腰痛のため、職場や学校を休日以外に休んだり、ふだんしている家事を休んだりしましたか	結果	人数(人) 割合	2 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 100%

※質問項目に対し、1(痛くない)～5(ひどく痛い)の5段階で評価した。

(3) 利用者向けアンケート調査結果

ア. ADL の変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の結果は以下の通り。

図表 IX-119 日常生活動作(ADL)

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
していること	結果	人数(人)	2	0	0	0	0	2
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%
できること	結果	人数(人)	2	0	0	0	0	2
		割合	100%	0%	0%	0%	0%	100%

※各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の結果は以下の通り。

図表 IX-120 認知症高齢者の日常生活自立度

		I	IIa	IIb	IIIa	IIIb	IV	M	無回答	合計
結果	人数(人)	0	0	1	0	1	0	0	0	2
	割合	0%	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	100%

ウ. 生活・認知機能尺度

生活・認知機能尺度の結果は以下の通り。

図表 IX-121 性格・認知機能尺度

		7点～ 14点	15点～ 21点	22点～ 28点	29点～ 35点	無回答	合計
結果	人数(人)	1	1	0	0	0	2
	割合	50%	50%	0%	0%	0%	100%

エ. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の結果は以下の通り。

図表 IX-122 Vitality Index

		0点～ 3点	4点～ 7点	8点～ 10点	無回答	合計
結果	人数(人)	0	0	2	0	2
	割合	0%	0%	100%	0%	100%

※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2 以外の場合は無回答処理をした。

※Vitality index とは、鳥羽ら(2002)によって開発された、高齢者の日常生活動作「起床」「意志疎通」「食事」「排泄」「活動」の5項目から高齢者における日常生活動作に関連した「意欲」を客観的に評価する指標。5項目それぞれに0～2点で回答し、それぞれ2点が最もよい状態を示す。10点満点。

オ. QOLの変化(WHO-5)

WHO-5の結果は以下の通り。

図表 IX-123 WHO-5

		0点～6点	7点～13点	14点～19点	20点～25点	無回答	合計
結果	人数(人)	0	1	1	0	0	2
	割合	0%	50%	50%	0%	0%	100%

※各5項目のうち1項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が0、1、2、3、4、5以外の場合は無回答処理をした。

※QOLの変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近2週間、利用者の状態に最も近いものについて、5項目それぞれに5(いつも)～0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25点満点。

(4) チェックリストを用いたアセスメント

チェックリストを用いたアセスメントでは、調査対象の職員に対し、調査期間中の腰痛予防対策チェックを実施した。調査結果は以下の通りであり、本アセスメントを実施した職員は2名である。

なお、本チェックリストを用いたアセスメントでは、調査期間中に提供されたケアに対して腰の状態を把握する調査である。そのため、リフト使用およびリフト非使用のn数は、当該利用者に対し提供されたケア内容に基づくものとなっている。

図表 IX-124 作業姿勢

	a 不良	b やや不良	c 良
リフト使用	0	3	0
リフト非使用	0	2	0
リフト使用	0%	100%	0%
リフト非使用	0%	100%	0%

図表 IX-125 重量負荷

	a 大	b 中	c 小
リフト使用	0	0	3
リフト非使用	0	2	0
リフト使用	0%	0%	100%
リフト非使用	0%	100%	0%

図表 IX-126 頻度

	a 頻繁	b 時々	c ほぼなし
リフト使用	0	3	0
リフト非使用	0	1	0
リフト使用	0%	100%	0%
リフト非使用	0%	100%	0%

図表 IX-127 作業時間

	a 長い	b やや長い	c 短い
リフト使用	0	0	0
リフト非使用	0	1	0
リフト使用	-	-	-
リフト非使用	0%	100%	0%

※「-」は該当無しを示す

図表 IX-128 作業環境

	a 問題あり	b やや問題	c 問題なし
リフト使用	0	0	3
リフト非使用	0	0	2
リフト使用	0%	0%	100%
リフト非使用	0%	0%	100%

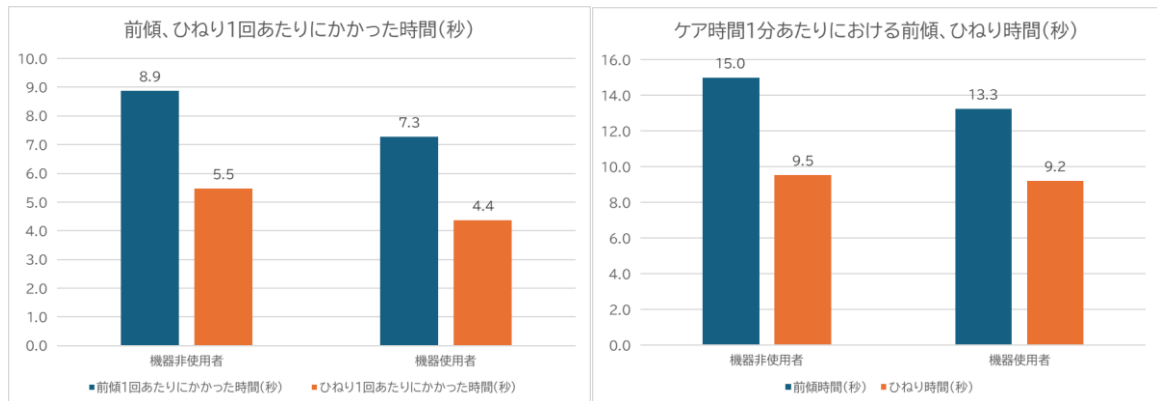
(5) 訪問記録票、計測機器による調査

実証期間中に提供されたケア内容を訪問記録票で把握し、計測機器にて、ケア提供時の前傾とひねりの回数や時間を計測した。本調査を実施した職員は2名であり、訪問記録票のn数は調査対象の利用者へのケア提供の内容に基づくものとなっており、計測機器による計測結果では当該ケアにおける前傾やひねりの状態を調査した。

図表 IX-129 訪問記録票によるケアの提供内容

	移動・移乗 介助	食事介助	入浴介助・ 清拭	排泄介助	更衣介助	体位変換	外出介助	その他の 身体介護
機器非使用者	2	0	0	2	0	2	0	0
機器使用者	9	0	0	3	0	9	0	0
機器非使用者	33%	0%	0%	33%	0%	33%	0%	0%
機器使用者	43%	0%	0%	14%	0%	43%	0%	0%

図表 IX-130 計測機器による計測結果



(機器非使用者:n=2、機器使用者:n=8)

(6) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の3項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証の結果について

図表 IX-131 実証の結果について

カテゴリ	主なご意見
利用者	<ul style="list-style-type: none"> ● 座位保持ができず、立位不安定、踏み返しができない、起居動作(ベッドから起き上がる時の補助動作)、踏ん張れない方についてリフトを導入。 ● 本実証の利用者は、サービス提供開始時点でリフト導入しており、ベッドから車いす移乗時に使用。 ● <u>利用者の負担が少なく、利用者自身も、リフトを使用した方が、体への負荷も少ない場合がある。</u>
職員	<ul style="list-style-type: none"> ● 移乗支援時、安全面を考慮したうえで<u>対応職員数を2名から1名とできることが多い。</u>在宅であれば家族が手伝うこともあるが、技術が習熟すれば1名での訪問が可能になる。<u>技術が習熟すれば職員体制としては効率が良い。</u> ● <u>移乗方法として、リフトがある方が安心、楽という声が職員から聞かれた。</u>

② 実証時発生した課題とその対応について

図表 IX-132 実証時発生した課題とその対応について

カテゴリ	主なご意見
リフト使用のためのシート	<ul style="list-style-type: none"> • シートは購入物品で高額となる。<u>そのため、買い直しが難しく、最初から利用者にあったものを選定することが重要。</u> • シートをどのように敷きこむかがその後のケアに影響し、スキルが必要。ずれている、ねじれている等を避け、シートを敷きこむことが大切。 • シートの敷き方は習熟度に差が生じる点である。

③ 委員会の開催について

図表 IX-133 委員会の開催について

カテゴリ	主なご意見
職員による指導	<ul style="list-style-type: none"> • 以前は職員の習熟度については課題があった。訪問時の現場で OJT での指導が難しい場合、移乗支援時の動画を撮影して共有するほか、個別に指導している。 • <u>やり方(押さえておくべきポイント)を統一できると効率化を図ることができる。</u>

【C】アセスメントの効率化

1. 実証概要

(1) 実証目的

通所系サービスにおける機能訓練ソフト活用による介護サービスの質の維持・向上、職員の負担軽減、オペレーションの見直しによる業務効率化等の観点の評価検討に資するデータを収集する。

(2) 実証仮説

通所系サービスにおいて機能訓練ソフトを活用することで、下記の変化がみられることを仮説とした。

- ① 利用者のアセスメントや計画立案に係る職員の業務時間が減る
- ② 利用者の状態が可視化されることで、本人の意欲や満足度が高まる

(3) 実証機器

本実証では以下の機器を用いた。なお、導入状況は施設によって異なっていた。

図表 IX-134 実証で使用した機器

No	メーカー名	機器名
1	株式会社エクサホームケア	CareWizトルト

(4) 対象事業所

本実証の対象事業所は以下の通り。

図表 IX-135 実証対象事業所

No	法人名	施設名	導入機器
1	社会福祉法人いわき福祉会	やすらぎの郷牧山デイサービスセンター	CareWizトルト
2	医療法人 医和基会	牧山いわき苑通所リハビリテーション	CareWizトルト

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。

図表 IX-136 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和 7 年 7 月～8 月のうち 30 日間
事後調査①	令和 7 年 9 月～11 月のうち 30 日間
事後調査②	令和 7 年 11 月～12 月のうち 30 日間
ヒアリング調査	令和 7 年 12 月～令和 8 年 1 月

※新型コロナウイルス感染症の影響や機器の導入調整等の影響により、各施設の調査時期には幅がある。

イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査①・②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「利用者向けアンケート調査」、を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 IX-137 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	利用者ごとに事業所で定めた記入担当職員 1 名(担当の機能訓練指導員等)	<ul style="list-style-type: none"> 回答方法:Excel による回答 調査スケジュール:事前(オペレーションの工夫・変更前)1 回、事後①・②(オペレーションの工夫・変更後)2 回の計 3 回。利用者ごとに事業所で定めた記入担当職員 1 名(担当の機能訓練指導員等)が回答
職員向けアンケート調査	利用者ごとに事業所で定めた記入担当職員 1 名(担当の機能訓練指導員等)	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式または Web による回答 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、職員 1 名につき 1 回のみ回答
利用者向けアンケート調査	対象利用者	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式または Web による回答 ※職員による利用者への聞き取りによる回答。事前と事後で回答のブレを防止するため、可能な限り同一の利用者について同一の職員に回答いただくよう依頼 ※調査の対象利用者については、各調査期間に新規利用者・継続利用者3名を選定した。事後①・事後②の継続利用者については、可能な限り事前の新規利用者を対象とした。 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、利用者 1 名につき 1 回のみ回答
ヒアリング調査	施設管理者等	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:Web 会議または訪問(対面)による聞き取

調査名	調査対象者	調査概要
		り <ul style="list-style-type: none"> 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

ウ. 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの工夫・変更の内容

本実証の対象施設においては、以下の通りオペレーションの変更を実施した。

図表 IX-138 生産性向上の取り組みに伴うオペレーションの変更内容

施設名	A.通常(現在)の内容 (工夫・変更前)	B. 導入後の内容 (工夫・変更後)	C.工夫・変更の目的、 目指すところ
やすらぎの郷 牧山デイサービスセンター	<ul style="list-style-type: none"> 担当者がアセスメントを実施。利用日当日に本人を確認し急いで計画書を作成することが多く時間に余裕がないことが多い。 計画書の内容や機能訓練の効果判定など、口頭や書面で説明することが多く伝わりにくい面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に体験をしてトルトで撮影、アセスメントを行う。 トルトで計画の下書きを作成し、不足部分を担当者が追加する。トルトが個人に合わせて提案するおすすめ運動を組み合わせた訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画書作成にかかる時間の短縮。映像で残せることでより詳細な評価が行える。 評価や身体的問題、適切な運動をまたどれくらい改善されたか視覚的に確認できる。改善の度合いが数値で理解できる。
牧山いわき苑通所リハビリテーション	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目が多く時間がかかり、口頭で結果を伝えるだけでは分かりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価項目が少なく、記録に残すことが出来、結果が明瞭となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状の把握や変化を共有しやすく、リハビリのモチベーションを高めることが出来る。

(6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、利用者向けアンケート調査、業務時間等調査、ヒアリング調査を行った。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目は下記の5項目とした。

図表 IX-139 タイムスタディ調査 項目

No	分類
1	アセスメント
2	計画書作成
3	機能訓練
4	利用者および家族への情報連携
5	ケアマネジャーへの情報連携業務

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18 に基づく)と、加えて事後では、機能訓練支援ソフト導入によるモチベーションの変化、機能訓練支援ソフト導入の必要性の理解、機能訓練支援ソフト導入による職員や施設業務の変化、導入機器の満足度評価とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 利用者向けアンケート調査

利用者向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の 2 種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、対象利用者の ADL の変化、認知機能の変化、心理的な影響(意欲の指標 Vitality index に基づく)、QOL の変化とした。加えて、事後では、対象利用者のコミュニケーションの変化、機能訓練・リハビリテーションへの参加状況の変化、社会参加の変化、ケアの変更等を調査項目とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象施設の職員に対し調査を行った。

2. 実証結果

(1) 利用者・職員概要

ア. 利用者概要

利用者の性別は以下の通り。

図表 IX-140 利用者概要 性別

	男性	女性	無回答	合計
人数(人)	8	16	0	24
割合	33%	67%	0%	100%

図表 IX-141 利用者概要 年齢

	70歳未満	70歳～75歳未満	75歳～80歳未満	80歳～85歳未満	85歳～90歳未満	90歳～95歳未満	95歳以上	無回答	合計
人数(人)	2	1	4	5	6	3	3	0	24
割合	8%	4%	17%	21%	25%	13%	13%	0%	100%

図表 IX-142 利用者概要 要介護度

	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	自立・要支援	その他(区分申請中等)	無回答	合計
人数(人)	11	5	3	3	0	2	0	0	24
割合	46%	21%	13%	13%	0%	8%	0%	0%	100%

イ. 職員概要

図表 IX-143 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	1	3	0	4
	割合	25%	75%	0%	100%

図表 IX-144 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	0	0	2	2	0	0	0	4
	割合	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	0%	100%

図表 IX-145 職員概要 職種

		機能訓練 指導員(理 学療法士)	機能訓練 指導員 (作業療 法士)	機能訓練 指導員 (言語聴 覚士)	機能訓練 指導員 (看護職 員)	機能訓練 指導員 (柔道整 復師)	機能訓練 指導員 (言語聴 覚士)	機能訓練 指導員 (あん摩 マッサージ 指圧師)	その他	無回答	合計
総数	人数(人) 割合	1 25%	2 50%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 25%	0 0%	4 100%

図表 IX-146 職員概要 役職

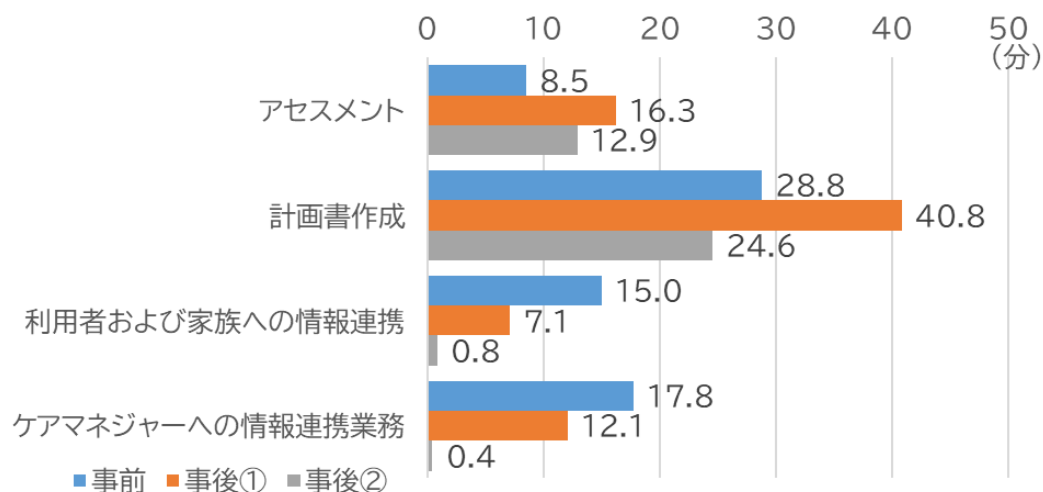
		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人) 割合	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	4 100%

(2) タイムスタディ調査結果

タイムスタディ調査の結果は以下の通り。

図表 IX-147 タイムスタディ調査の結果(機能訓練以外)(利用者1人1月あたり)

		アセスメント	計画書作成	利用者および家族への情報連携	ケアマネジャーへの情報連携業務	合計
事前	時間(分)	8.5	28.8	15.0	17.8	70.0
事後①	時間(分)	16.3	40.8	7.1	12.1	76.3
	対事前比	191%	142%	47%	68%	109%
事後②	時間(分)	12.9	24.6	0.8	0.4	38.8
	対事後①比	79%	60%	12%	3%	51%



事前調査 n=12

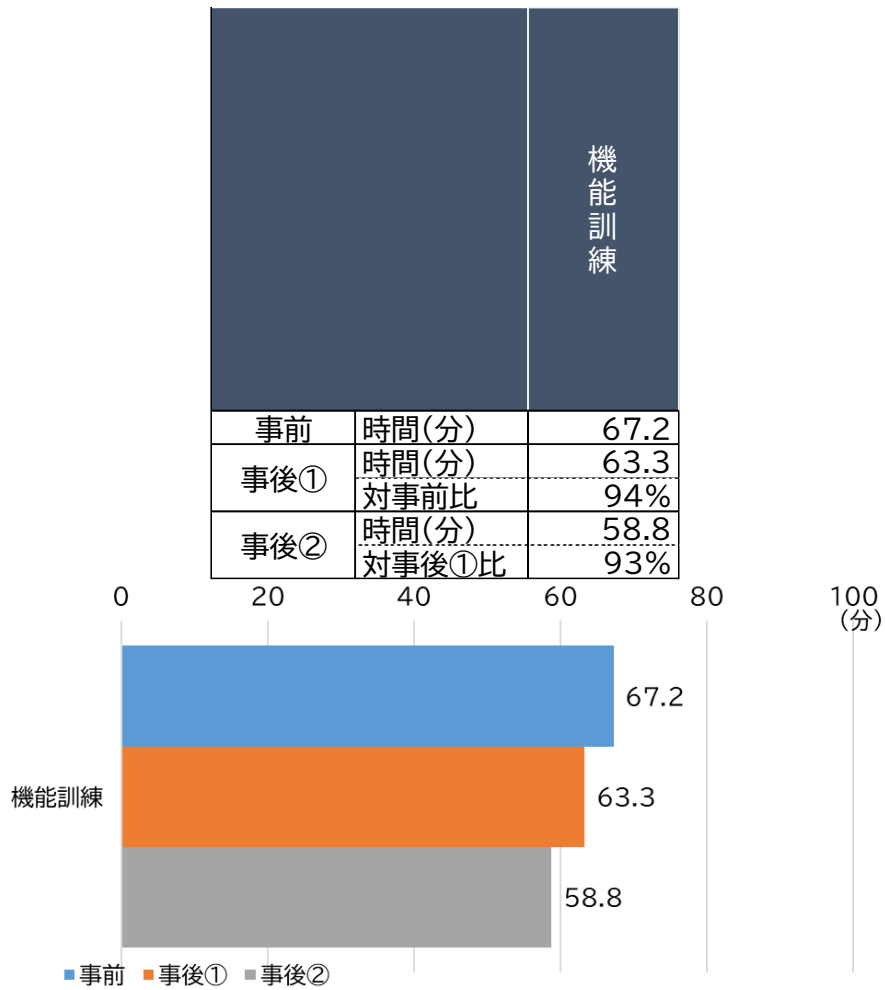
事後調査① n=12

事後調査② n=12

※1 か月間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※職員1人の1ヶ月間のうち、利用者1人に対する業務時間を表す。

図表 IX-148 タイムスタディ調査の結果(機能訓練以外)(利用者 1 人 1 月あたり)



事前調査 n=12
 事後調査① n=12
 事後調査② n=12

※1 か月間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※職員 1 人の1ヶ月間のうち、利用者1人に対する業務時間を表す。

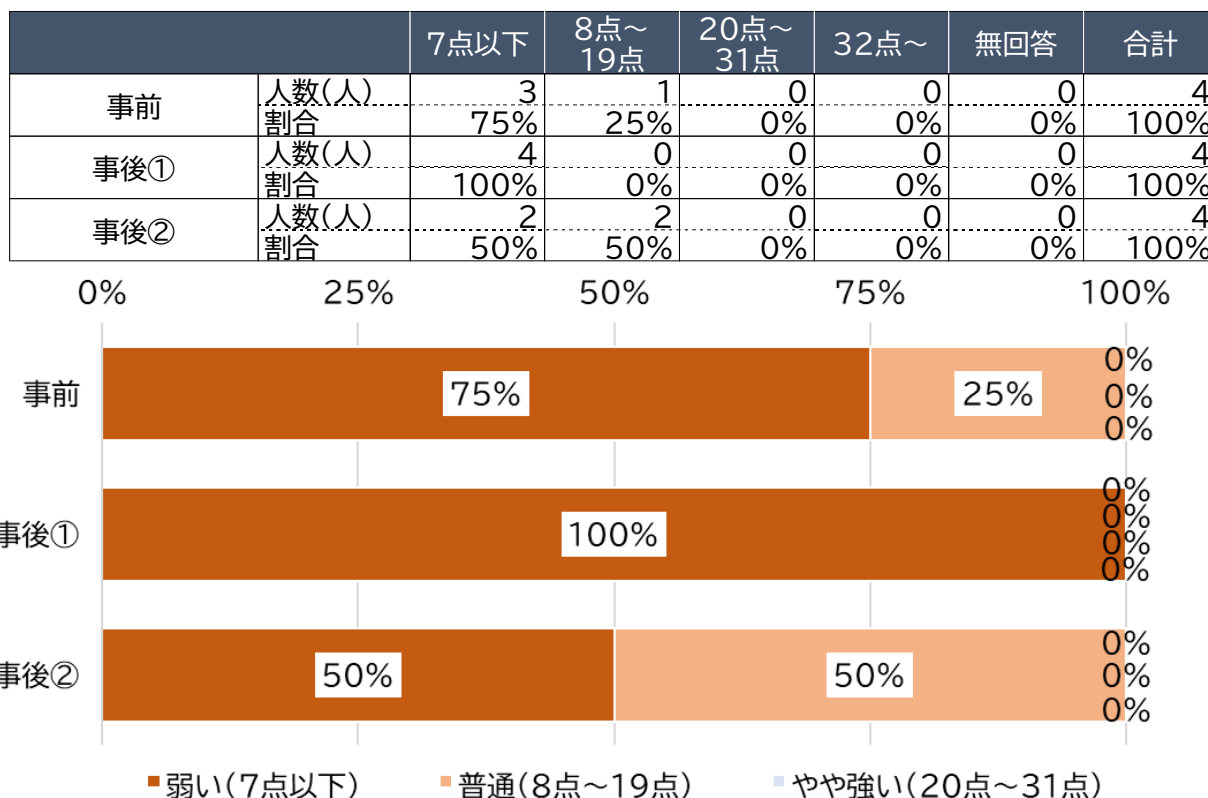
(3) 職員向けアンケート調査結果

事前調査・事後調査①・②ともに職員向けアンケート調査で回答のあった職員のみを対象とした。

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

図表 IX-149 心理的負担評価(SRS-18)



※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査もしくは事後調査に1度でも回答のあった職員を集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

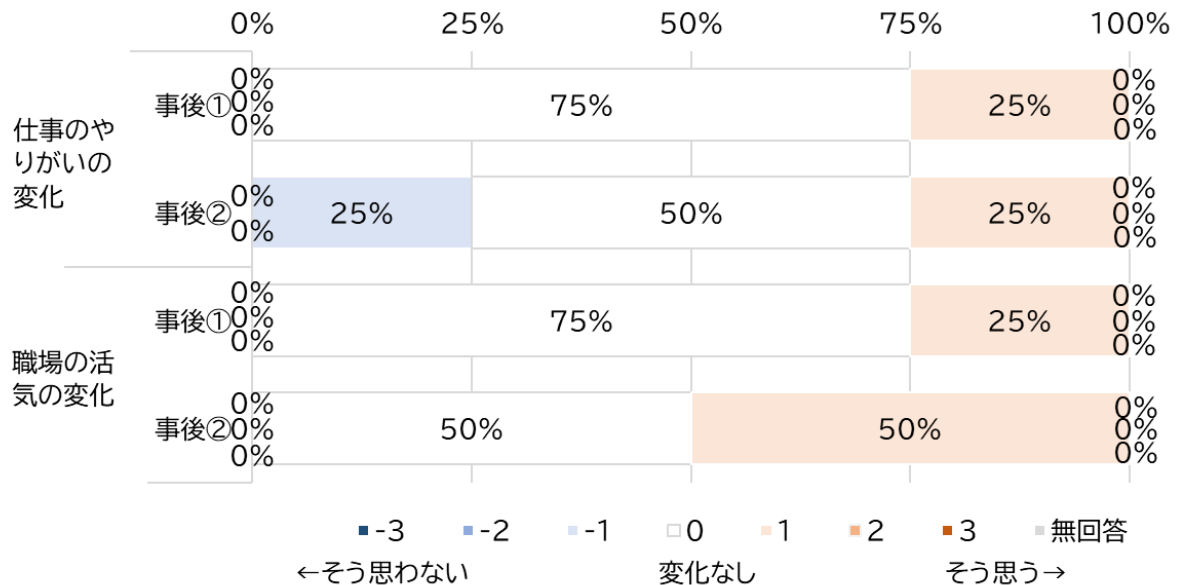
イ. 機能訓練支援ソフト導入によるモチベーションの変化

機能訓練支援ソフト導入によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

図表 IX-150 機能訓練支援ソフト導入によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる			増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2		
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	2	1	0	0	4
		割合	0%	0%	25%	50%	25%	0%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	1	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	75%	25%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	2	2	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	100%

※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。



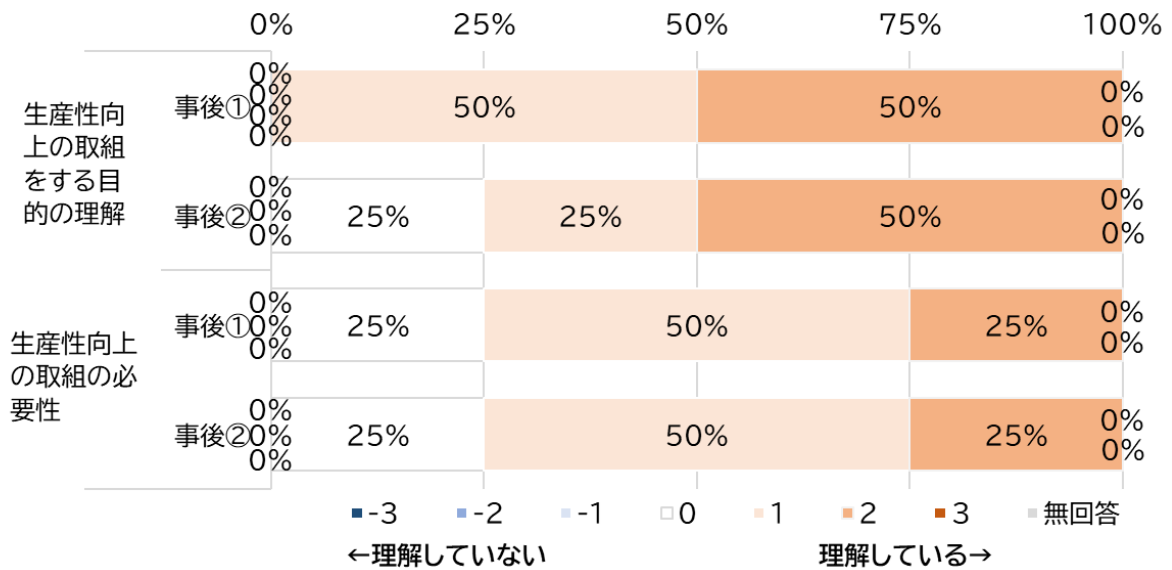
ウ. 機能訓練支援ソフト導入の必要性の理解

機能訓練支援ソフト導入の必要性の理解に関する結果は以下の通り。

図表 IX-151 機能訓練支援ソフト導入の必要性の理解

			←進めにくかった			進めやすかった→				無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
生産性向上の取組をする目的の理解	事後①	人数(人)	0	0	0	0	2	2	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	0%	50%	50%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	1	1	2	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	25%	25%	50%	0%	0%	100%
生産性向上の取組の必要性	事後①	人数(人)	0	0	0	1	2	1	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	25%	50%	25%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	1	2	1	0	0	4
		割合	0%	0%	0%	25%	50%	25%	0%	0%	100%

※質問項目に対し、-3(理解していない)~+3(理解している)の7段階で評価した。



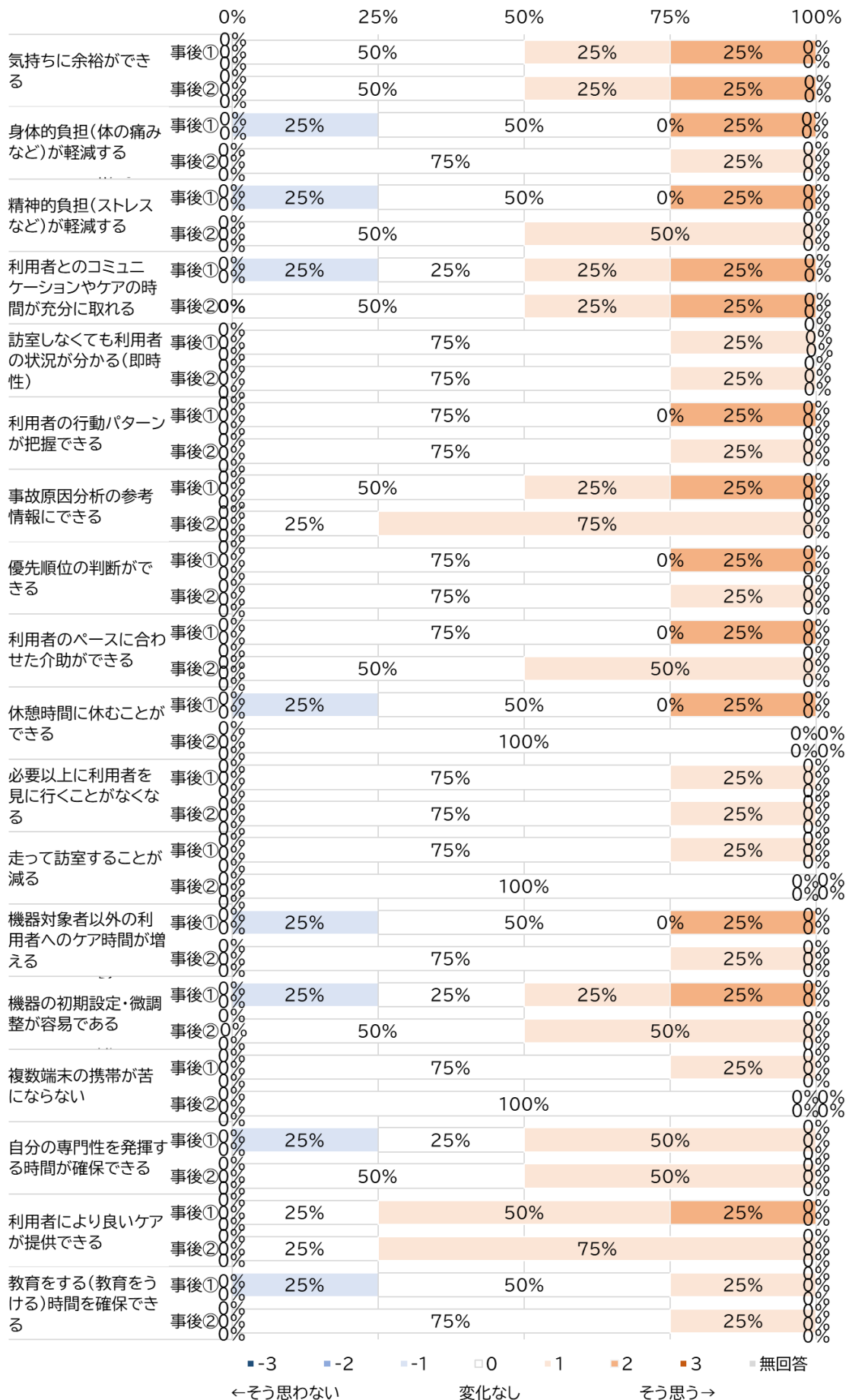
工. 機能訓練支援ソフト導入による職員や施設業務の変化

機能訓練支援ソフト導入による職員や施設業務の変化の結果は以下の通り。

図表 IX-152 機能訓練支援ソフト導入による職員や施設業務の変化

		←そう思わない 変化なし そう思う→							無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 50%	1 25%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 50%	1 25%	1 25%	0 0%	0	4
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	2 50%	0 0%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	2 50%	0 0%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 50%	2 50%	0 0%	0 0%	0	4
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が十分に取れる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	1 25%	1 25%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 50%	1 25%	1 25%	0 0%	0	4
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	0 0%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 50%	1 25%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	1 25%	3 75%	0 0%	0 0%	0	4
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	0 0%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4
利用者のベースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	0 0%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 50%	2 50%	0 0%	0 0%	0	4
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	2 50%	0 0%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0	4
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4
走って訪室することが減る	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0	4
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	2 50%	0 0%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	1 25%	1 25%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 50%	2 50%	0 0%	0 0%	0	4
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0	4
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	2 50%	0 0%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 50%	2 50%	0 0%	0 0%	0	4
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	1 25%	2 50%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	1 25%	3 75%	0 0%	0 0%	0	4
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	2 50%	0 0%	1 25%	0 0%	0	4
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0	4

※質問項目に対し、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の7段階で評価した。



オ. 導入機器の満足度評価

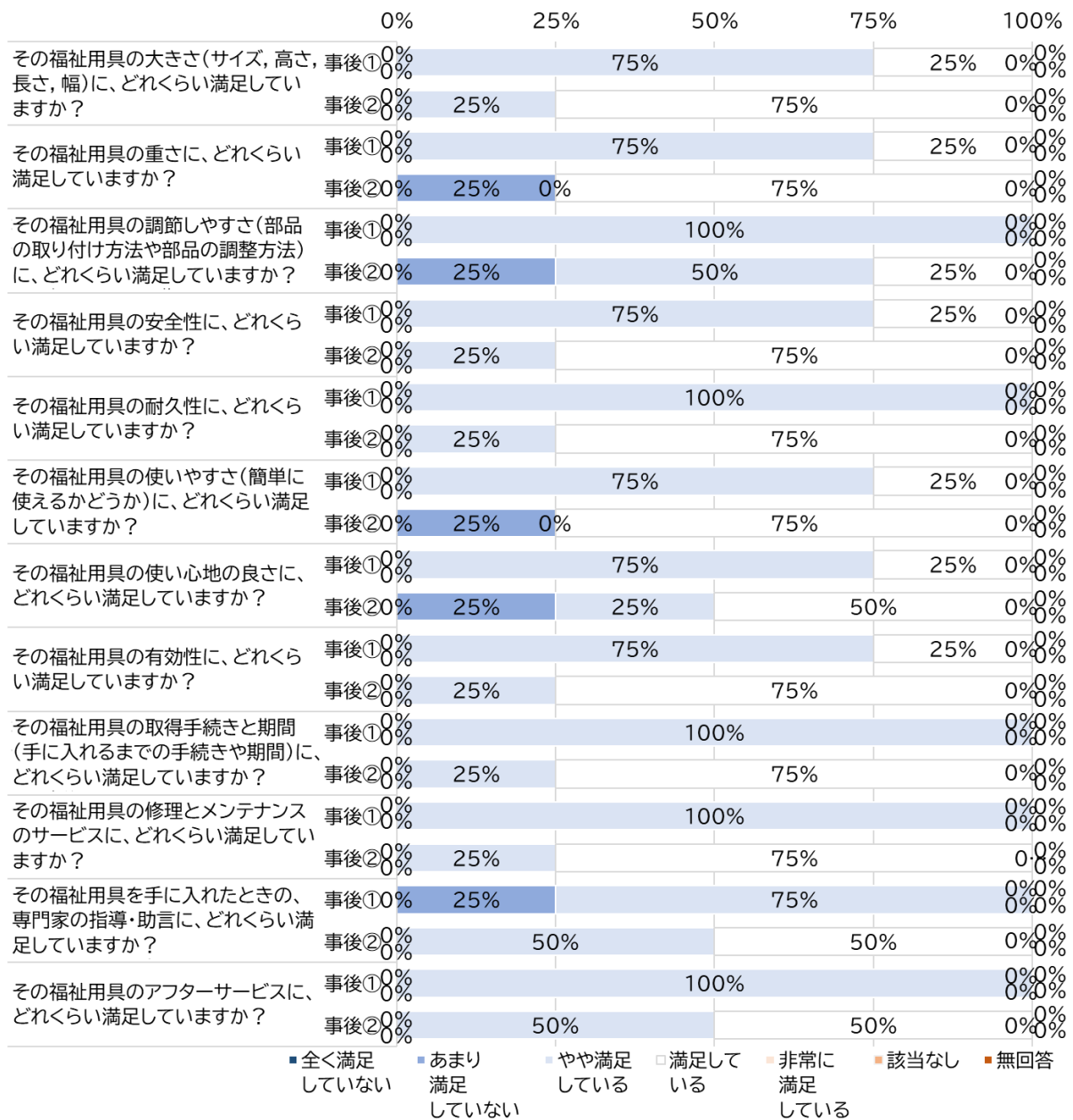
導入機器の満足度評価の結果は以下の通り。

図表 IX-153 導入機器の満足度評価

			全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	該当なし	無回答	合計
その福祉用具の大きさ(サイズ、高さ、長さ、幅)に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	3 75%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 25%	0 0%	3 75%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具の調節しやすさ(部品の取り付け方法や部品の調整方法)に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	4 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 25%	2 50%	1 25%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	3 75%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	4 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	3 75%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具の使いやすさ(簡単に使えるかどうか)に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 25%	0 0%	3 75%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 25%	1 25%	2 50%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 75%	1 25%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	3 75%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具の取得手続きと期間(手に入れるまでの手続きや期間)に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	4 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	3 75%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	4 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 25%	3 75%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 25%	3 75%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 50%	2 50%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	4 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 50%	2 50%	0 0%	0 0%	0 0%	4 100%

※出典:QUEST 福祉用具満足度評価

※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価した。

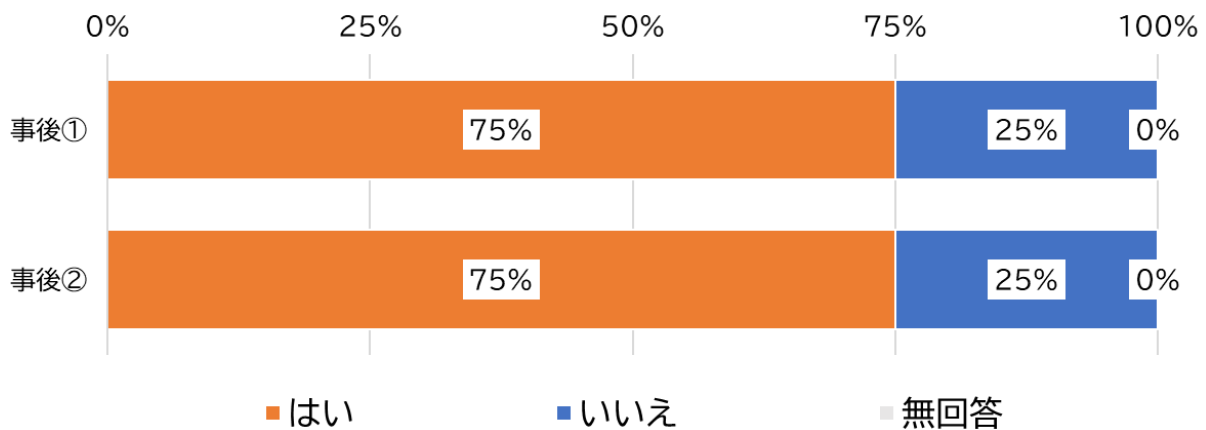


カ. 導入機器の今後の継続利用の希望

導入機器の今後の継続利用の希望の結果は以下の通り。

図表 IX-154 導入機器の今後の継続利用の希望

			はい	いいえ	無回答	合計
今後、今回導入した機能訓練支援ソフトを継続して利用したいですか？	事後①	人数(人)	3	1	0	4
		割合	75%	25%	0%	100%
	事後②	人数(人)	3	1	0	4
		割合	75%	25%	0%	100%



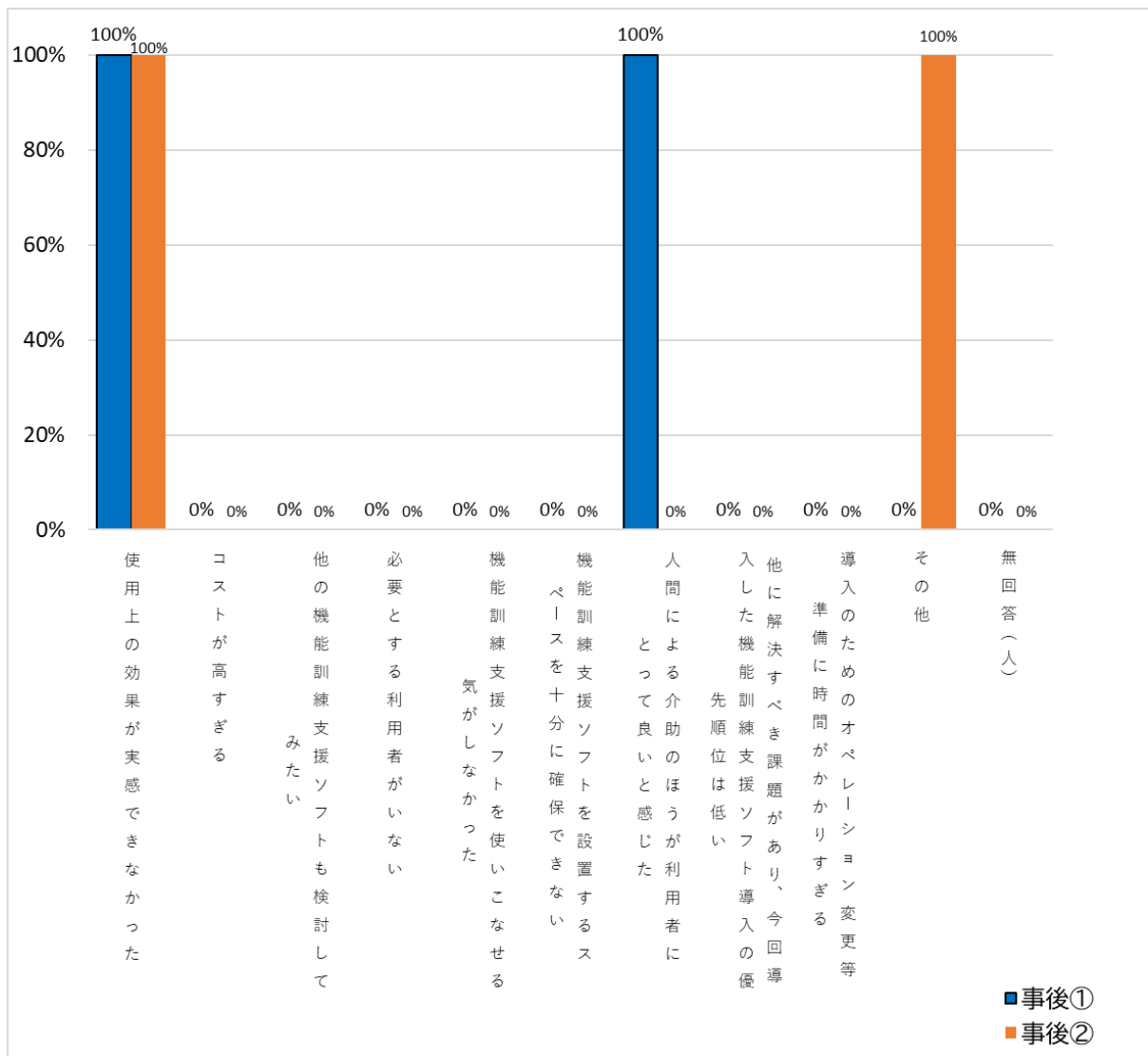
継続利用を希望しない場合の理由は以下の通り。

図表 IX-155 継続利用を希望しない場合の理由

		使用上の効果 が実感できな かった	コストが高すぎる	他の機能訓練支援ソフトも検討してみたい	必要とする利用者がいない	機能訓練支援ソフトを使いこなせる気がしなかった	機能訓練支援ソフトを設置するスペースを十分に確保できない	人間による介助のほうが利用者にとって良いと感じた	他に解決すべき課題があり、今回導入した機能訓練支援ソフト導入の優先順位は低い	導入のためのオペレーション変更等準備に時間がかかりすぎた	その他	無回答(人)	回答者合計(人)
事後①	人数(人)	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
事後①	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%	0%	-
事後②	人数(人)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
事後②	割合	100%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	100%	0%	-

【その他の理由】

測定の結果(数値)にムラがあり、計測する度に数値が異なり、一貫性が得られにくかった。運動プログラムの種類がもう少しあるとよかった。機械の精度が上がれば、是非使用してみたい。



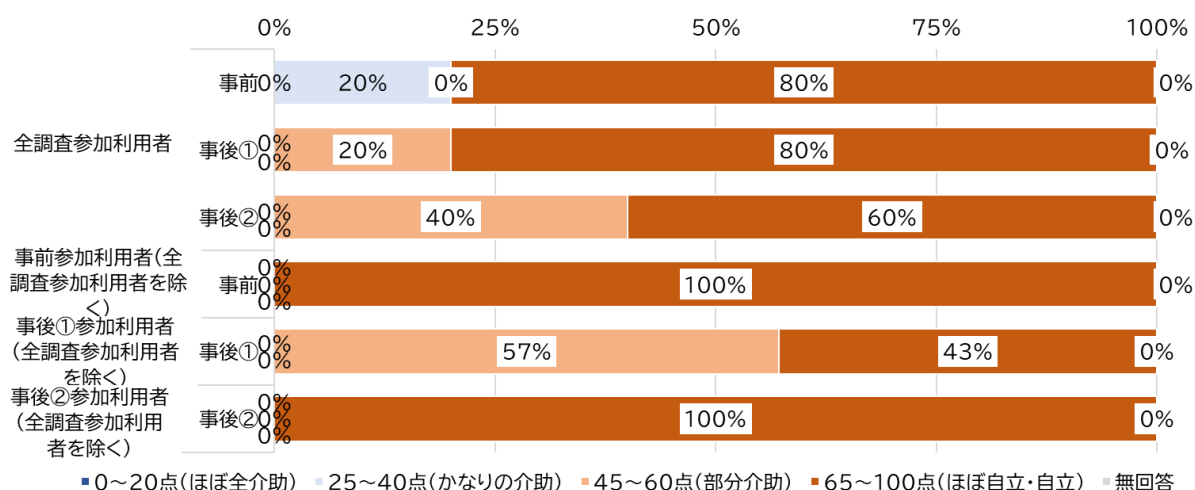
(4) 利用者向けアンケート調査結果

ア. ADL の変化

日常生活動作(ADL)(Barthel Index)の結果は以下の通り。

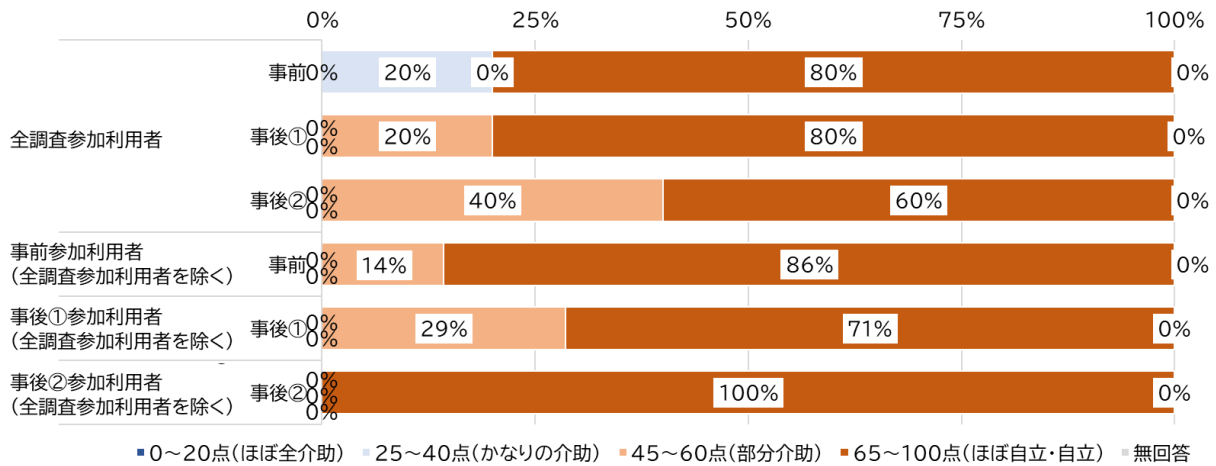
図表 IX-156 日常生活動作(ADL)(していること)

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
全調査参加利用者	事前	人数(人)	0	1	0	4	0	5
		割合	0%	20%	0%	80%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	1	4	0	5
		割合	0%	0%	20%	80%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	3	0	5
		割合	0%	0%	40%	60%	0%	100%
事前参加利用者(全調査参加利用者を除く)	事前	人数(人)	0	0	0	7	0	7
事後①のみ参加利用者(全調査参加利用者を除く)	事後①	人数(人)	0	0	4	3	0	7
事後②のみ参加利用者(全調査参加利用者を除く)	事後②	人数(人)	0	0	0	7	0	7
		割合	0%	0%	0%	100%	0%	100%



図表 IX-157 日常生活動作(ADL)(できること)

			0点～ 20点	25点～ 40点	45点～ 60点	65点～ 100点	無回答	合計
全調査参加利用者	事前	人数(人)	0	1	0	4	0	5
		割合	0%	20%	0%	80%	0%	100%
	事後①	人数(人)	0	0	1	4	0	5
		割合	0%	0%	20%	80%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	2	3	0	5
		割合	0%	0%	40%	60%	0%	100%
事前参加利用者(全調査参加利用者を除く)	事前	人数(人)	0	0	1	6	0	7
事後①のみ参加利用者(全調査参加利用者を除く)	事後①	人数(人)	0	0	2	5	0	7
事後②のみ参加利用者(全調査参加利用者を除く)	事後②	人数(人)	0	0	0	7	0	7
		割合	0%	0%	14%	86%	0%	100%

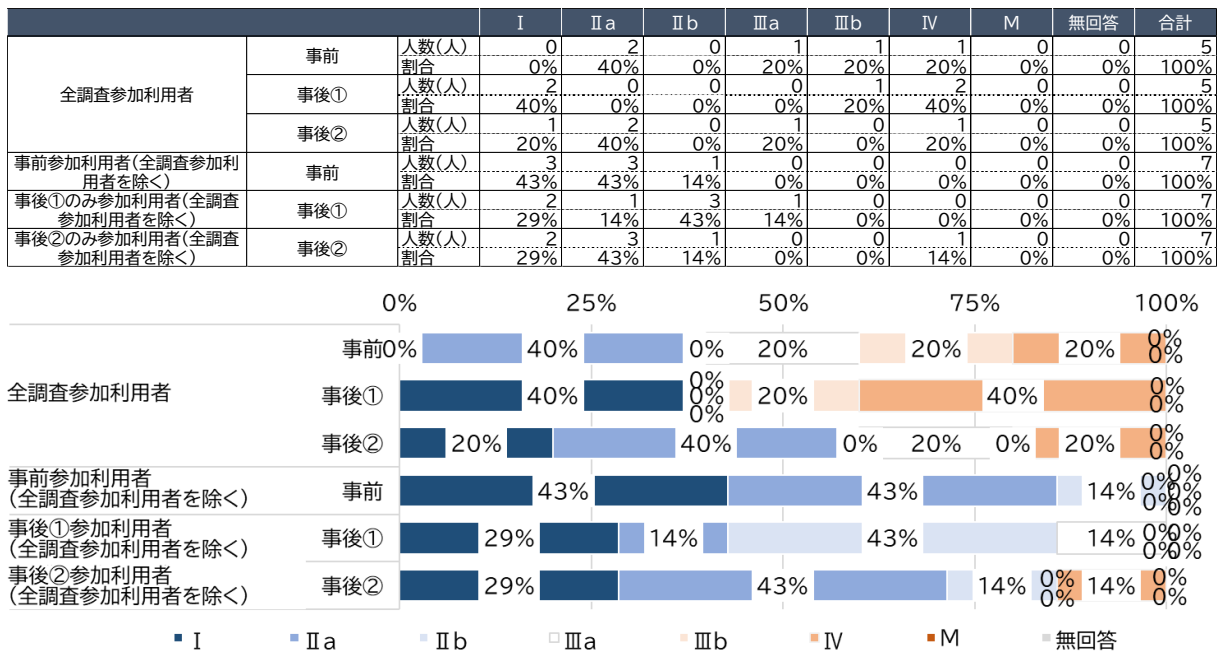


※各 10 項目のうち 1 項目でも無回答がある場合は無回答処理をした。

イ. 認知機能の変化(認知症高齢者の日常生活自立度)

認知症高齢者の日常生活自立度の結果は以下の通り。

図表 IX-158 認知症高齢者の日常生活自立度

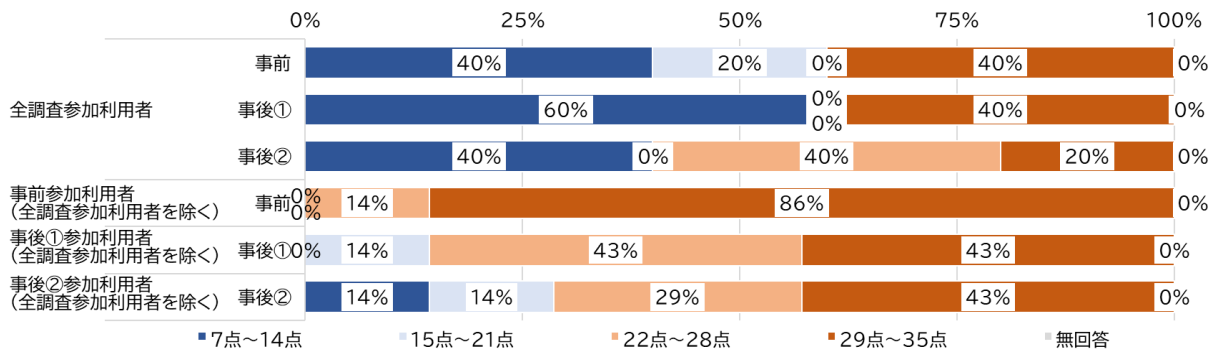


ウ. 生活・認知機能尺度の変化

生活・認知機能尺度の結果は以下の通り。

図表 IX-159 生活・認知機能尺度

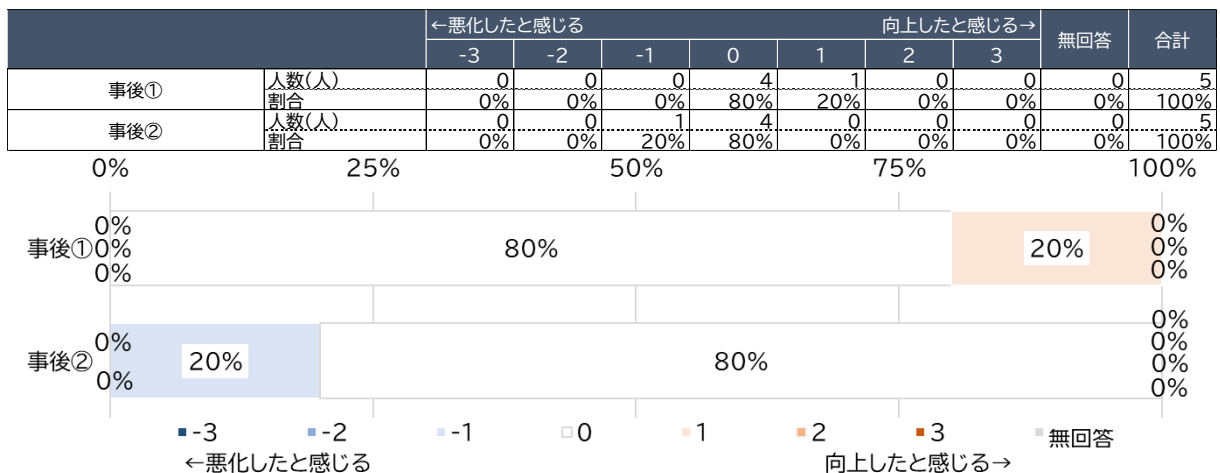
			7点~14点	15点~21点	22点~28点	29点~35点	無回答	合計
全調査参加利用者	事前	人数(人)	2	1	0	2	0	5
		割合	40%	20%	0%	40%	0%	100%
	事後①	人数(人)	3	0	0	2	0	5
		割合	60%	0%	0%	40%	0%	100%
	事後②	人数(人)	2	0	2	1	0	5
		割合	40%	0%	40%	20%	0%	100%
事前参加利用者(全調査参加利用者を除く)	事前	人数(人)	0	0	1	6	0	7
事後①のみ参加利用者(全調査参加利用者を除く)	事後①	人数(人)	0	1	3	3	0	7
事後②のみ参加利用者(全調査参加利用者を除く)	事後②	人数(人)	1	1	2	3	0	7
		割合	14%	14%	29%	43%	0%	100%



エ. 認知機能変化の総合的な評価

認知機能変化の総合的な評価の結果は以下の通り。

図表 IX-160 認知機能変化の総合的な評価

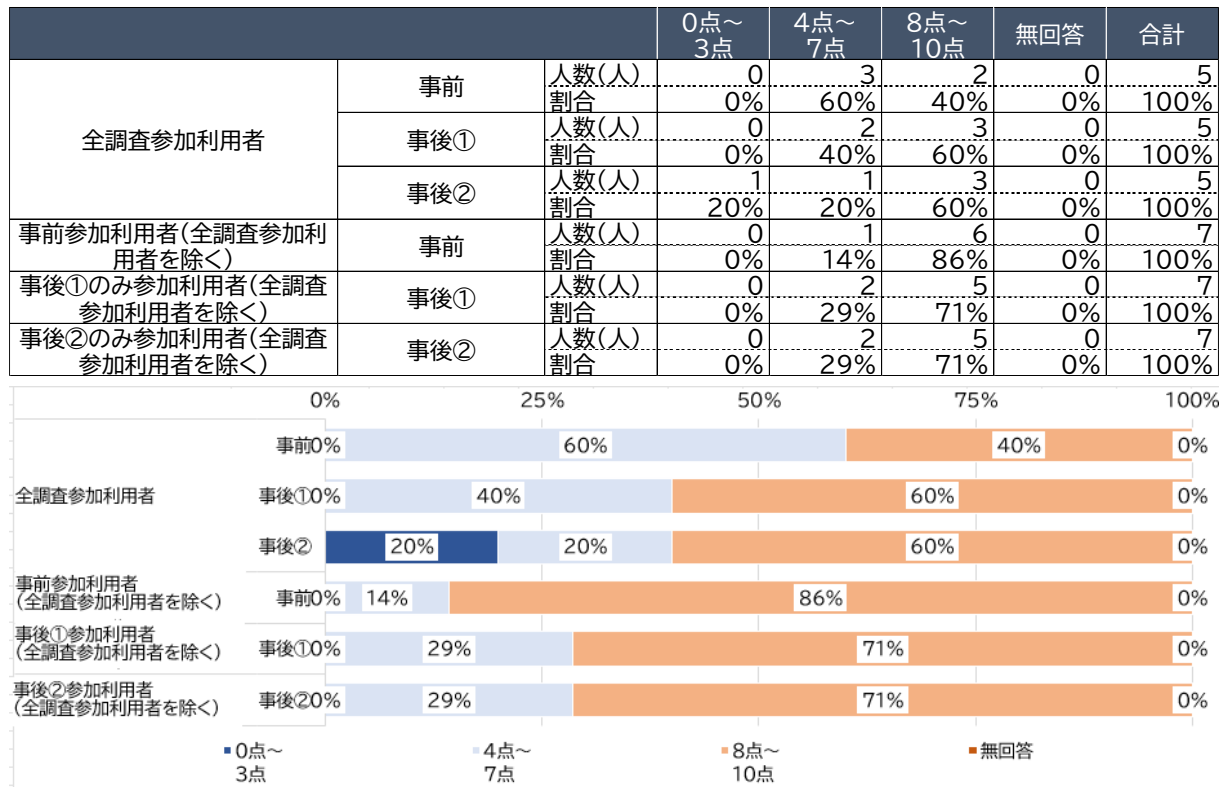


※全調査参加利用者のみを集計対象とした。

オ. 利用者への心理的な影響(Vitality Index)

Vitality Index の結果は以下の通り。

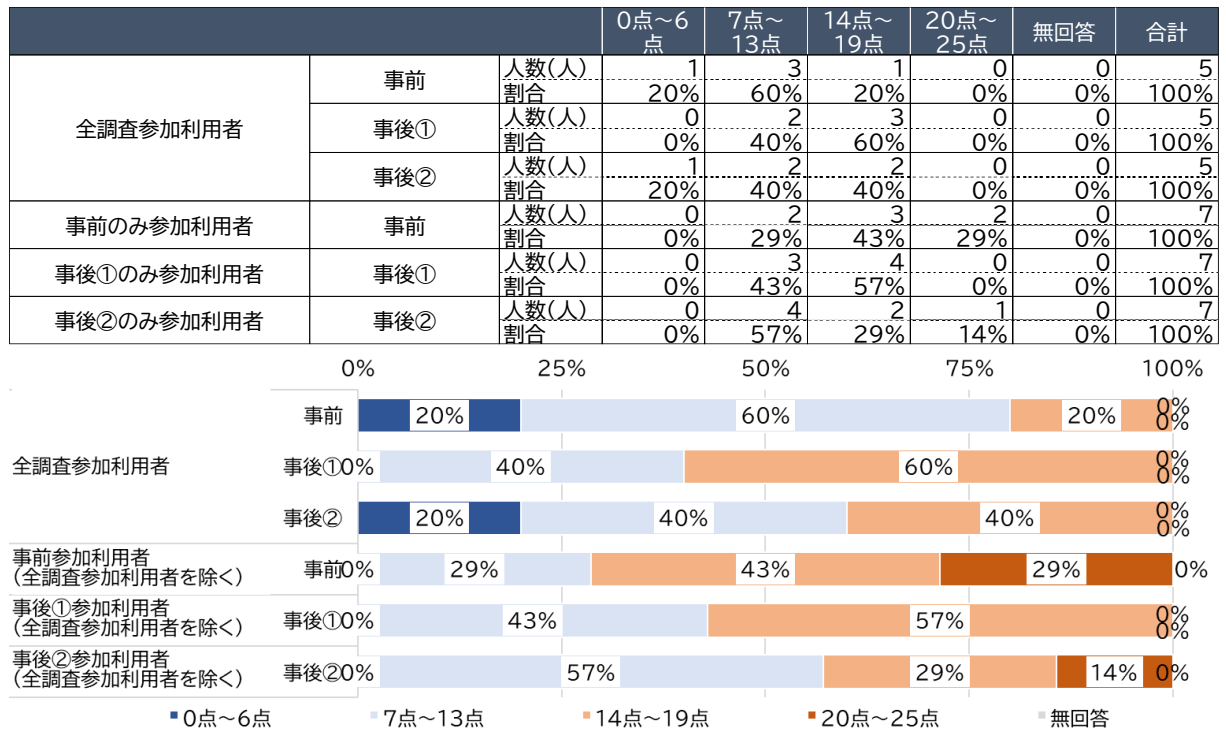
図表 IX-161 Vitality Index



カ. QOL の変化(WHO-5)

WHO-5 の結果は以下の通り。

図表 IX-162 WHO-5



※各 5 項目のうち 1 項目でも無回答がある利用者はすべて無回答とし、各項目の回答が 0、1、2、3、4、5 以外の場合は無回答処理をした。

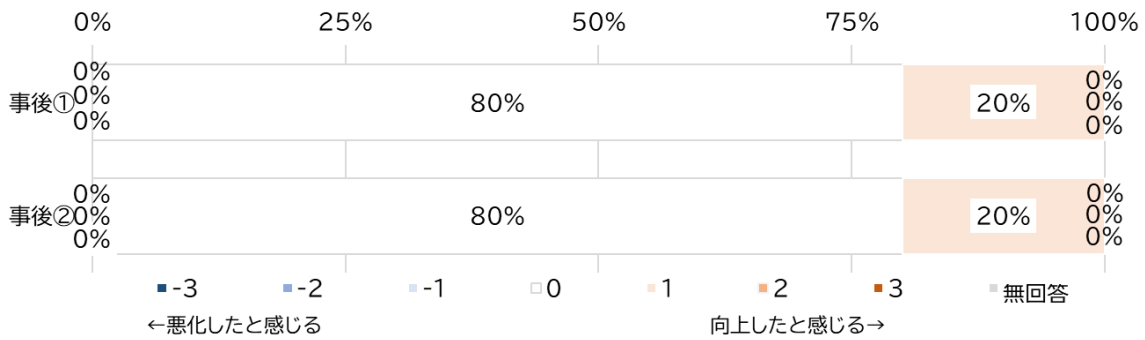
※QOL の変化は、WHO-5 精神的健康状態表を用いて実証対象施設の職員が回答した。最近 2 週間、利用者の状態に最も近いものについて、5 項目それぞれに 5(いつも)~0(まったくない)点で回答し、その合計点で評価。25 点満点。

キ. QOL 変化の総合的な評価

QOL 変化の総合的な評価の結果は以下の通り。

図表 IX-163 QOL 変化の総合的な評価

		←減少したと感じる				増加したと感じる→				無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
事後①	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5	
	割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%	
事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5	
	割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%	



※質問項目に対し、-3(悪化したと感じる)～+3(向上したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

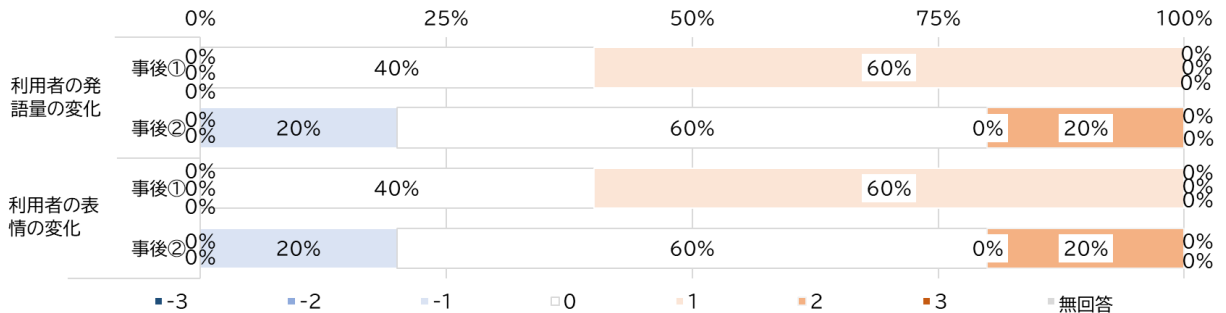
※全調査参加利用者のみを集計対象とした。

ク. コミュニケーションの変化

コミュニケーションの変化の結果は以下の通り。

図表 IX-164 コミュニケーションの変化

			←減少したと感じる→			増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2		
利用者の発語量の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	2	3	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	40%	60%	0%	0%	100%
利用者の表情の変化	事後①	人数(人)	0	0	1	3	0	1	0	5
		割合	0%	0%	20%	60%	0%	20%	0%	100%
利用者の発語量の変化	事後②	人数(人)	0	0	0	2	3	0	0	5
		割合	0%	0%	0%	40%	60%	0%	0%	100%
利用者の表情の変化	事後②	人数(人)	0	0	1	3	0	1	0	5
		割合	0%	0%	20%	60%	0%	20%	0%	100%



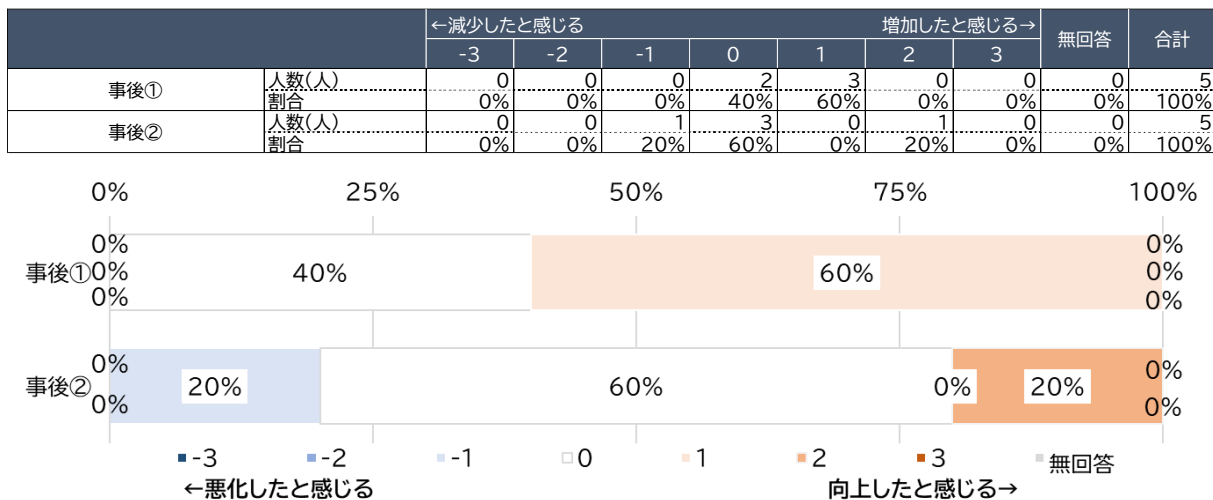
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

※全調査参加利用者のみを集計対象とした。

ケ. コミュニケーション変化の総合的な評価

コミュニケーション変化の総合的な評価の結果は以下の通り。

図表 IX-165 コミュニケーション変化の総合的な評価



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

※全調査参加利用者のみを集計対象とした。

コ. 機能訓練・リハビリテーションへの参加状況の変化

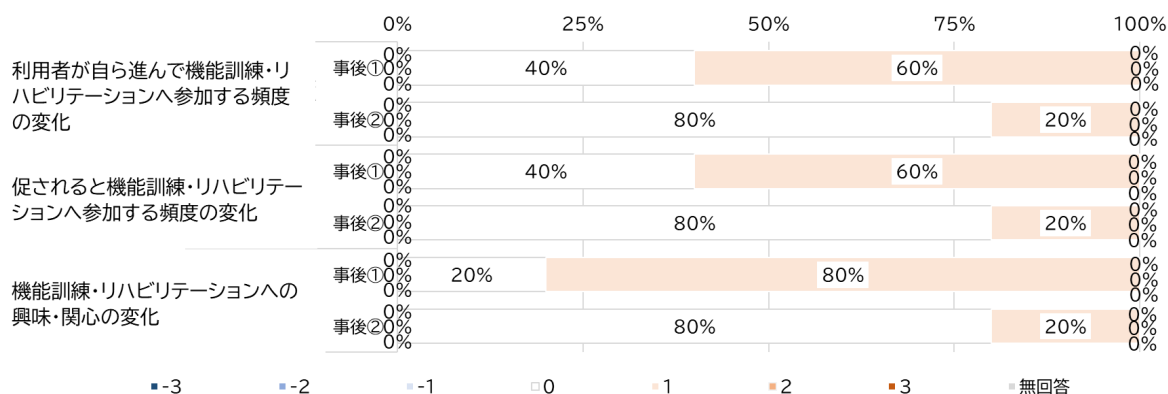
機能訓練・リハビリテーションへの参加状況の変化の結果は以下の通り。

図表 IX-166 機能訓練・リハビリテーションへの参加状況の変化

		←減少したと感じる							増加したと感じる→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者が自ら進んで機能訓練・リハビリテーションへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	2	3	0	0	0	5	
		割合	0%	0%	0%	40%	60%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5	
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%	
促されると機能訓練・リハビリテーションへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	2	3	0	0	0	5	
		割合	0%	0%	0%	40%	60%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5	
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%	
機能訓練・リハビリテーションへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	1	4	0	0	0	5	
		割合	0%	0%	0%	20%	80%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5	
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%	

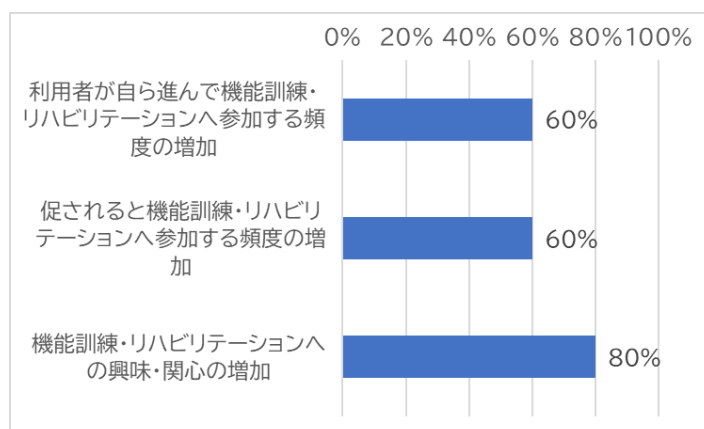
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

※全調査参加利用者のみを集計対象とした。



事後①または事後②で参加状況が改善した利用者の割合は下記の通り。

図表 IX-167 機能訓練・リハビリテーションへの参加状況の変化



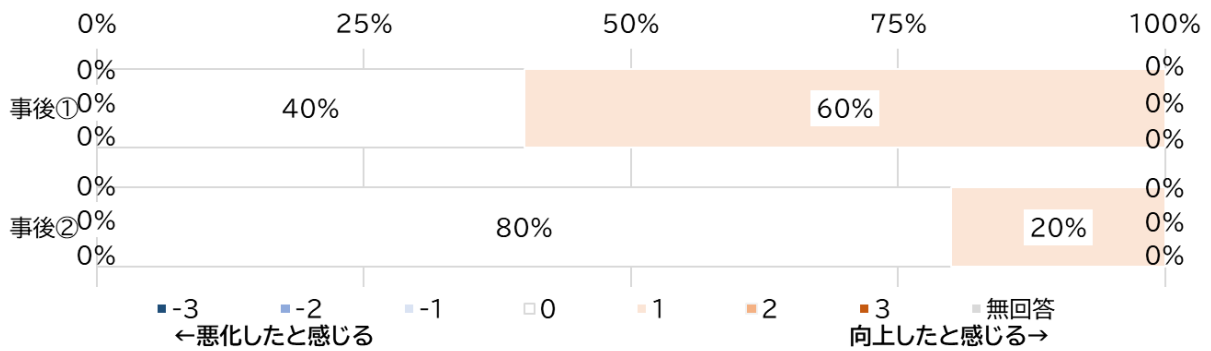
(n=5)

サ. 機能訓練・リハビリテーションへの参加状況の変化の総合的な評価

機能訓練・リハビリテーションへの参加状況の変化の総合的な評価に関する結果は以下の通り。

図表 IX-168 機能訓練・リハビリテーションへの参加状況の変化の総合的な評価

		←減少したと感じる→			増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2		
事後①	人数(人)	0	0	0	2	3	0	0	5
	割合	0%	0%	0%	40%	60%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	5
	割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

※全調査参加利用者のみを集計対象とした。

シ. 社会参加の変化

社会参加の変化の結果は以下の通り。

図表 IX-169 社会参加の変化の総合的な評価

			←減少したと感じる							増加したと感じる→		無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3				
利用者が自ら進んでレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	0	5	
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	1	0	0	0	5	
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	20%	0%	0%	0%	100%	
促されるとレクリエーション・イベントへ参加する頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	1	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	20%	0%	0%	100%		
レクリエーション・イベントへの興味・関心の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	4	1	0	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	80%	20%	0%	0%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	1	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	20%	0%	0%	100%		
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が自ら進んで談話室に向かう頻度の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	2	0	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	60%	40%	0%	0%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	1	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	20%	0%	0%	100%		
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者が他者と交流する時間(談話室にいる時間等)の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	2	0	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	60%	40%	0%	0%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	1	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	20%	0%	0%	100%		
食事やレクリエーション・イベント以外の場面で、利用者の他者との交流回数の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	2	0	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	60%	40%	0%	0%	0%	100%		
	事後②	人数(人)	0	0	0	4	0	1	0	0	5		
		割合	0%	0%	0%	80%	0%	20%	0%	0%	100%		

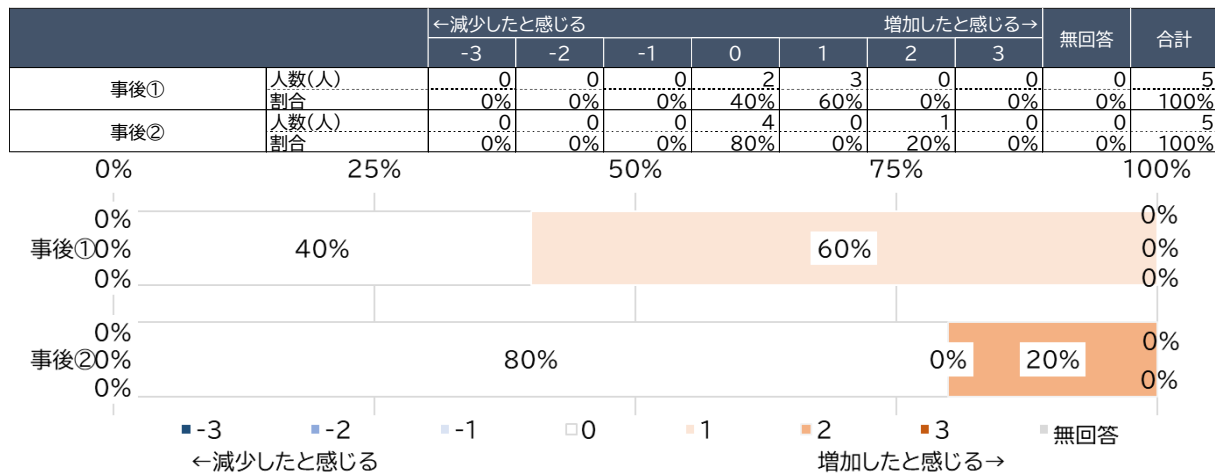
※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

※全調査参加利用者のみを集計対象とした。

ス. 社会参加の変化の総合的な評価

社会参加の変化の総合的な評価の結果は以下の通り。

図表 IX-170 社会参加の変化の総合的な評価



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した(回答は職員が実施)。

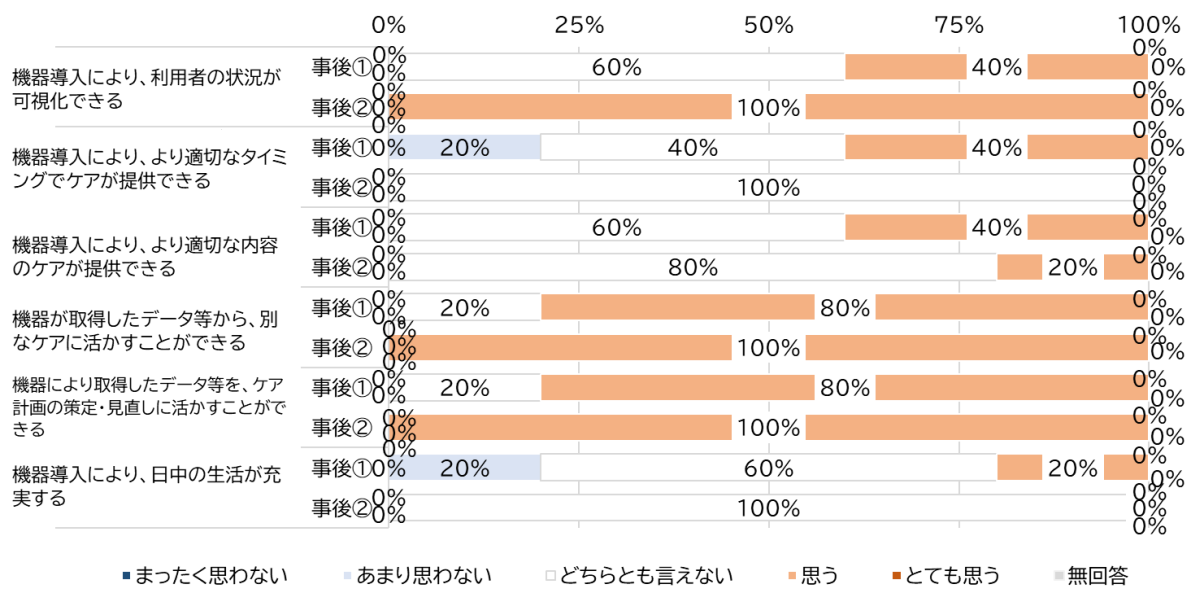
※全調査参加利用者のみを集計対象とした。

セ. ケアの変更

ケアの変更の結果は以下の通り。

図表 IX-171 ケアの変更

		まったく 思わない	あまり 思わない	どちらと も言えな い	思う	とても 思う	無回答	合計
利用者の状況が可視化できる	事後①	0	0	3	2	0	0	5
	割合	0%	0%	60%	40%	0%	0%	100%
	事後②	0	0	0	5	0	0	5
	割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
より適切なタイミングでケアが提供できる	事後①	0	1	2	2	0	0	5
	割合	0%	20%	40%	40%	0%	0%	100%
	事後②	0	0	5	0	0	0	5
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	0%	100%
より適切な内容のケアが提供できる	事後①	0	0	3	2	0	0	5
	割合	0%	0%	60%	40%	0%	0%	100%
	事後②	0	0	4	1	0	0	5
	割合	0%	0%	80%	20%	0%	0%	100%
機器が取得したデータ等から、別なケアに活かすことができる	事後①	0	0	1	4	0	0	5
	割合	0%	0%	20%	80%	0%	0%	100%
	事後②	0	0	0	5	0	0	5
	割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
機器により取得したデータ等を、ケア計画の策定・見直しに活かすことができる	事後①	0	0	1	4	0	0	5
	割合	0%	0%	20%	80%	0%	0%	100%
	事後②	0	0	0	5	0	0	5
	割合	0%	0%	0%	100%	0%	0%	100%
日中の生活が充実する	事後①	0	1	3	1	0	0	5
	割合	0%	20%	60%	20%	0%	0%	100%
	事後②	0	0	5	0	0	0	5
	割合	0%	0%	100%	0%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、全く思わない～とても思うの5段階で評価した(回答は職員が実施)。

※全調査参加利用者のみを集計対象とした。

(5) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の2項目について実証対象の施設より意見を伺い、主な意見を整理した。以下、課題に関する意見は二重下線、効果に関する意見は下線と太字で示している。

① 実証時発生した課題とその対応について

図表 IX-172 実証時発生した課題とその対応について

施設名	カテゴリ	主なご意見
やすらぎの郷牧山 デイサービスセン ター	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>ケアマネジャーへの解析結果の送信ができる</u>とより効率化できる。 • 調査期間中に職員の休職があり、業務負担が通常時と比べて大きくなってしまった。 • <u>カメラを用いた利用者情報の読み込みについては誤りもあるため、見直す手間が生じた。</u>
やすらぎの郷牧山 デイサービスセン ター	利用者	<ul style="list-style-type: none"> • <u>認知症症状がある利用者についてはアセスメントに時間がかかった。</u> • 対象利用者の入院・体調不良が多く、来所日が少ない方や途中でやめてしまった方がいた。 • <u>AI が提案するメニューの種類が少ないため、職員で確認・追加が必要だった。</u>
やすらぎの郷牧山 デイサービスセン ター	事業所全体	<ul style="list-style-type: none"> • 通常業務の中で用いている介護ソフトを用いた計画書作成・アセスメントも実施したため、二重でアセスメントを実施する必要があった。
牧山いわき苑通所 リハビリテーション	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>通所リハビリテーションにおいては評価項目が多岐にわたるため、計画書作成時間の短縮にはつながらなかった。</u> • <u>機器の扱いに不慣れであったことや利用者への説明の手間があったため、業務量は増加した。</u> • <u>操作の個人差で測定値がブレやすいことから、機能訓練ソフトに関するチェックリストの導入やマニュアルの作成により職員間で手順を標準化する工夫が必要。</u>
牧山いわき苑通所 リハビリテーション	利用者	<ul style="list-style-type: none"> • <u>測定できる項目や提案されるリハビリテーションの種類が増えると今後より活用できる。</u>
牧山いわき苑通所 リハビリテーション	事業所全体	<ul style="list-style-type: none"> • <u>Wi-Fi がつながりにくい場合に場所を変える必要があった。</u>

② 実証目的に対する達成状況について

図表 IX-173 実証目的に対する達成状況について

施設名	カテゴリ	主なご意見
やすらぎの郷牧山 デイサービスセン ター	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>事後①と比べて事後②の方が操作に慣れたため入力時間が短くなった。</u> • <u>計画書作成については、機能訓練ソフトを用いることで効率化できた。</u>
やすらぎの郷牧山 デイサービスセン ター	利用者	<ul style="list-style-type: none"> • <u>利用者の状態を可視化できたことで、利用者やケアマネジャーへの説明がしやすくなった。特に歩行分析については利用者からの評価が高かった。</u> • <u>AI からの提案を生かして短時間で幅広い観点から目標を立てることができた。これまではADL等に注目することが多かったため、特に生活や社会参加の箇所については新たな気づきがあった。</u>
牧山いわき苑通所 リハビリテーション	職員	<ul style="list-style-type: none"> • <u>利用者の状態が可視化されてモチベーション向上につながると、職員としてもやりがいを感じた。</u> • <u>機能訓練ソフトの結果を参照することで、歩行や口腔をどのような観点で確認すればよいのかという指標の理解につながった。</u>
牧山いわき苑通所 リハビリテーション	利用者	<ul style="list-style-type: none"> • <u>利用者の状態が可視化できるため、リハビリテーション前後で点数が向上しているとモチベーション向上につながった。「さらに点数を上げるにはどうすればよいのか」と前向きな発言があった。</u> • <u>利用者は特に歩行を重視しているため、歩行の点数が数値化される点が良かった。</u> • <u>口腔の評価ができたため、新たに口腔体操を実施するきっかけになった。</u>

X. 実証結果:①－5AI 活用

【訪問スケジュール作成ツール】

1. 実証概要

(1) 実証目的

AI 技術等のテクノロジーを活用した職員の負担軽減、ケアの質の確保等に関する効果について検証する。

(2) 実証仮説

AI ツールの活用、オペレーションの変更の取組により、以下の変化がみられることを仮説とした。

- ① AI ツールの活用によりスケジュール作成を行う職員の負担が軽減する。
- ② AI によるタスクシフトが実現し、直接介護や職員指導等の時間の増加によりケアの質向上に繋がる。
- ③ AI が作成したスケジュールにより、移動時間の短縮等、業務を効率化することができる。

(3) 実証機器

本実証では以下のソフトウェアを用いた。

図表 X-1 実証でを使用したソフトウェア

No	メーカー名	ツール名	ツールの概要
1	株式会社 CareMaker	CareMaker	訪問スケジュール作成 AI ツール
2	株式会社ゼスト	ZEST	訪問スケジュール作成 AI ツール

(4) 対象事業所

本実証の対象事業所は以下の通り。

なお、実証結果は、オペレーションの変更が想定通りにできなかった事業所の結果を除く。

図表 X-2 実証対象事業所

No	法人名	事業所名	導入機器	介護記録ソフトとの連携
1	一般社団法人街のイスキア	街のイスキア訪問ナースステーション	ZEST	あり
2	学校法人藤田学園	藤田医科大学訪問看護ななくり	ZEST	なし
3	社会福祉法人いろどり福祉会	ホームヘルパーステーション花紬	ZEST	あり
4	NPO 法人 Cheri	あいる居宅さぽーと	CareMaker	なし
5	株式会社 ASKEN	訪問介護ステーションひより	CareMaker	なし

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。

図表 X-3 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和 7 年 6 月～8 月のうち 5 日間
事後調査①	令和 7 年 8 月～9 月のうち 5 日間
事後調査②	令和 7 年 12 月～令和 8 年 1 月のうち 5 日間
ヒアリング調査	令和 7 年 12 月～令和 8 年 1 月

※新型コロナウイルス感染症の影響や機器の導入調整等の影響により、各事業所の調査時期には幅がある。

イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査①・②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「経営的指標調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 X-4 各調査の概要

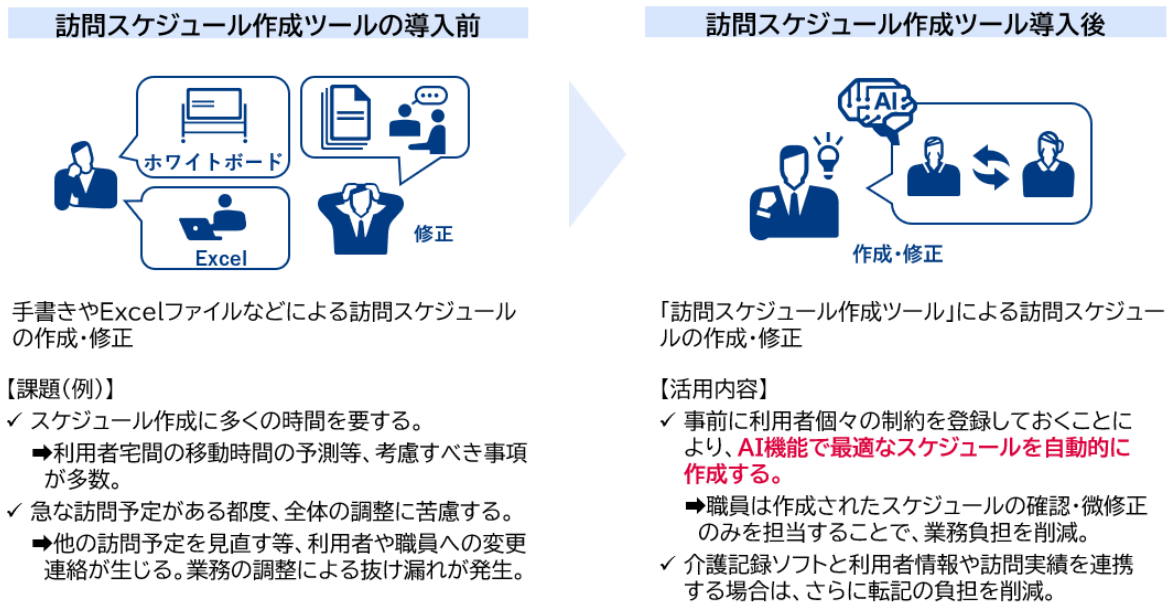
調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	訪問スケジュール作成者	<ul style="list-style-type: none"> 回答方法:自記式(1日のうち各業務に要した合計時間を記入)による回答 調査スケジュール:事前(訪問スケジュール作成ツール導入前)1回、事後調査①・②(訪問スケジュール作成ツール導入後)2回の計3回。各日に勤務した職員全員が回答 調査実施の時間帯:実際に勤務した時間全て
職員向けアンケート調査	訪問スケジュール作成者	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式による回答 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、職員1名につき1回のみ回答
経営的指標調査	実証責任者	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式 調査スケジュール:タイムスタディ調査に合わせて事前と事後調査①・②の各調査期間において、1日の契約件数、利用者数、訪問件数を回答
業務時間等調査	実証責任者	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:自記式 調査スケジュール:事後調査②終了後に、実証に参加した職員全員について実証責任者が回答
ヒアリング調査	実証責任者、訪問スケジュール作成者	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:Web会議による聞き取り 調査スケジュール:実証終了後に1回実施

ウ. 本実証で目指すところ

事前調査では通常通りのオペレーションで調査を実施する。事後調査では、訪問スケジュール作成ツールを導入し、必要なオペレーション変更を実施した状態で調査を実施した。

具体的な実施方法については以下の通り。

図表 X-5 実証調査の実施方法



(6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、経営的指標調査、業務時間等調査、ヒアリング調査を行った。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「A.直接介護」「B.間接業務(小分類 10 項目)」「C. 休憩・待機」「D. その他」の 4 分類で整理し、計 14 項目を用意した。

図表 X-6 タイムスタディ調査 項目

No	分類	Sub-No	項目
A	直接業務	1	直接介護・看護・リハビリテーション(※1)
B	間接業務	2	記録・文書作成(※2)
		3	スケジュールの新規作成・修正
		4	スケジュールの転記・職員間調整
		5	情報連携(事業所内)(※3)
		6	情報連携(他事業所・家族)(※4)
		7	新規利用者受入提案・対応
		8	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し(※5)
		9	AI ツール活用にかかる業務(※6)
		10	移動 / 送迎
		11	その他間接業務

No	分類	Sub -No	項目
C	休憩	12	休憩
		13	待機
D	その他	14	その他

※1 見守りを含む

※2 利用者に関する記録等の作成

※3 申し送り、職員間の連絡調整、事業所内の情報連携

※4 他事業所や家族との情報連携(利用者の状況報告、実績報告など)

※5 モニタリング訪問を含む

※6 ベンダーとの連絡調整、現場職員への説明等

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の2種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前と事後で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度 (Stress Response Scale-18 に基づく)と、加えて事後では、生産性向上の取組によるモチベーションの変化、生産性向上の取組の進めやすさ、生産性向上の取組の対象とした課題への理解、生産性向上の取組による職員や事業所業務の変化、導入機器の満足度評価(Quest 福祉用具満足度評価)、全体的な満足度評価とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 経営的指標調査

経営的指標調査では、各調査時点で、5日間各日における、契約件数、訪問した利用者数、訪問件数の調査を行った。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に1回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

オ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象事業所の管理者および訪問スケジュール作成担当職員に対し調査を行った。

2. 実証結果

(1) 職員概要

図表 X-7 職員概要 性別

		男性	女性	無回答	合計
総数	人数(人)	2	5	0	7
	割合	29%	71%	0%	100%

図表 X-8 職員概要 年齢

		20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
総数	人数(人)	0	2	0	4	1	0	0	0	7
	割合	0%	29%	0%	57%	14%	0%	0%	0%	100%

図表 X-9 職員概要 職種

		介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓 練指導員を 含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	2	0	3	2	0	0	0	0	7
	割合	29%	0%	43%	29%	0%	0%	0%	0%	100%

図表 X-10 職員概要 役職

		経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
総数	人数(人)	0	4	3	0	0	7
	割合	0%	57%	43%	0%	0%	100%

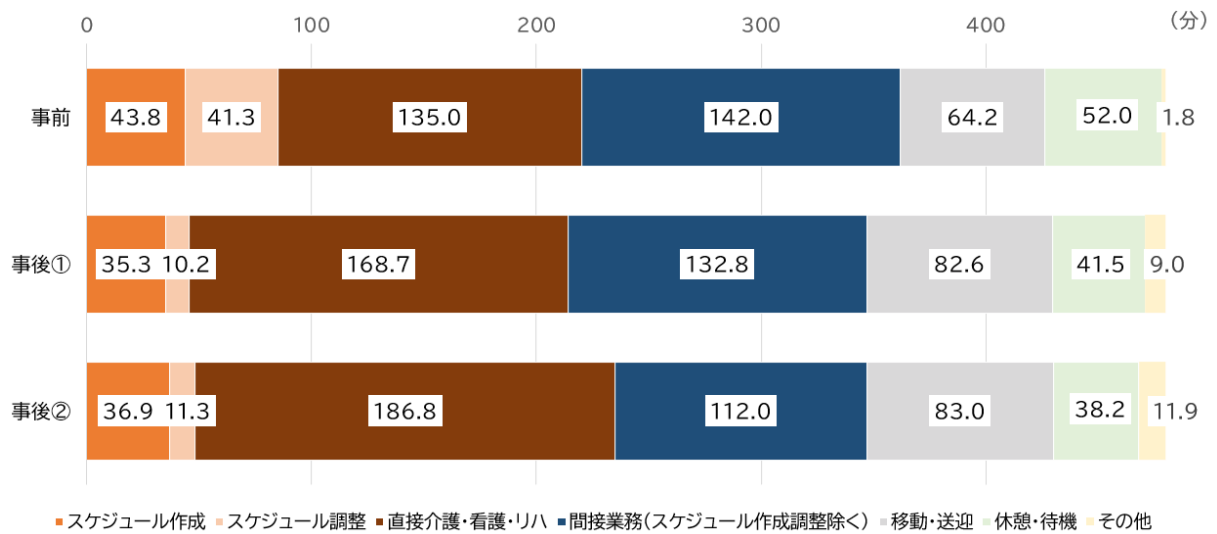
(2) タイムスタディ調査結果

訪問スケジュール作成を担当する職員のタイムスタディ調査の結果は以下の通り。

スケジュール作成にかかる時間は、480分換算で事前調査では43.8分であったのに対し、事後①では35.3分、事後②では36.9分に微減した。スケジュール調整にかかる時間は、事前調査では41.3分であったのに対し、事後①では10.2分、事後②では11.3分と大きく減少した。

積算においても、スケジュール作成・調整時間は、事前と比較し、事後①および事後②で減少した。また、直接介護・看護・リハ時間の増加に伴い、総業務時間が増加した。

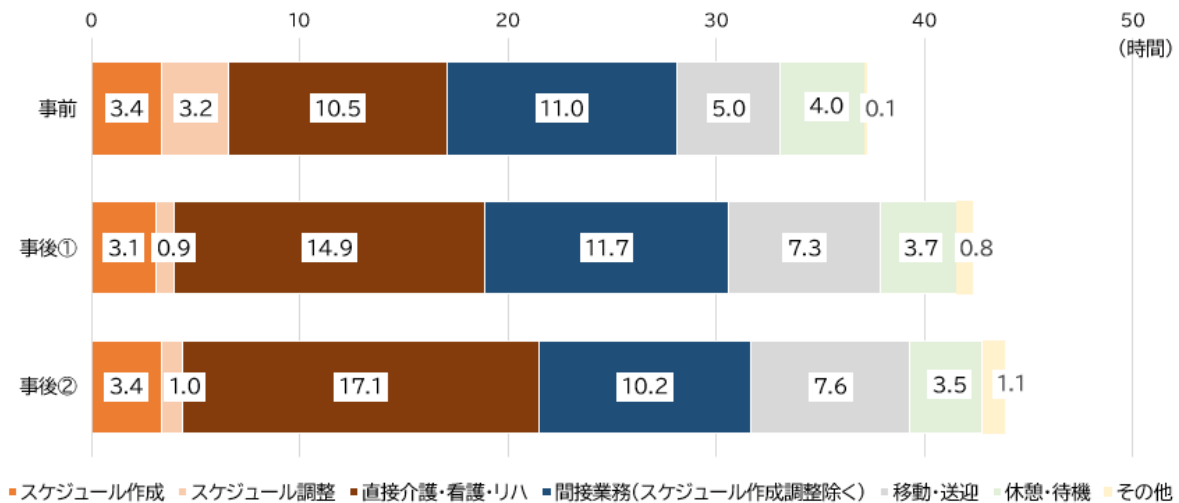
図表 X-11 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 1 日(480 分)あたり)



事前調査 n=9
 事後調査① n=9
 事後調査② n=7

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
 ※グラフ上の数は、調査結果の和から 8 時間(480 分)換算した値。

図表 X-12 タイムスタディ調査の結果(介護職員 1 人 5 日間の積算)



事前調査 n=9
 事後調査① n=9
 事後調査② n=7

※5 日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。
 ※グラフ上の数は、調査結果の和から一人あたりに換算した値。

(3) 職員向けアンケート調査結果

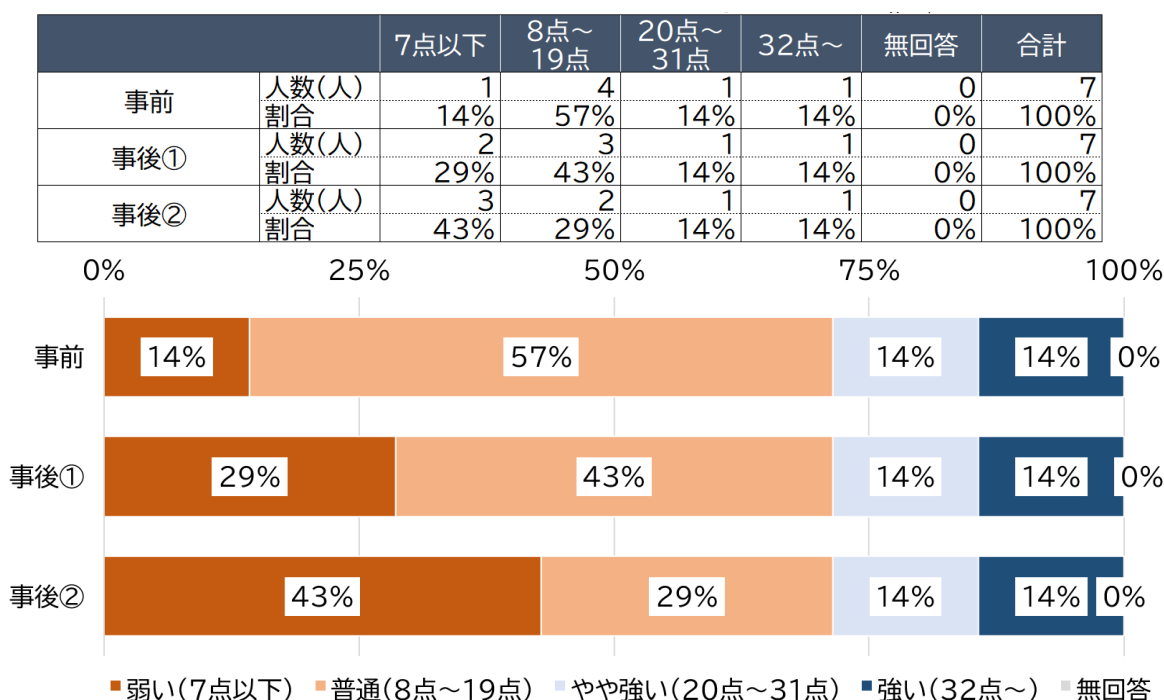
事前調査・事後調査①・②ともに訪問スケジュール作成者のみを対象とした。

ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

ストレス反応が「弱い」割合が事前調査では、14%であったのに対し、事後①では29%、事後②では43%に増加した。

図表 X-13 心理的負担評価(SRS-18)



※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

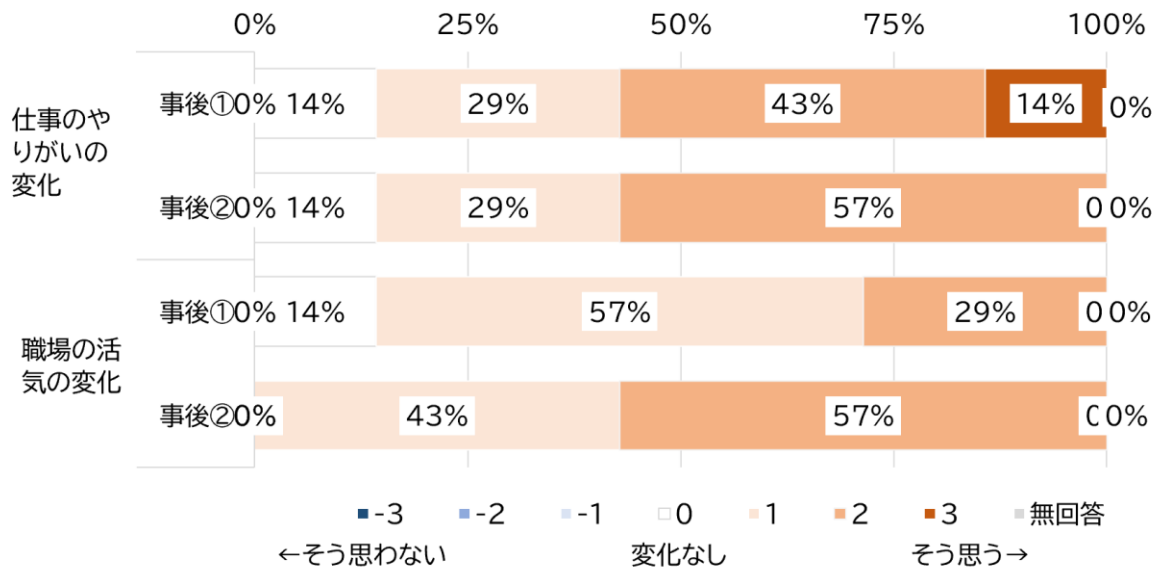
イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

「仕事のやりがいの変化」について、「3(そう思う)」の割合は、事前では14%であり、事後②では0%に減少した。「職場の活気の変化」について、「1(そう思う)」もしくは「2(そう思う)」の割合は、事前では86%であり、事後②では100%に増加した。

図表 X-14 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

			←減少したと感じる				増加したと感じる→			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3		
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	0	1	2	3	1	0	7
		割合	0%	0%	0%	14%	29%	43%	14%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	1	2	4	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	14%	29%	57%	0%	0%	100%
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	1	4	2	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	14%	57%	29%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	3	4	0	0	7
		割合	0%	0%	0%	0%	43%	57%	0%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の7段階で評価した。

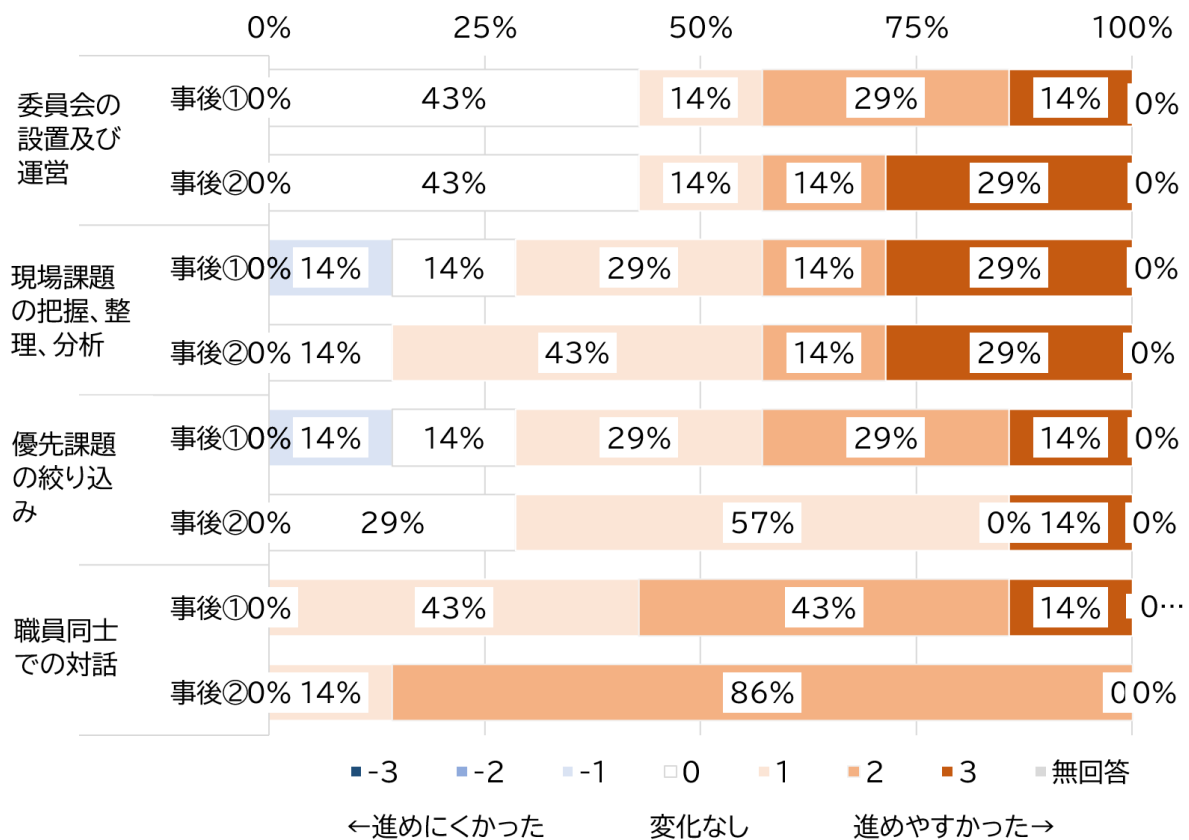
ウ. 生産性向上の取組の進めやすさ

生産性向上の取組の進めやすさの結果は以下の通り。

「委員会の設置および運営」について、「3(進めやすかった)」の割合は、事後①が14%であり、事後②では29%に増加した。「現状課題の把握、整理、分析」および「優先課題の絞り込み」について、「-1(進めにくかった)」の割合は、事後①が14%であり、事後②では0%に減少した。「職員同士での対話」について、「2(進めやすかった)」もしくは「3(進めやすかった)」の割合は、事後①が57%であり、事後②では86%に増加した。

図表 X-15 生産性向上の取組の進めやすさ

		←進めにくかった					進めやすかった→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
委員会の設置及び運営	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	1 14%	2 29%	1 14%	0 0%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	1 14%	1 14%	2 29%	0 0%	7 100%
現場課題の把握、整理、分析	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	1 14%	2 29%	1 14%	2 29%	0 0%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	1 14%	3 43%	1 14%	2 29%	0 0%	7 100%
優先課題の絞り込み	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	1 14%	2 29%	2 29%	1 14%	0 0%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 29%	4 57%	0 0%	1 14%	0 0%	7 100%
職員同士での対話	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	3 43%	1 14%	0 0%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	1 14%	6 86%	0 0%	0 0%	7 100%



※質問項目に対し、-3(進めにくかった)~+3(進めやすかった)の7段階で評価した。

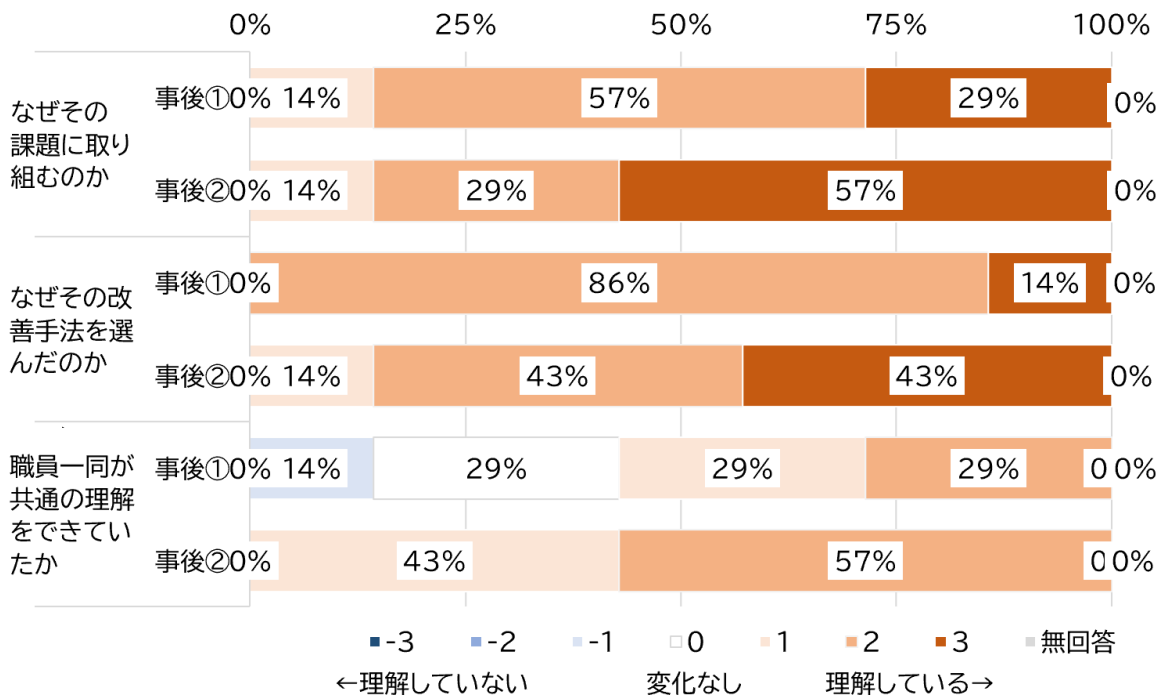
工. 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

生産性向上の取組の対象とした課題への理解に関する結果は以下の通り。

「なぜその課題に取り組むのか」について、「3(理解している)」の割合は、事後①が 29%であり、事後②では 57%に増加した。「なぜその改善手法を選んだのか」について、「3(理解している)」の割合は、事後①が 14%であり、事後②では 43%に増加した。「職員一同が共通の理解をできていたか」について、「-1(理解していない)」の割合は、事後①が 14%であり、事後②では 0%に減少した。また、「1(理解している)」もしくは「2(理解している)」の割合は、事後①が 58%であり、事後②では 100%に増加した。

図表 X-16 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

		←理解していない→							理解している→		無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
なぜその課題に取り組むのか	事後①	人数(人)	0	0	0	0	1	4	2	0	7	
		割合	0%	0%	0%	0%	14%	57%	29%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	1	2	4	0	7	
		割合	0%	0%	0%	0%	14%	29%	57%	0%	100%	
なぜその改善手法を選んだのか	事後①	人数(人)	0	0	0	0	0	6	1	0	7	
		割合	0%	0%	0%	0%	0%	86%	14%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	1	3	3	0	7	
		割合	0%	0%	0%	0%	14%	43%	43%	0%	100%	
職員一同が共通の理解をできていたか	事後①	人数(人)	0	0	1	2	2	2	0	0	7	
		割合	0%	0%	14%	29%	29%	29%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	0	3	4	0	0	7	
		割合	0%	0%	0%	0%	43%	57%	0%	0%	100%	



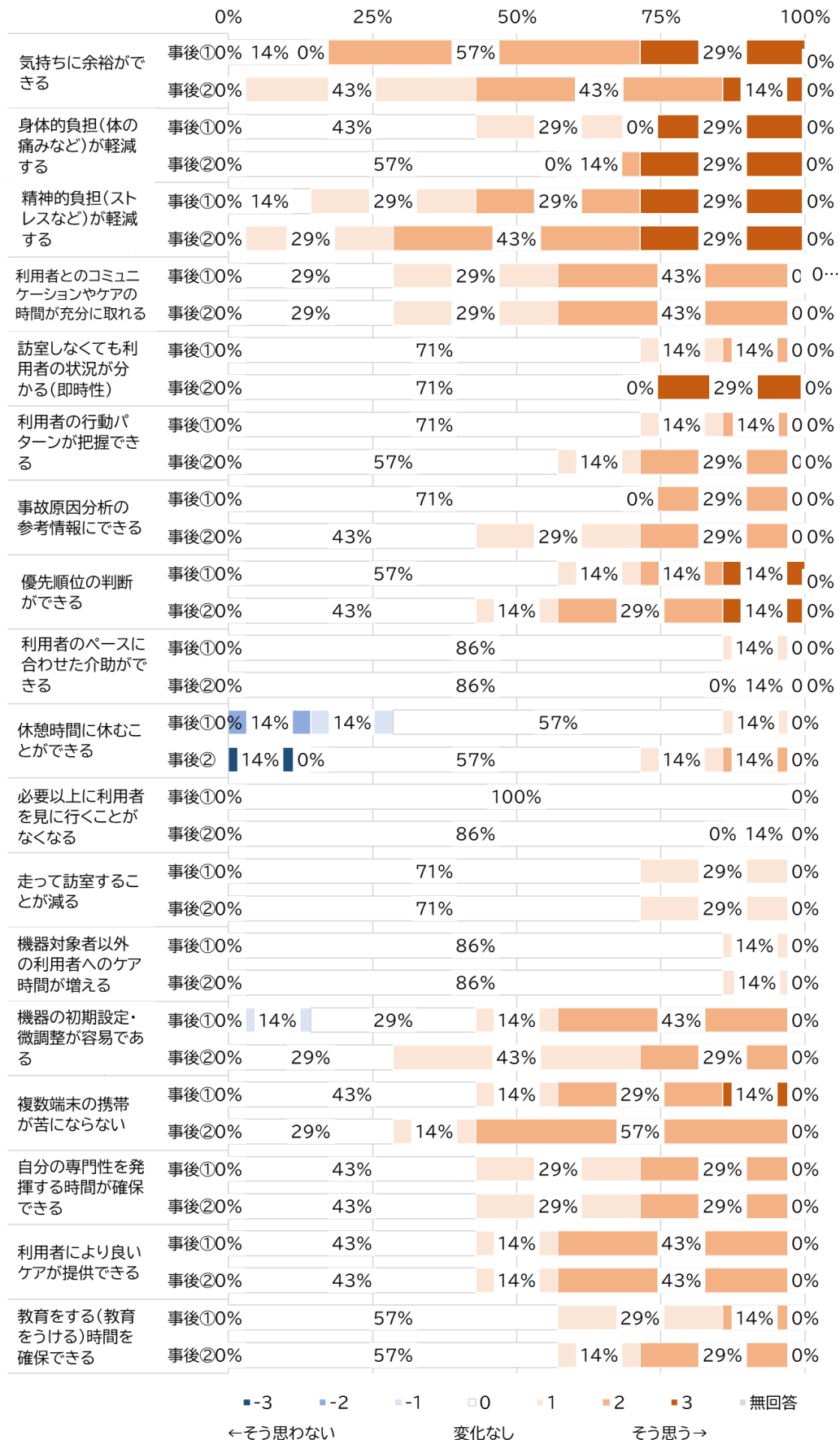
※質問項目に対し、-3(理解していない)~+3(理解している)の7段階で評価した。

オ. 生産性向上の取組による職員や事業所業務の変化

生産性向上の取組による職員や事業所業務の変化の結果は以下の通り。

図表 X-17 生産性向上の取組による職員や事業所業務の変化

			←そう思わない					変化なし			→そう思う			無回答	合計
			-3	-2	-1	0	1	2	3						
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	1 14%	0 0%	4 57%	2 29%	0 0%	0 0%	7 100%			
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	3 43%	1 14%	0 0%	7 100%				
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	2 29%	0 0%	2 29%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 57%	0 0%	1 14%	2 29%	0 0%	7 100%				
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	1 14%	2 29%	2 29%	2 29%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 29%	3 43%	2 29%	0 0%	7 100%				
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が十分に取れる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 29%	2 29%	3 43%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 29%	2 29%	3 43%	0 0%	0 0%	7 100%				
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 71%	1 14%	1 14%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 71%	0 0%	0 0%	2 29%	0 0%	7 100%				
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 71%	1 14%	1 14%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 57%	1 14%	2 29%	0 0%	0 0%	7 100%				
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 71%	0 0%	2 29%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	2 29%	2 29%	0 0%	0 0%	7 100%				
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 57%	1 14%	1 14%	1 14%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	1 14%	2 29%	1 14%	0 0%	7 100%				
利用者のペースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	6 86%	1 14%	0 0%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	6 86%	0 0%	1 14%	0 0%	0 0%	7 100%				
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 14%	1 14%	4 57%	1 14%	0 0%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	1 14%	0 0%	0 0%	4 57%	1 14%	1 14%	0 0%	0 0%	7 100%				
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	7 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	6 86%	0 0%	1 14%	0 0%	0 0%	7 100%				
走って訪室することが減る	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 71%	2 29%	0 0%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 71%	2 29%	0 0%	0 0%	0 0%	7 100%				
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	6 86%	1 14%	0 0%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	6 86%	1 14%	0 0%	0 0%	0 0%	7 100%				
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	2 29%	1 14%	3 43%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 29%	3 43%	2 29%	0 0%	0 0%	7 100%				
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	1 14%	2 29%	1 14%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 29%	1 14%	4 57%	0 0%	0 0%	7 100%				
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	2 29%	2 29%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	2 29%	2 29%	0 0%	0 0%	7 100%				
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	1 14%	3 43%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	1 14%	3 43%	0 0%	0 0%	7 100%				
教育をする(教育を受ける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 57%	2 29%	1 14%	0 0%	0 0%	7 100%				
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 57%	1 14%	2 29%	0 0%	0 0%	7 100%				



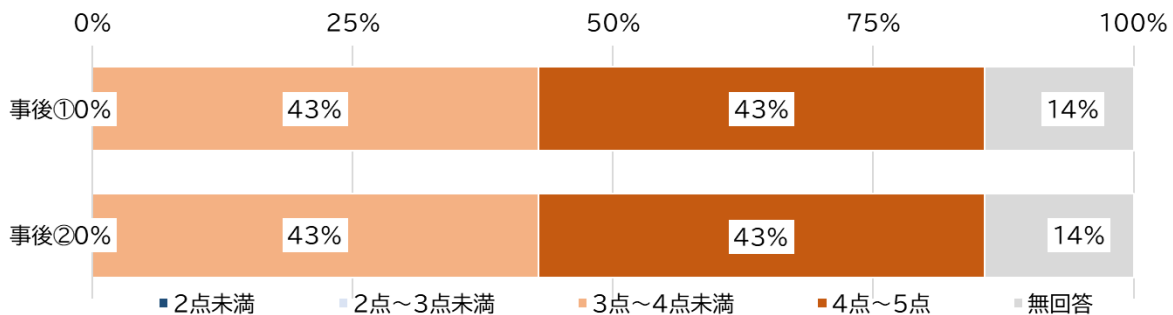
※質問項目に対し、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の7段階で評価した。

カ. 導入機器の満足度評価(QUEST 福祉用具満足度評価)

満足度評価(QUEST 福祉用具満足度評価)に関する結果は以下の通り。

図表 X-18 満足度評価(QUEST 福祉用具満足度評価)

			全く満足 していない	あまり 満足 していない	やや満足 している	満足して いる	非常に 満足 している	無回答	合計
その福祉用具の大きさに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	2 29%	5 71%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 29%	1 14%	4 57%	7 100%
その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	1 14%	1 14%	5 71%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 29%	1 14%	4 57%	7 100%
その福祉用具の調節しやすさに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	2 29%	1 14%	3 43%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 14%	1 14%	2 29%	1 14%	2 29%	7 100%
その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 43%	1 14%	3 43%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 29%	2 29%	1 14%	2 29%	7 100%
その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	1 14%	0 0%	5 71%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	2 29%	0 0%	4 57%	7 100%
その福祉用具の使いやすさに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 29%	3 43%	1 14%	1 14%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 29%	4 57%	0 0%	1 14%	7 100%
その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	3 43%	1 14%	2 29%	1 14%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 29%	3 43%	1 14%	1 14%	7 100%
その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	3 43%	2 29%	1 14%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 29%	3 43%	1 14%	1 14%	7 100%
その福祉用具の取得手続きと期間に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	1 14%	2 29%	3 43%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	2 29%	1 14%	3 43%	7 100%
その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	0 0%	2 29%	4 57%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	2 29%	2 29%	1 14%	2 29%	7 100%
その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	2 29%	3 43%	1 14%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 14%	3 43%	2 29%	1 14%	7 100%
その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 14%	0 0%	1 14%	2 29%	3 43%	7 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 14%	1 14%	2 29%	2 29%	1 14%	7 100%



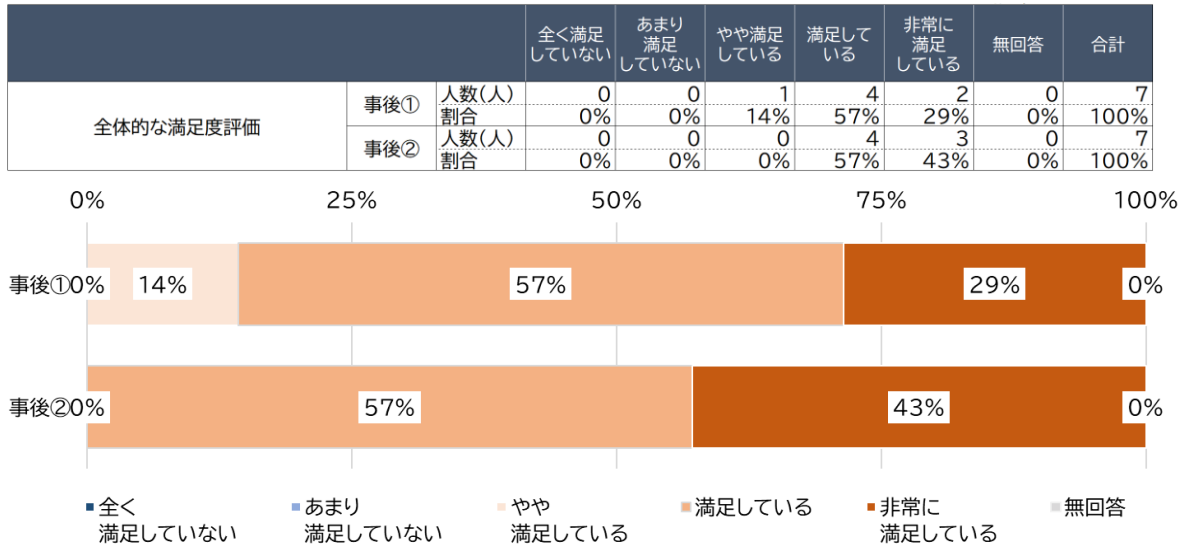
※質問項目に対し、-2(全く思わない)～+2(とても思う)の5段階で評価した。

キ. 全体的な満足度評価

全体的な満足度評価の結果は以下の通り。

「満足している」もしくは「非常に満足している」の割合は、事後①が 86%であり、事後②では 100%に増加した。

図表 X-19 全体的な満足度評価



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価した。

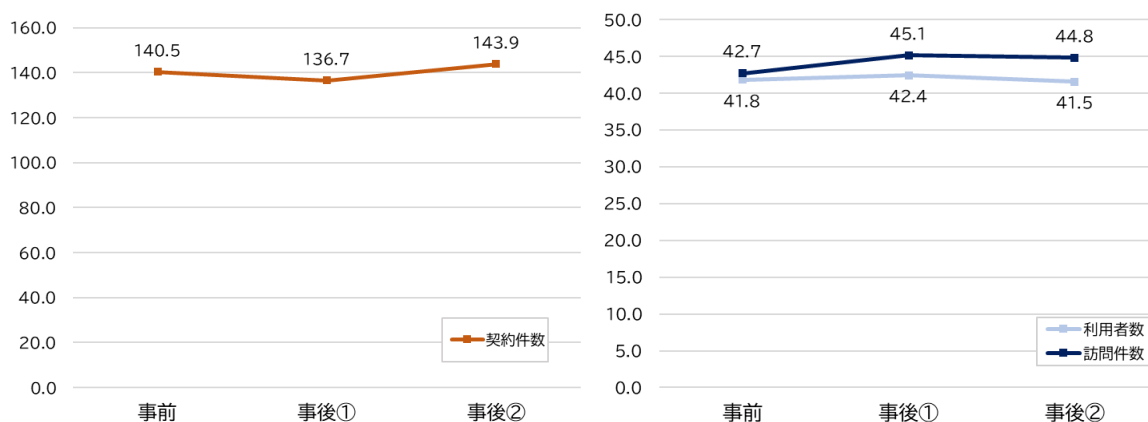
(4) 経営的指標調査結果

経営的指標の集計結果は以下の通り。

契約件数、1日あたりの利用者数、1日あたりの訪問件数は、実証期間を通じて、大きな変化は見られなかった。

図表 X-20 契約件数、利用者数、訪問件数について

	契約件数			利用者数			訪問件数		
	合計	1日平均	1事業所あたり	合計	1日平均	1事業所あたり	合計	1日平均	1事業所あたり
事前	2107	421.4	140.5	627	125.4	41.8	640	128.0	42.7
事後①	2050	410.0	136.7	636	127.2	42.4	677	135.4	45.1
事後②	2159	431.8	143.9	623	124.6	41.5	672	134.4	44.8



事前調査 n=3 事業所
 事後調査① n=3 事業所
 事後調査② n=3 事業所

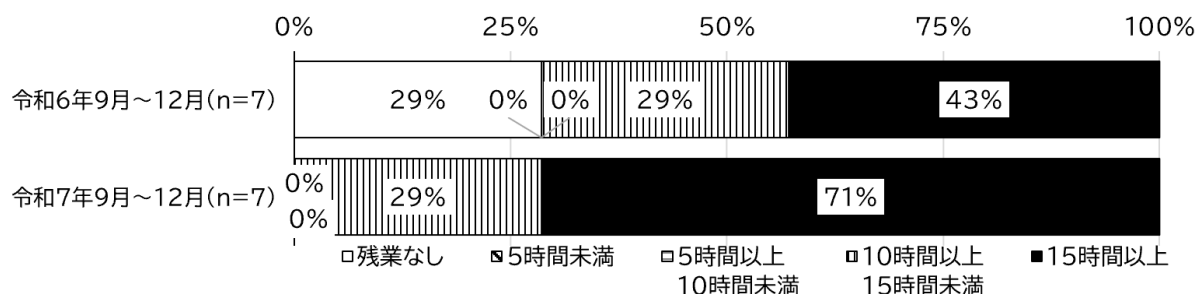
(5) 業務時間等調査結果

ア. 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間について、集計結果は以下の通り。

図表 X-21 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

		残業なし	5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上 15時間未満	15時間以上	平均時間
令和6年9月～12月(n=7)	人数(人)	2	0	0	2	3	14.71
	割合	29%	0%	0%	29%	43%	
令和7年9月～12月(n=7)	人数(人)	0	0	0	2	5	25.02
	割合	0%	0%	0%	29%	71%	



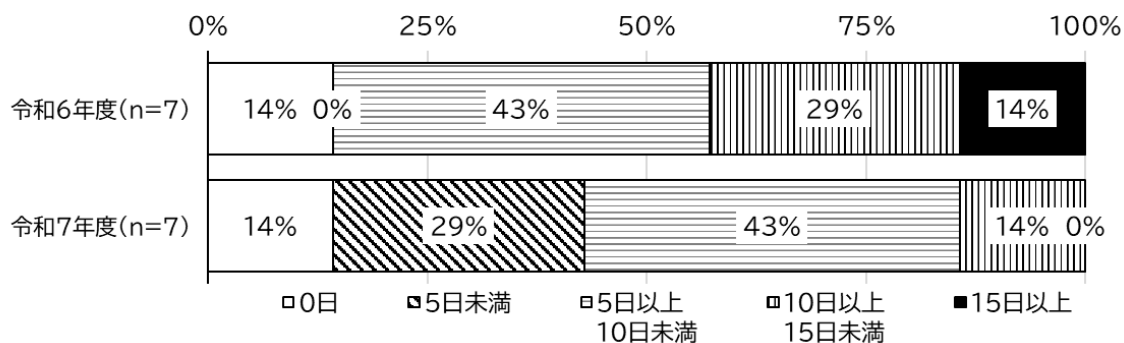
イ. 職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数

職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数について、集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12 か月に満たない場合、取得日数(a)を実績を把握した月(b)で除し、12 か月換算した推計値(a/b×12)を算出し、以下に取りまとめた。

図表 X-22 有給休暇の取得状況の変化

		0日	5日未満	5日以上 10日未満	10日以上 15日未満	15日以上	平均日数
令和6年度(n=7)	人数(人)	1	0	3	2	1	10.00
	割合	14%	0%	43%	29%	14%	
令和7年度(n=7)	人数(人)	1	2	3	1	0	5.90
	割合	14%	29%	43%	14%	0%	

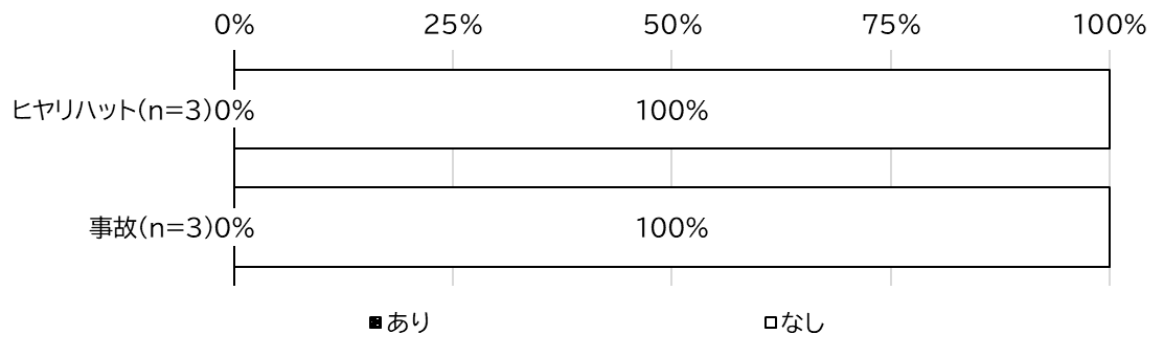


ウ. 実証期間中のヒヤリハット・事故

実証期間中のヒヤリハット・事故についての結果は以下の通り。

図表 X-23 実証期間中のヒヤリハット・事故の有無

		あり	なし
ヒヤリハット	施設数(件)	0	3
	割合	0%	100%
事故	施設数(件)	0	3
	割合	0%	100%



(6) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の5項目について実証対象の事業所より意見を伺い、主な意見を整理した。

① スケジュール作成ツール導入前の課題について

図表 X-24 スケジュール作成ツール導入前の課題について

カテゴリ	主なご意見
業務時間	<ul style="list-style-type: none"> スケジュール作成に時間を要する点が課題であった。 スケジュール作成業務は、自宅へ持ち帰り、作業しており、経営層としても問題視していた。 不整脈が出るくらい、訪問スケジュールの作成に疲弊していた。訪問看護は夜間の利用者対応もあるが、その合間を縫って夜間にスケジュールを作成していた。
スケジュール作成・調整業務	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内でないと、スケジュールを作成できない状況であった。 特に同行訪問など、訪問の抜け漏れが無いように管理することが大変であった。 新規利用者があった場合、紙媒体の提供表、介護記録ソフト、看護部門・リハビリ部門の各 Excel ファイルを、それぞれ確認し、入力する必要があり、煩雑であった。 訪問スケジュールをスプレッドシートで管理していた。予定を変更すると、介護記録ソフトの訪問記録も手入力する必要があり、複数のツールの情報を変更する手間が課題であった。 手書きで作成したものを、パソコンに入力していた。
業務の属人化	<ul style="list-style-type: none"> スケジュールは、管理者1名が作成しており、属人化が課題であった。

② 導入後の取組について

図表 X-25 導入後の取組について

カテゴリ	主なご意見
導入時の課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 導入直後の1か月は、ツールや運用に慣れることが大変であった。特に、最初の利用者情報等の設定に時間を要した。 ● 操作方法について、特に難渋したことはなかった。
定着までの期間	<ul style="list-style-type: none"> ● 約2週間で、従来の Excel ファイルの運用を廃止でき、さらに約2週間でツールを用いた運用に慣れてきた。 ● まだ完全には操作に慣れてはいないが、約1か月でスムーズに導入できた。 ● 2～3カ月程度で、おおよその操作方法に慣れた。事後②時点では、詳細な操作方法が分かるようになってきた。 ● 現時点では、現場での実用に至っていない。
運用ルール・オペレーションの見直し	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前では、リーダーがスケジュールの抜け漏れがないかを確認していたが、事後では、確認作業を廃止し、各利用者の担当者が確認するのみとした。 ● 事前は、管理者が訪問スケジュールを作成し、事務職員が確認する運用としていた。事後では、事務職員の退職もあり、管理者が作成するのみの運用となった。確認および微調整は、各利用者担当が対応できるようになった。 ● 訪問スケジュールの作成・修正は、管理者のみが実施する業務ではないことを、職員に周知していった。 ● AI が作成したスケジュールを微調整して使用する運用としている。また、訪問の前日に、ダブルチェックを実施している。 ● 事前は、記録を入力する際に、介護記録ソフト上の訪問予定と実訪問時間に差異が生じるために、確認する作業が発生していたが、事後では、訪問スケジュール作成ツールの情報を介護記録ソフトに連携できるため、確認作業が不要となった。 ● 新しいツールを取り入れることは大変だが、「ツールを使いこなせると皆の負担が軽減するため、乗り越えよう」と声をかけて、導入を進めた。
現場導入時に有効だった仕組み・機能	<ul style="list-style-type: none"> ● タブレット端末を使用し、訪問先など事業所外でスケジュールを作成、修正できる点が有効である。 ● 職員も1人1台タブレット端末を所持しており、訪問スケジュールを手元で直接確認できるため、助かっている。 ● 各利用者にメモを付与できるため、計画書の更新など、事務職員から担当職員への伝達の手間が軽減され、伝達漏れや対応漏れも削減した。

③ 導入後の効果・新たな課題について

図表 X-26 導入後の効果・新たな課題について

カテゴリ	主なご意見
スケジュール作成者の観点	<ul style="list-style-type: none"> ● 体感としては、タイムスタディ調査の結果以上に、スケジュール作成・修正に係る時間が削減されている。 ● 事前は、スケジュール作成のために事務所に帰所する必要があったが、事後では、タブレット端末で操作できるため、直帰できるようになった。 ● スケジュール作成時の心理的負担が非常に軽減した。 ● 介護サービス提供表と AI ツールのみを確認すればよいため、訪問漏れが軽減した。 ● 事前は、管理者1人でスケジュールを管理していたが、事後では、利用者担当職員自身がスケジュールを微調整できるようになり属人化がやや解消されたため、安心感がある。 ● 属人化の解消までは至っていないが、事前と比較すると、事後では管理者やサービス提供責任者以外の職員も訪問スケジュール作成に関わることができている。 ● 開業以降はじめて、10 日間の長期休暇を取得し、フランスへ海外研修に行くことができた。 ● AI ツールでは、職員のスキルなど、詳細な設定ができないため、思うような訪問スケジュールを自動作成できない。
職員の観点	<ul style="list-style-type: none"> ● 職員としても、AI ツールを導入してよかったとの声が聞かれている。 ● AI ツール上で各職員の状況をタイムリーに確認でき、便利である。 ● 訪問スケジュールに変更があった場合、サテライトオフィスで新しい予定表を印刷していたが、その作業が不要となった。 ● 訪問スケジュールを自動作成することで、職員のスキルアップが必要であることが明らかとなった。
特に生産性が向上した業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 新規利用者について、担当者会議の場で、訪問曜日や時間を調整し、その場でスケジュールを登録できることが、非常に便利である。 ● 少し先の訪問スケジュールの見通しが立ち、介護支援専門員から支援を依頼された際に、対応可能な日時を即時に回答できるようになった。 ● 利用者の住所を確認する際、介護記録ソフトを立ち上げる手間が削減された。
経営面への影響	<ul style="list-style-type: none"> ● 複数名の職員の退職があったが、訪問件数を維持できた。 ● 事務職員 2 名の退職があった。人件費の削減により、ツール費用は賄えていると考える。

④ 今後の取組の意向について

図表 X-27 今後の取組の意向について

カテゴリ	主なご意見
継続意向あり	<ul style="list-style-type: none"> AI ツールの使用を継続する。スケジュール作成ツールが、現場運用に不可欠となっている。 今回使用した AI ツールを正式導入した。 最終的には、職員がスマートフォンでスケジュールを確認する運用としたいが、保守的な職員もいるため、長期的な視点で、現場に浸透させたい。 より良いツールがあれば入れ替えを検討するが、ツールに慣れるために3カ月要するため、一旦は現在使用している AI ツールの使用を継続したい。
継続意向なし	<ul style="list-style-type: none"> (対象事業所なし)

⑤ 生産性向上に関する話し合いの場について

図表 X-28 生産性向上に関する話し合いの場について

カテゴリ	主なご意見
会議・委員会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 月1回、ケース会議の中で業務改善や生産性向上の議論をしている。 AI ツール導入については、既存の会議の中で、議題の1つとして扱った。 生産性向上に関する話し合いの場はない。
生産性向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> 法人として、生産性向上を検討する方針がある。その方針が職員に根付いており、日常の中で業務改善について会話する場面がある。 職員は、生産性向上に消極的な面もある。

【送迎スケジュール作成ツール】

1. 実証概要

(1) 実証目的

AI 技術等のテクノロジーを活用した職員の負担軽減、ケアの質の確保等に関する効果について検証する。

(2) 実証仮説

送迎スケジュール作成ツールにおける仮説は以下の通りである。

- ① AI ツールの活用により、送迎スケジュール作成を行う職員の負担が軽減する。
- ② AI によるタスクシフトが実現し、直接介護や職員指導等の時間の増加によりケアの質向上に繋がる。

(3) 実証機器

本実証では以下のソフトウェアを用いた。

図表 X-29 実証で使用したソフトウェア

No	メーカー名	ツール名	ツールの概要
1	パナソニック カーエレクトロニクス株式会社	DRIVEBOSS	送迎スケジュール作成 AI ツール

(4) 対象事業所

本実証の対象事業所は以下の通り。

なお、実証結果では、オペレーションの変更が想定通りにできなかった事業所の結果を除く。

図表 X-30 実証対象事業所

No	法人名	事業所名	導入ツール
1	株式会社レコードブック	レコードブック森下	DRIVEBOSS
2	社会福祉法人 水光会	しらぬい荘デイサービスセンター	DRIVEBOSS
3	社会福祉法人 さつき会	つつじ苑デイサービスセンター	DRIVEBOSS
4	社会福祉法人シルヴァーウィング	新とみ	DRIVEBOSS
5	社会福祉法人 墨友会	デイサービスセンターサンヴェール 尾張旭	DRIVEBOSS

※全実証対象事業所において、介護記録ソフトとの連携なし。

(5) 実証方法

ア. 実証調査の時期

調査の時期は以下の通りである。

図表 X-31 調査の時期

調査	時期
事前調査	令和7年7月～8月のうち5日間
事後調査①	令和7年9月～10月のうち5日間
事後調査②	令和7年11月～令和8年1月のうち5日間
ヒアリング調査	令和7年12月～令和8年1月

※新型コロナウイルス感染症の影響やツールの導入調整等の影響により、各事業所の調査時期には幅がある。

イ. 各調査の概要

実証結果を把握するため、事前調査と事後調査①・②で「タイムスタディ調査」、「職員向けアンケート調査」、「業務時間等調査」、「経営的指標調査」を実施し、実証終了後に「ヒアリング調査」を行った。各調査の概要は以下の通り。

図表 X-32 各調査の概要

調査名	調査対象者	調査概要
タイムスタディ調査	送迎スケジュール作成者	<ul style="list-style-type: none"> 回答方法:自記式(1日のうち各業務に要した合計時間を記入)による回答 調査スケジュール:事前(送迎スケジュール作成ツール導入前)1回、事後調査①・②(送迎スケジュール作成ツール導入後)2回の計3回。各日に勤務した職員全員が回答 調査実施の時間帯:実際に勤務した時間全て
職員向けアンケート調査	送迎スケジュール作成者	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式による回答 調査スケジュール:事前と事後調査①・②の実証期間中それぞれについて、職員1名につき1回のみ回答
経営的指標調査	実証責任者	<ul style="list-style-type: none"> 回答方式:自記式 調査スケジュール:タイムスタディ調査に合わせて事前と事後調査①・②の各調査期間において、利用者の要介護別人数、1日の利用者数、定員数を回答
業務時間等調査	送迎スケジュール作成者	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法:自記式 調査スケジュール:事後調査②終了後に、実証に参加した職員全員について実証責任者が回答

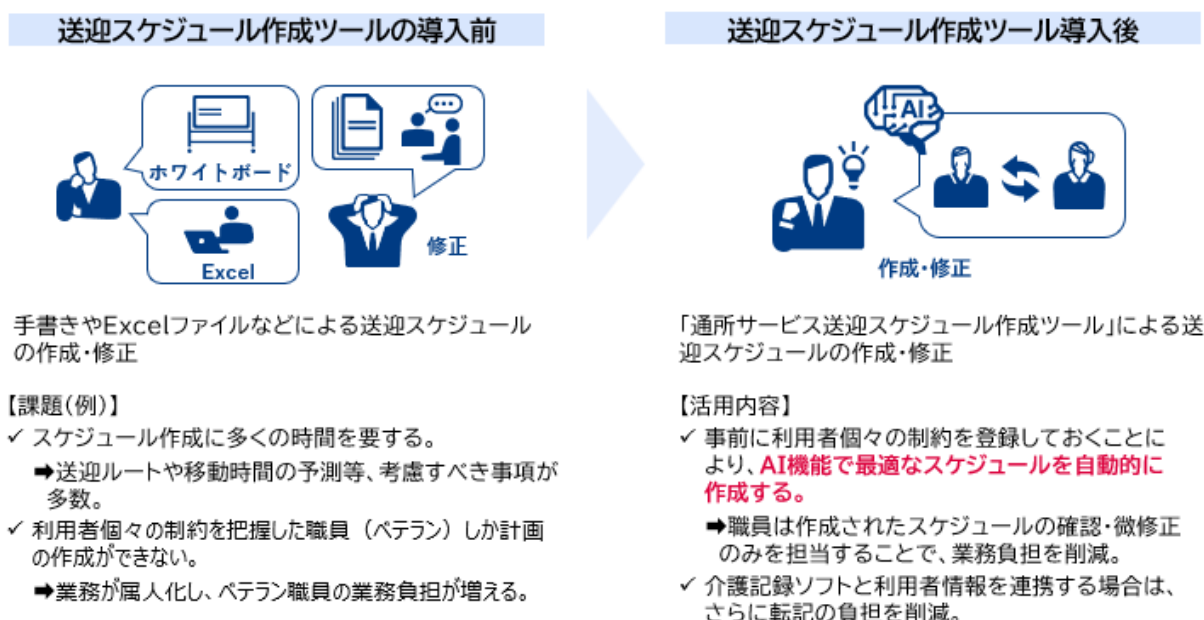
調査名	調査対象者	調査概要
ヒアリング調査	実証責任者、送迎スケジュール作成者	<ul style="list-style-type: none"> 調査方法: Web 会議による聞き取り 調査スケジュール: 実証終了後に 1 回実施

ウ. 本実証で目指すところ

事前調査では通常通りのオペレーションで調査を実施した。事後調査では、送迎スケジュール作成ツールを導入し、職員への伝達方法等、必要なオペレーション変更を実施した状態で、調査を実施した。

具体的な実施方法については以下の通り。

図表 X-33 実証調査の実施方法



(6) 調査項目

調査項目として、タイムスタディ調査及び職員向けアンケート調査、業務時間等調査、経営的指標調査、ヒアリング調査を行った。

ア. タイムスタディ調査

タイムスタディ調査の調査項目では、「A.直接介護」「B.間接業務(小分類 10 項目)」「C. 休憩・待機」「D. その他」の 4 分類で整理し、計 14 項目を用意した。

図表 X-34 タイムスタディ調査 項目

No	分類	Sub-No	項目
A	直接業務	1	直接介護・看護・リハビリテーション(※1)

No	分類	Sub -No	項目
B	間接業務	2	記録・文書作成(※2)
		3	スケジュールの新規作成・修正
		4	スケジュールの転記・職員間調整
		5	情報連携(事業所内)(※3)
		6	情報連携(他事業所・家族)(※4)
		7	新規利用者受入提案・対応
		8	利用者のアセスメント・情報収集・介護計画の作成・見直し(※5)
		9	AI ツール活用にかかる業務(※6)
		10	移動 / 送迎
		11	その他間接業務
C	休憩	12	休憩
		13	待機
D	その他	14	その他

※1 見守りによる介助を含む。

※2 利用者に関する記録等の作成

※3 申し送り、職員間の連絡調整、事業所内の情報連携

※4 他事業所や家族との情報連携(利用者の状況報告、実績報告など)

※5 モニタリング訪問を含む

※6 ベンダーとの連絡調整、現場職員への説明など

イ. 職員向けアンケート調査

職員向けアンケート調査では、オペレーション変更を行う前の事前、オペレーション変更を実施した後の事後の2種類の調査票で調査を行った。

調査項目は、事前調査と事後調査で共通とし、心理的負担評価(心理的ストレス反応測定尺度(Stress Response Scale-18に基づく)と、加えて事後調査では、生産性向上の取組によるモチベーションの変化、生産性向上の取組の進めやすさ、生産性向上の取組の対象とした課題への理解、生産性向上の取組による職員や事業所業務の変化、導入機器の満足度評価(Quest 福祉用具満足度評価)、全体的な満足度評価とした。各調査票は、参考資料を参照されたい。

ウ. 経営的指標調査

経営的指標調査では、各調査時点で、利用者の要介護別人数、5日間各日における利用者数、定員数の調査を行った。各調査票は、参考資料を参照されたい。

エ. 業務時間等調査

業務時間等調査では、実証終了後に1回調査を行った。

調査内容は、オペレーション変更を通じた労働時間や有給休暇の取得状況の変化や、実証期間中のヒヤリハット・事故を調査項目とした。調査票は、参考資料を参照されたい。

オ. ヒアリング調査

上記調査終了後、ヒアリング調査を実施した。なお、ヒアリング調査では、対象事業所の管理者および送迎スケジュール作成担当職員に対し調査を行った。

2. 実証結果

(1) 職員概要

図表 X-35 職員概要 性別

	男性	女性	無回答	合計
人数(人)	2	4	0	6
割合	33%	67%	0%	100%

図表 X-36 職員概要 年齢

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代～	無回答	合計
人数(人)	0	1	1	1	1	2	0	0	6
割合	0%	17%	17%	17%	17%	33%	0%	0%	100%

図表 X-37 職員概要 職種

	介護福祉士	介護職員 (介護福祉士以外)	看護職員	リハビリ 職(機能訓練指導員を含む)	相談員	事務職員	その他	無回答	合計
人数(人)	0	1	1	0	3	0	1	0	6
割合	0%	17%	17%	0%	50%	0%	17%	0%	100%

図表 X-38 職員概要 役職

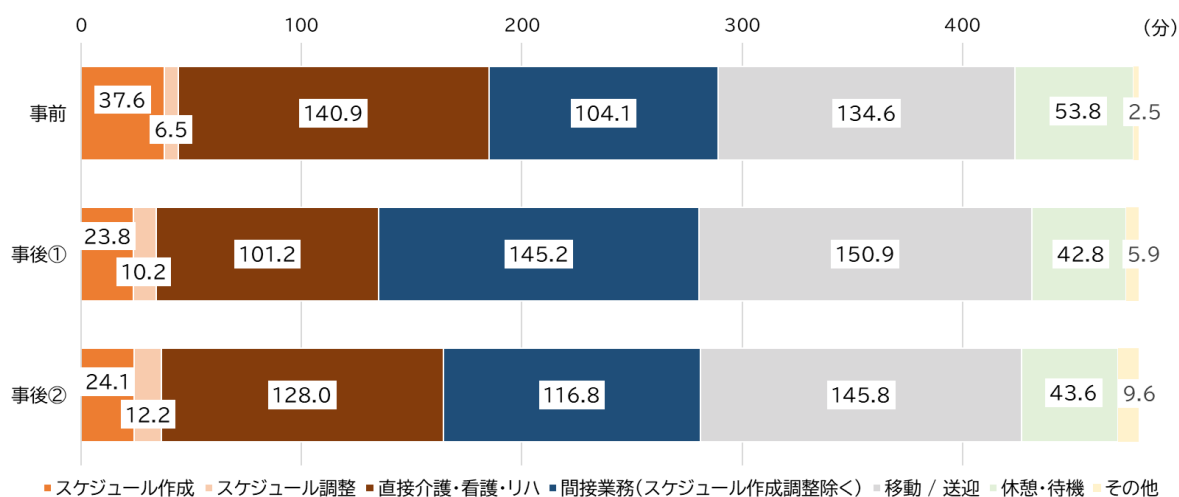
	経営層	管理者・ リーダー	一般職	その他	無回答	合計
人数(人)	0	1	4	1	0	6
割合	0%	17%	67%	17%	0%	100%

(2) タイムスタディ調査結果

送迎スケジュール作成を担当する職員のタイムスタディ調査の結果は以下の通り。

スケジュール作成および調整にかかる時間は、480分換算で事前調査では44.1分であったのに対し、事後調査①では34.0分、事後調査②では36.3分に減少した。

図表 X-39 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人1日(480分)あたり)

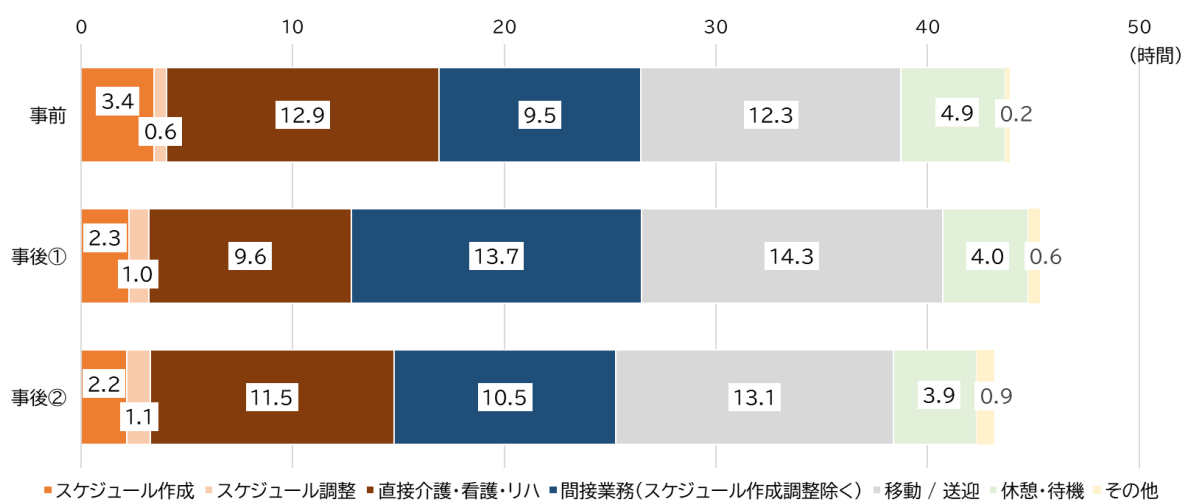


事前調査 n=7
 事後調査① n=6
 事後調査② n=6

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から8時間(480分)換算した値。

図表 X-40 タイムスタディ調査の結果(介護職員1人5日間の積算)



事前調査 n=7
 事後調査① n=6
 事後調査② n=6

※5日間の自記式による職員業務量調査(タイムスタディ)を実施。

※グラフ上の数は、調査結果の和から一人あたりに換算した値。

(3) 職員向けアンケート調査結果

事前調査・事後調査①・②ともに送迎スケジュール作成者のみを対象とした。

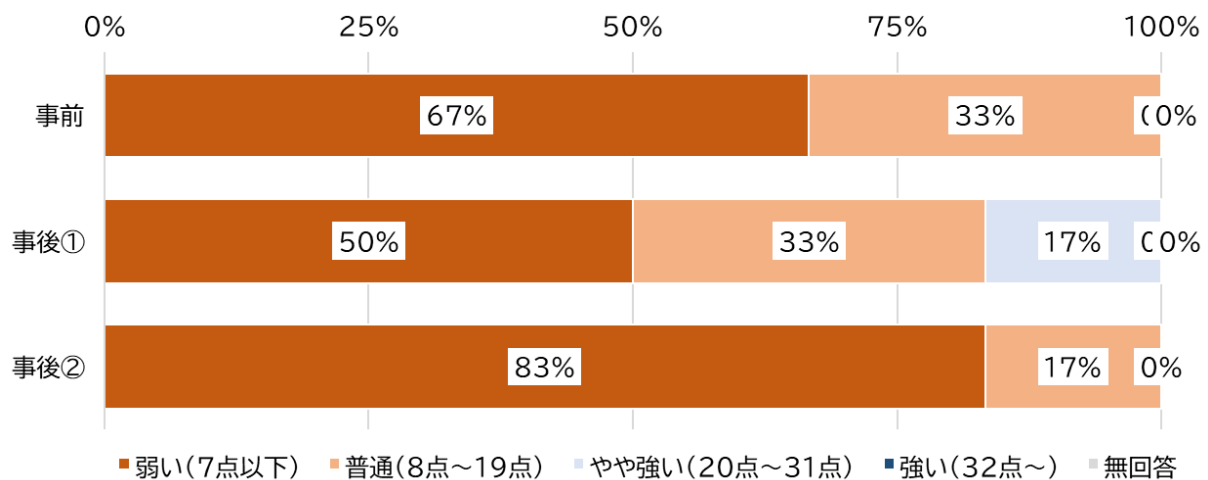
ア. 心理的負担評価(SRS-18)

心理的負担評価(SRS-18)の結果は以下の通り。

ストレス反応が「弱い」割合が、事前では67%であったのに対し、事後①では50%に減少したものの、事後②では83%に増加した。

図表 X-41 心理的負担評価(SRS-18)

		7点以下	8点～19点	20点～31点	32点～	無回答	合計
事前	人数(人)	4	2	0	0	0	6
	割合	67%	33%	0%	0%	0%	100%
事後①	人数(人)	3	2	1	0	0	6
	割合	50%	33%	17%	0%	0%	100%
事後②	人数(人)	5	1	0	0	0	6
	割合	83%	17%	0%	0%	0%	100%



※心理的負担評価(SRS-18)は、18項目からなる個人の心理的ストレス反応を評価する尺度。各項目について「全くちがう(0点)」～「その通りだ(3点)」で評価する。合計点が0～7点を「弱い」、8～19点を「普通」、20～31点を「やや強い」、32点以上を「強い」と評価した。事前調査および事後調査ともに回答のあった職員のみを集計対象とした。事前調査または事後調査①・②で、各18項目のうち1項目でも無回答がある職員はすべて無回答とした。また、各項目の回答が0、1、2、3以外の場合は無回答処理をした。

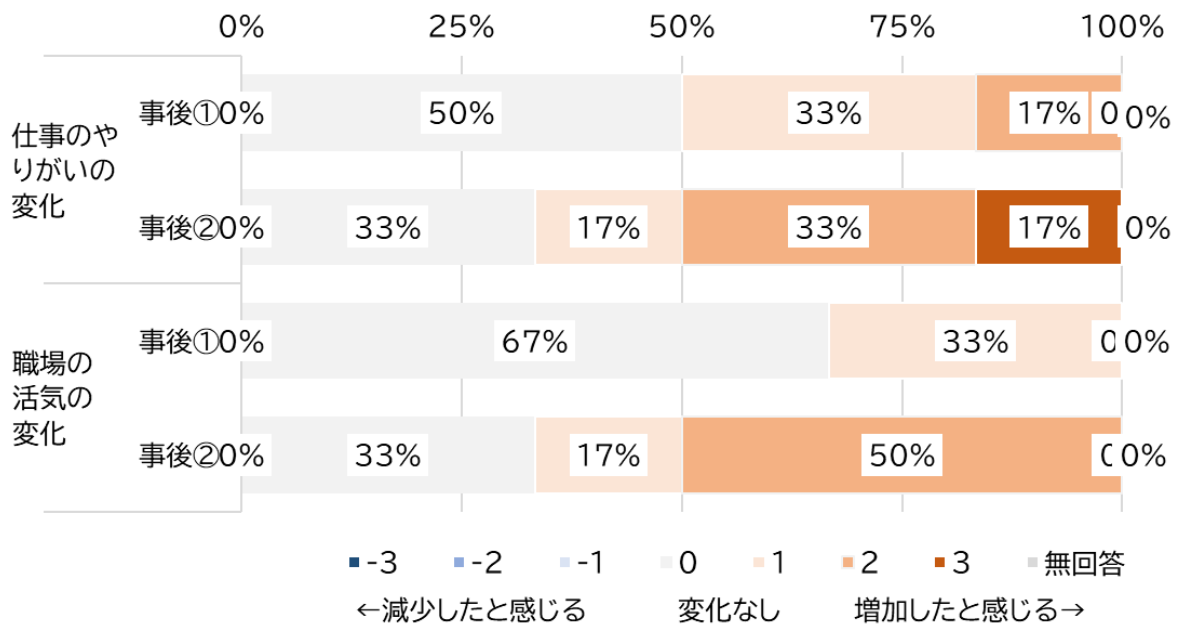
イ. 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

生産性向上の取組によるモチベーションの変化の結果は以下の通り。

「仕事のやりがいの変化」について、「1～3(増加したと感じる)」の割合は、事前では50%であったのに対し、事後②では67%に増加した。「職場の活気の変化」について、「1～3(増加したと感じる)」の割合は、事前では33%であったのに対し、事後②では67%に増加した。

図表 X-42 生産性向上の取組によるモチベーションの変化

		←減少したと感じる							増加したと感じる→			無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3					
仕事のやりがいの変化	事後①	人数(人)	0	0	0	3	2	1	0	0	0	6	
		割合	0%	0%	0%	50%	33%	17%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	2	1	2	1	0	0	6	
		割合	0%	0%	0%	33%	17%	33%	17%	0%	0%	100%	
職場の活気の変化	事後①	人数(人)	0	0	0	4	2	0	0	0	6		
		割合	0%	0%	0%	67%	33%	0%	0%	0%	0%	100%	
	事後②	人数(人)	0	0	0	2	1	3	0	0	6		
		割合	0%	0%	0%	33%	17%	50%	0%	0%	0%	100%	



※質問項目に対し、-3(減少したと感じる)～+3(増加したと感じる)の7段階で評価した。

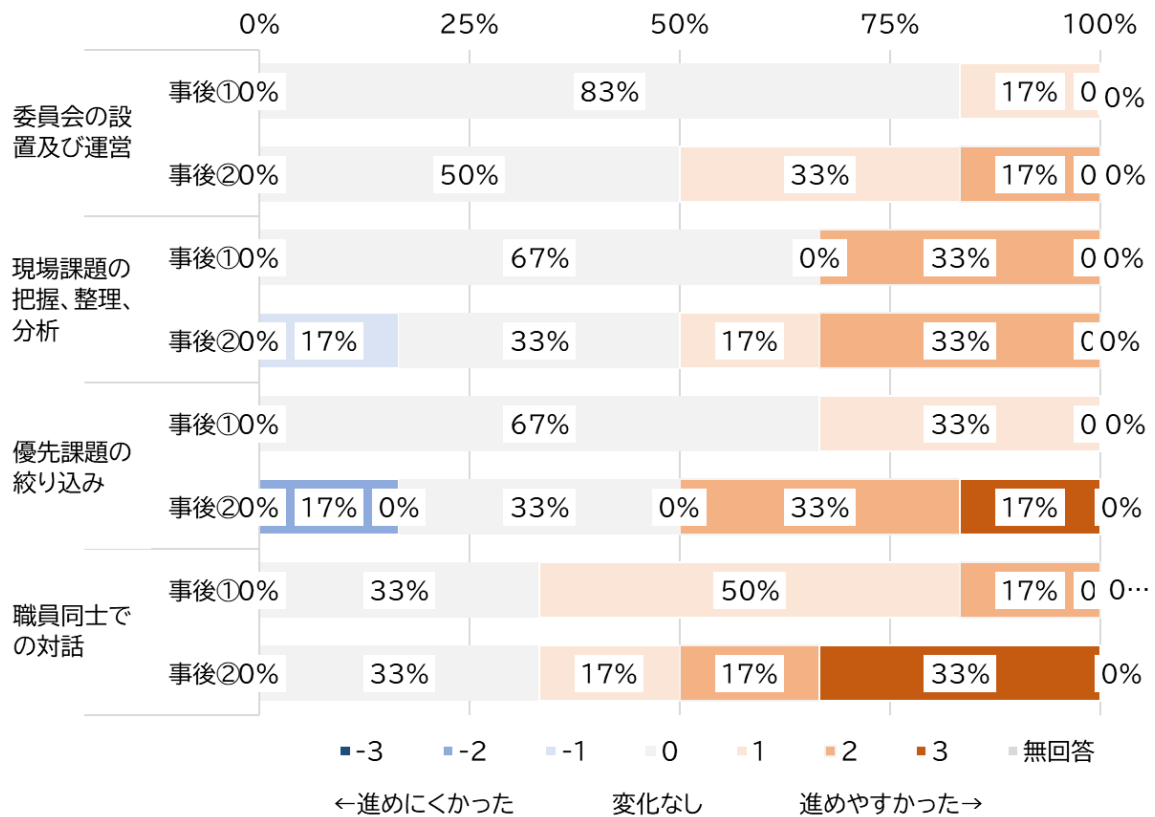
ウ. 生産性向上の取組の進めやすさ

生産性向上の取組の進めやすさの結果は以下の通り。

「委員会の設置及び運営」について、「1～3(進めやすかった)」の割合は、事後①では17%であったのに対し、事後②では50%に増加した。「現状課題の把握、整理、分析」「優先課題の絞り込み」について、「1～3(進めやすかった)」の割合は、事後①では33%であったのに対し、事後②では50%に増加した。「職員同士での対話」について、「3(進めやすかった)」の割合は、事後①では0%であったのに対し、事後②では33%に増加した。

図表 X-43 生産性向上の取組の進めやすさ

		←進めにくかった → 進めやすかった →							無回答	合計	
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
委員会の設置及び運営	事後①	人数(人)	0	0	0	5	1	0	0	0	6
		割合	0%	0%	0%	83%	17%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	3	2	1	0	0	6
		割合	0%	0%	0%	50%	33%	17%	0%	0%	100%
現場課題の把握、整理、分析	事後①	人数(人)	0	0	0	4	0	2	0	0	6
		割合	0%	0%	0%	67%	0%	33%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	1	2	1	2	0	0	6
		割合	0%	0%	17%	33%	17%	33%	0%	0%	100%
優先課題の絞り込み	事後①	人数(人)	0	0	0	4	2	0	0	0	6
		割合	0%	0%	0%	67%	33%	0%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	1	0	2	0	2	1	0	6
		割合	0%	17%	0%	33%	0%	33%	17%	0%	100%
職員同士での対話	事後①	人数(人)	0	0	0	2	3	1	0	0	6
		割合	0%	0%	0%	33%	50%	17%	0%	0%	100%
	事後②	人数(人)	0	0	0	2	1	1	2	0	6
		割合	0%	0%	0%	33%	17%	17%	33%	0%	100%



※質問項目に対し、-3(進めにくかった)～+3(進めやすかった)の7段階で評価した。

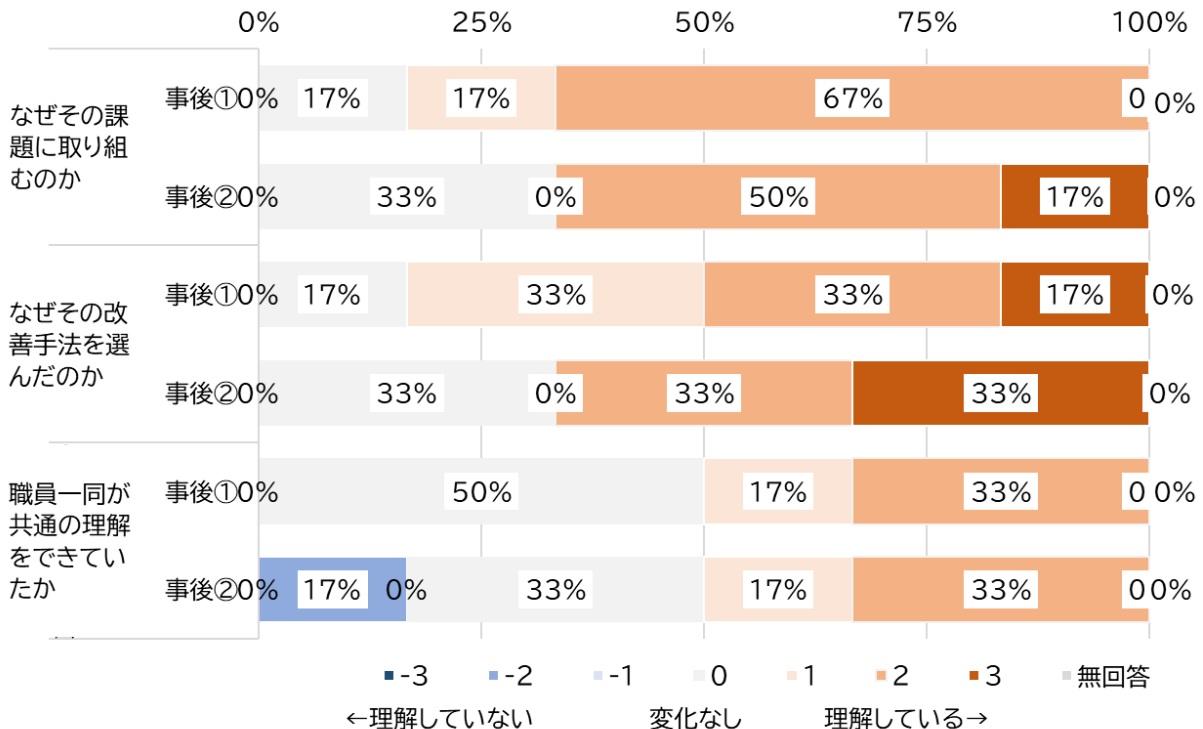
工. 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

生産性向上の取組の対象とした課題への理解に関する結果は以下の通り。

「なぜその課題に取り組むのか」について、「1～2(理解している)」の割合は、事後①では84%であったのに対し、事後②では50%に減少した。一方、「3(理解している)」の割合は、事後①では0%であったのに対し、事後②では17%に増加した。「なぜその改善手法を選んだのか」について、「3(理解している)」の割合は、事後①では17%であったのに対し、事後②では33%に増加した。「職員一同が共通の理解をできていたか」について、「1～2(理解している)」の割合は、事後①・②ともに50%であり変化は見られないが、「-2(理解していない)」の割合は、事後①では0%であったのに対し、事後②では17%に増加した。

図表 X-44 生産性向上の取組の対象とした課題への理解

		←理解していない→							理解している→	無回答	合計
		-3	-2	-1	0	1	2	3			
なぜその課題に取り組むのか	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	1 17%	1 17%	4 67%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 33%	0 0%	3 50%	1 17%	0 0%	6 100%
なぜその改善手法を選んだのか	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	1 17%	2 33%	2 33%	1 17%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	2 33%	0 0%	2 33%	2 33%	0 0%	6 100%
職員一同が共通の理解をできていたか	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 50%	1 17%	2 33%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 17%	0 0%	2 33%	1 17%	2 33%	0 0%	0 0%	6 100%



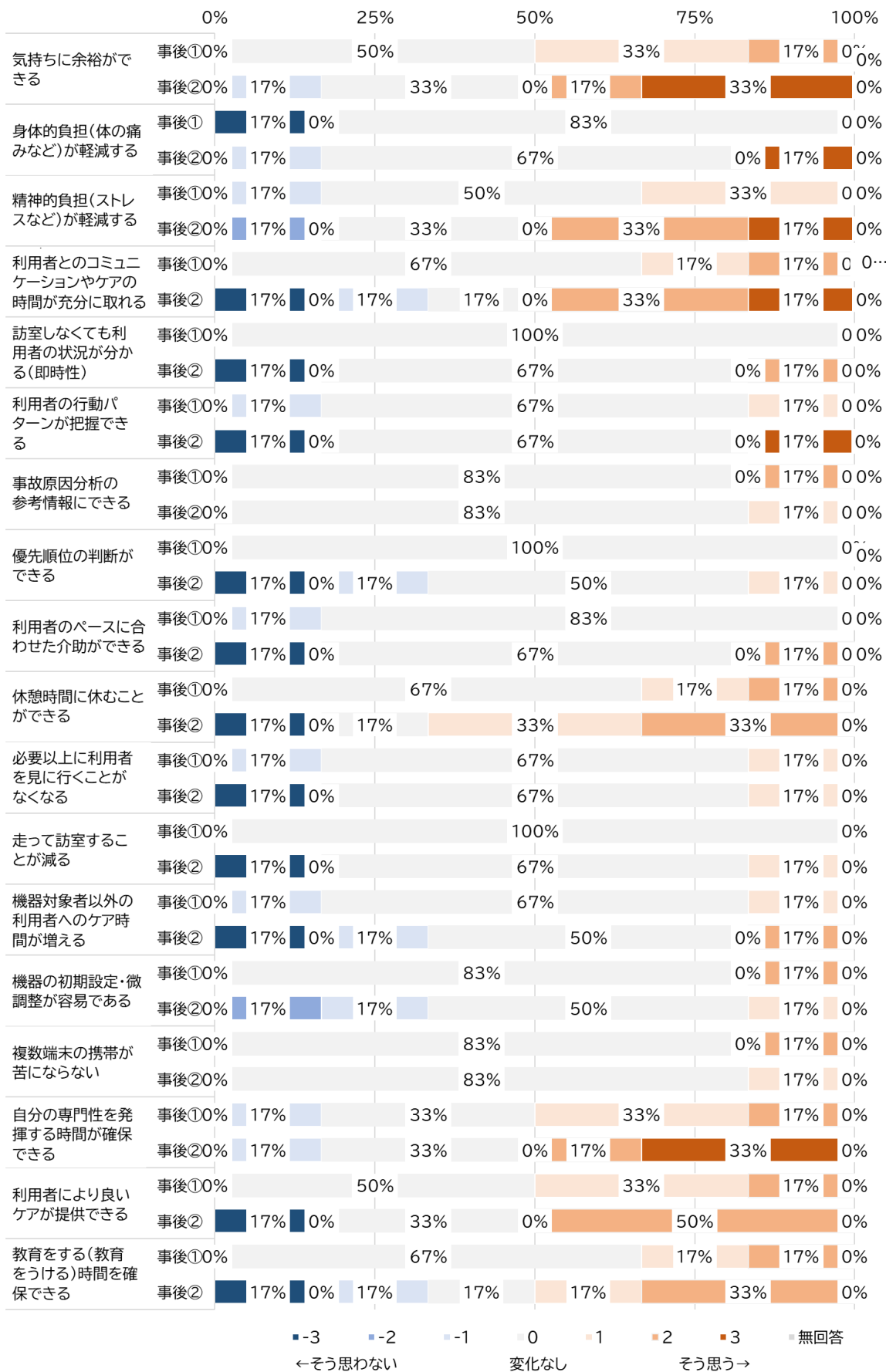
※質問項目に対し、-3(理解していない)～+3(理解している)の7段階で評価した。

オ. 生産性向上の取組による職員や事業所業務の変化

生産性向上の取組による職員や事業所業務の変化の結果は以下の通り。

図表 X-45 生産性向上の取組による職員や事業所業務の変化

		←そう思わない									無回答	合計
		変化なし					→そう思う					
		-3	-2	-1	0	1	2	3				
気持ちに余裕ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 50%	2 33%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 17%	2 33%	0 0%	1 17%	2 33%	0 0%	0 0%	6 100%
身体的負担(体の痛みなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	0 0%	5 83%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 17%	4 67%	0 0%	0 0%	1 17%	0 0%	0 0%	6 100%
精神的負担(ストレスなど)が軽減する	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 17%	3 50%	2 33%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 17%	0 0%	2 33%	0 0%	2 33%	1 17%	0 0%	0 0%	6 100%
利用者とのコミュニケーションやケアの時間が充分に取れる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 67%	1 17%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	1 17%	1 17%	0 0%	2 33%	1 17%	0 0%	0 0%	6 100%
訪室しなくても利用者の状況が分かる(即時性)	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	0 0%	4 67%	0 0%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
利用者の行動パターンが把握できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 17%	4 67%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	0 0%	4 67%	0 0%	0 0%	1 17%	0 0%	0 0%	6 100%
事故原因分析の参考情報にできる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 83%	0 0%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 83%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
優先順位の判断ができる(同時コールの発生、他の利用者の介護中)	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	1 17%	3 50%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
利用者のベースに合わせた介助ができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 17%	5 83%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	0 0%	4 67%	0 0%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
休憩時間に休むことができる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 67%	1 17%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	0 0%	1 17%	2 33%	2 33%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
必要以上に利用者を見に行くことがなくなる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 17%	4 67%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	0 0%	4 67%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
走って訪室することが減る	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	0 0%	4 67%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
機器対象者以外の利用者へのケア時間が増える	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 17%	4 67%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	1 17%	3 50%	0 0%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
機器の初期設定・微調整が容易である	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 83%	0 0%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 17%	1 17%	3 50%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
複数端末の携帯が苦にならない	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 83%	0 0%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	5 83%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
自分の専門性を発揮する時間が確保できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 17%	2 33%	2 33%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	1 17%	2 33%	0 0%	1 17%	2 33%	0 0%	0 0%	6 100%
利用者により良いケアが提供できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	3 50%	2 33%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	0 0%	2 33%	0 0%	3 50%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
教育をする(教育をうける)時間を確保できる	事後①	人数(人) 割合	0 0%	0 0%	0 0%	4 67%	1 17%	1 17%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	1 17%	0 0%	1 17%	1 17%	1 17%	2 33%	0 0%	0 0%	0 0%	6 100%



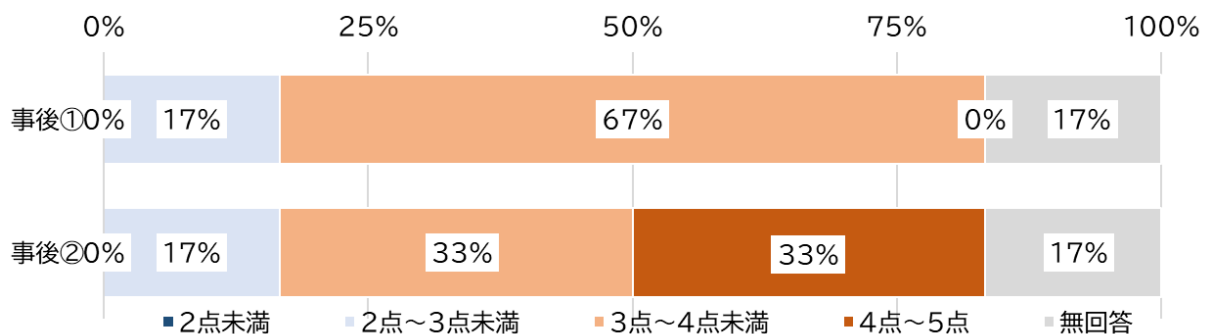
※質問項目に対し、-3(そう思わない)～+3(そう思う)の7段階で評価した。

カ. 導入機器の満足度評価(QUEST 福祉用具満足度評価)

満足度評価(QUEST 福祉用具満足度評価)に関する結果は以下の通り。

図表 X-46 導入機器の満足度評価(QUEST 福祉用具満足度評価)

		全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している	無回答	合計
その福祉用具の大きさに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	0 0%	2 33%	0 0%	4 67%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	1 17%	1 17%	0 0%	3 50%	6 100%
その福祉用具の重さに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	1 17%	1 17%	0 0%	4 67%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	1 17%	1 17%	0 0%	3 50%	6 100%
その福祉用具の調節しやすさに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	1 17%	1 17%	0 0%	4 67%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	2 33%	0 0%	0 0%	3 50%	6 100%
その福祉用具の安全性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	1 17%	1 17%	0 0%	4 67%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	1 17%	1 17%	0 0%	3 50%	6 100%
その福祉用具の耐久性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	2 33%	0 0%	0 0%	4 67%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	2 33%	0 0%	0 0%	3 50%	6 100%
その福祉用具の使いやすさに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	2 33%	2 33%	0 0%	1 17%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	1 17%	1 17%	0 0%	3 50%	6 100%
その福祉用具の使い心地の良さに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	0 0%	2 33%	0 0%	3 50%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	2 33%	0 0%	0 0%	3 50%	6 100%
その福祉用具の有効性に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	2 33%	2 33%	0 0%	1 17%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	3 50%	0 0%	0 0%	3 50%	6 100%
その福祉用具の取得手続きと期間に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	2 33%	0 0%	0 0%	4 67%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	0 0%	2 33%	0 0%	3 50%	6 100%
その福祉用具の修理とメンテナンスのサービスに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	2 33%	1 17%	1 17%	2 33%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	2 33%	0 0%	0 0%	4 67%	6 100%
その福祉用具を手に入れたときの、専門家の指導・助言に、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	3 50%	0 0%	2 33%	1 17%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	1 17%	0 0%	2 33%	2 33%	1 17%	6 100%
その福祉用具のアフターサービスに、どれくらい満足していますか？	事後①	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	3 50%	1 17%	0 0%	2 33%	6 100%
	事後②	人数(人) 0 割合 0%	0 0%	2 33%	1 17%	0 0%	3 50%	6 100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)~5(非常に満足している)の5段階で評価した。

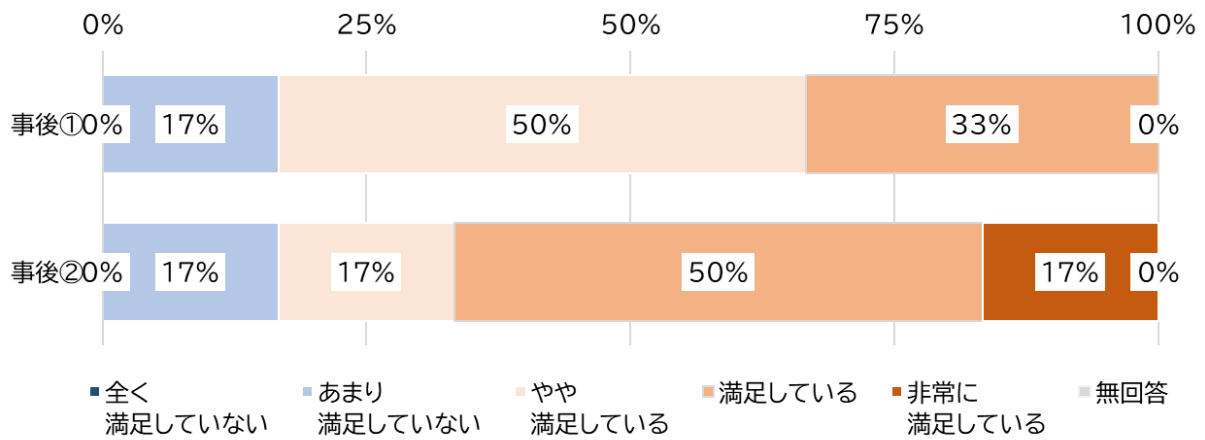
キ. 全体的な満足度評価

全体的な満足度評価の結果は以下の通り。

「満足している」もしくは「非常に満足している」の割合は、事後①では33%であったのに対し、事後②では67%に増加した。

図表 X-47 全体的な満足度評価

			全く満足していない	あまり満足していない	やや満足している	満足している	非常に満足している	無回答	合計
全体的な満足度評価	事後①	人数(人) 割合	0 0%	1 17%	3 50%	2 33%	0 0%	0 0%	6 100%
	事後②	人数(人) 割合	0 0%	1 17%	1 17%	3 50%	1 17%	0 0%	6 100%



※質問項目に対し、1(全く満足していない)～5(非常に満足している)の5段階で評価した。

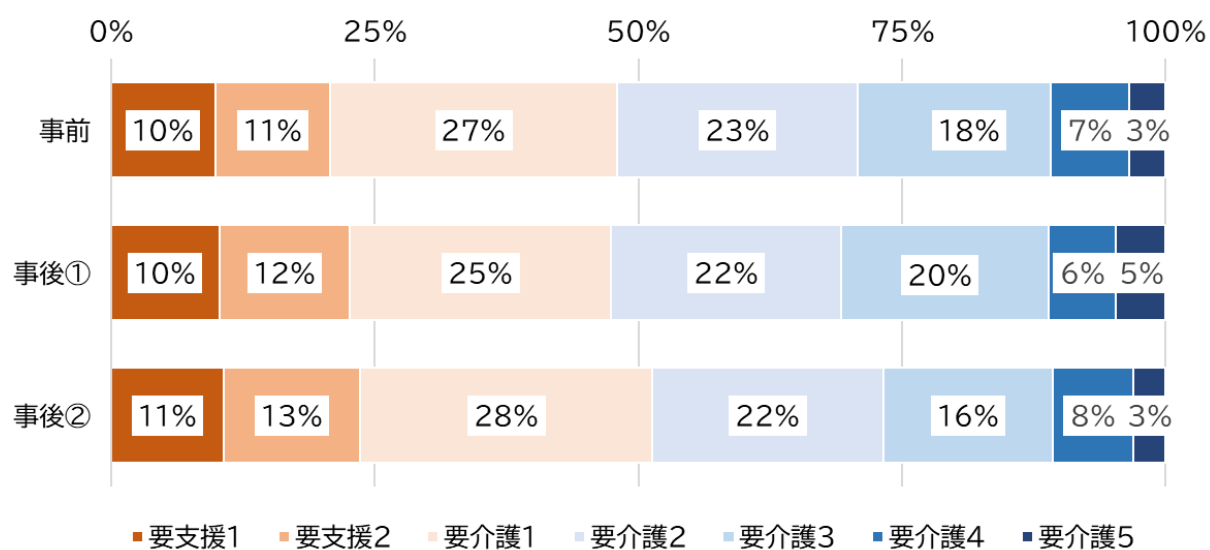
(4) 経営的指標調査結果

経営的指標の集計結果は以下の通り。

要介護度及び稼働率は、実証期間を通じて、大きな変化は見られなかった。

図表 X-48 要介護度の推移

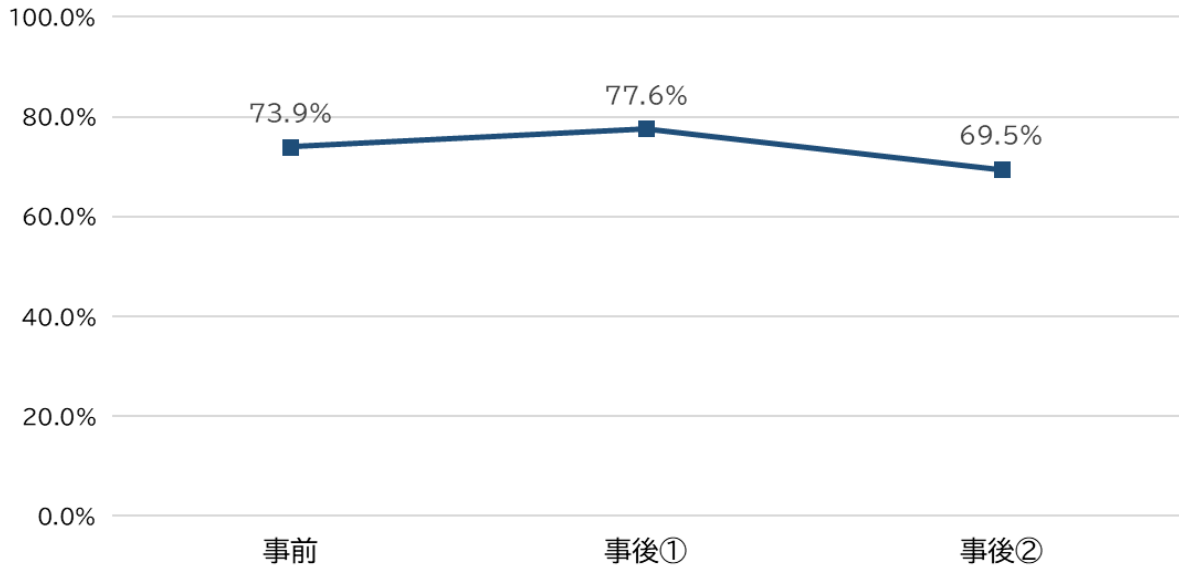
		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	無回答	合計
事前	人数(人)	20	22	55	46	37	15	7	0	202
	割合	10%	11%	27%	23%	18%	7%	3%	0%	100%
事後①	人数(人)	24	29	58	51	46	15	11	0	234
	割合	10%	12%	25%	22%	20%	6%	5%	0%	100%
事後②	人数(人)	24	29	62	49	36	17	7	0	224
	割合	11%	13%	28%	22%	16%	8%	3%	0%	100%



事前調査 n=4 事業所
 事後調査① n=4 事業所
 事後調査② n=4 事業所

図表 X-49 稼働率の推移

	稼働率(全体)			稼働率(午前)			稼働率(午後)		
	利用者数	定員数	稼働率	利用者数	定員数	稼働率	利用者数	定員数	稼働率
事前	791	1070	73.9%	458	635	72.1%	333	435	76.6%
事後①	877	1130	77.6%	503	665	75.6%	374	465	80.4%
事後②	785	1130	69.5%	456	665	68.6%	329	465	70.8%



事前調査 n=4 事業所
 事後調査① n=4 事業所
 事後調査② n=4 事業所

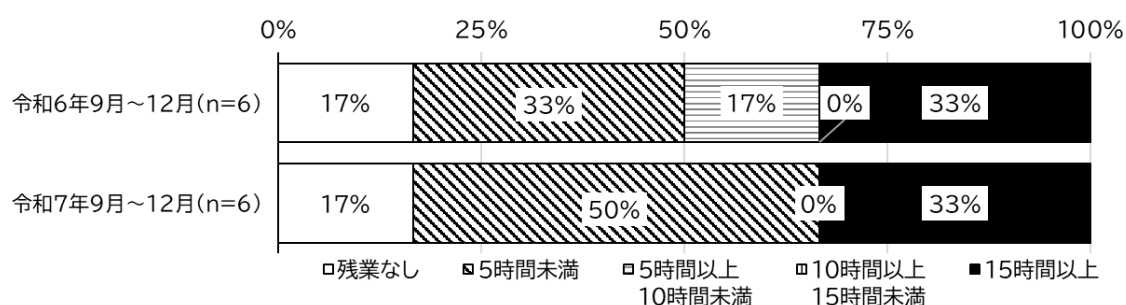
(5) 業務時間等調査結果

ア. 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間について、集計結果は以下の通り。

図表 X-50 職員 1 人 1 か月当たりの所定外労働時間

		残業なし	5時間未満	5時間以上 10時間未満	10時間以上 15時間未満	15時間以上	平均時間
令和6年9月～12月(n=6)	人数(人)	1	2	1	0	2	9.41
	割合	17%	33%	17%	0%	33%	
令和7年9月～12月(n=6)	人数(人)	1	3	0	0	2	9.45
	割合	17%	50%	0%	0%	33%	



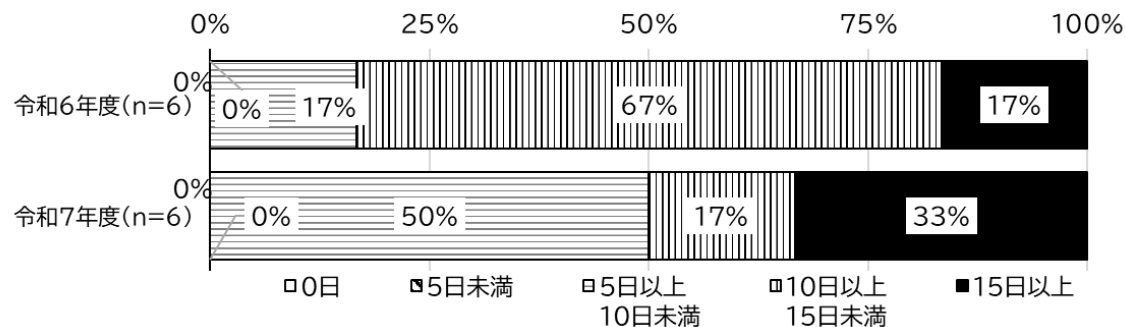
イ. 職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数

職員 1 人 12 か月あたりの有給休暇取得日数について、集計結果は以下の通り。

なお、令和7年度の取得日数は、12 か月に満たない場合、取得日数(a)を実績を把握した月(b)で除し、12 か月換算した推計値(a/b×12)を算出し、以下に取りまとめた。

図表 X-51 有給休暇の取得状況の変化

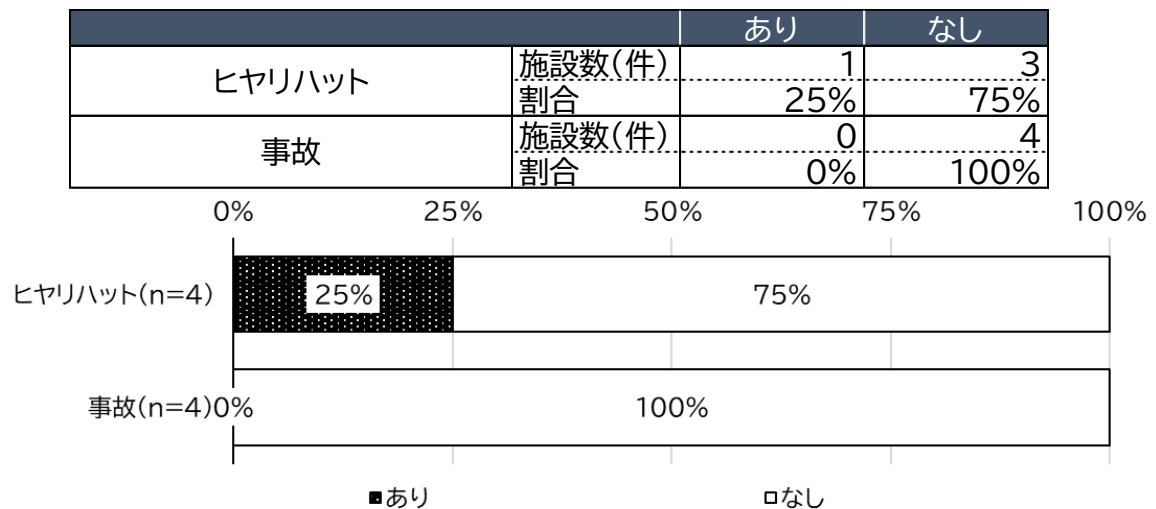
		0日	5日未満	5日以上 10日未満	10日以上 15日未満	15日以上	平均日数
令和6年度(n=6)	人数(人)	0	0	1	4	1	12.75
	割合	0%	0%	17%	67%	17%	
令和7年度(n=6)	人数(人)	0	0	3	1	2	13.28
	割合	0%	0%	50%	17%	33%	



ウ. 実証期間中のヒヤリハット・事故

実証期間中のヒヤリハット・事故についての結果は以下の通り。

図表 X-52 実証期間中のヒヤリハット・事故の有無



(6) ヒアリング調査結果

ヒアリング調査では、以下の5項目について実証対象の事業所より意見を伺い、主な意見を整理した。

① スケジュール作成ツール導入前の課題について

図表 X-53 スケジュール作成ツール導入前の課題について

カテゴリ	主なご意見
業務時間	<ul style="list-style-type: none"> スケジュール作成に時間を要する点が課題であった。 業務内の決まった時間にスケジュール作成ができないことに課題を感じていた。 半日型で送迎範囲が広いいため、事業所になかなか帰所できず、お昼休憩を取ることが難しい状況であった。
スケジュール作成・調整業務	<ul style="list-style-type: none"> Excel ファイルで管理しているが、毎日手書きで修正していた。 名札をボード上に配置し、送迎表を作成していた。 予定表・介護記録ソフト・サービス提供表等、複数の書類を見ながら作成していたため、Excel ファイルでのスケジュール作例時にスケジュール漏れ等のヒューマンエラーが生じていた。 年末年始のショートステイや、当日の朝礼で利用者の変更がある等、修正対応が多発していた。
業務の属人化	<ul style="list-style-type: none"> スケジュール作成業務の属人化が課題であった。 経験値に基づいて送迎表を作るため、送迎スケジュールを作成できる職員が限られていることに負担感を強く感じていた。

② 導入後の取組について

図表 X-54 導入後の取組について

カテゴリ	主なご意見
導入時の課題	<ul style="list-style-type: none"> AI ツールに慣れるまでが大変だった。送迎表を Excel ファイルで作っていたものとは違う媒体で作るようになり、職員全員に周知するには時間を要した。
定着までの期間	<ul style="list-style-type: none"> 事後①の段階で AI ツールの操作方法は慣れており、操作方法を習得するのに時間はかからなかった。 AI ツールの操作方法に慣れるまで約 1 ヶ月要した。最初は作成したスケジュールの修正が必要だったが、使用していくうちに操作を習得した。 事後①の段階では、データ入力で精一杯であった。事後②の頃から、イメージ通りの出力や意図する操作ができるようになった。 導入 1 ヶ月(事後①)から、少しずつコツが掴めるようになった。 使い方は 2～3 日で理解したが、AI ツールは従前の Excel ファイルで作成したスケジュールの答え合わせとして試用している。AI ツールが作成した送迎表を導入することはできていない。 介護記録ソフトのデータやお休みのチェックを確認するホワイトボード等、複数のツールを参照して送迎表を組んでいるため、AI ツールに全て組み込むことができなかった。目視による情報の統合作業を削れないことが AI ツールの運用に至らなかった要因である。
運用ルール・オペレーションの見直し	<ul style="list-style-type: none"> 大きく変更したオペレーションはない。 事業所入口のホワイトボードに掲示している席順表の使用方法も AI ツール導入前と変更していない。 今後、AI ツールをより有効に活用するためのオペレーション変更を実施していくところである。
現場導入時に有効だった仕組み・機能	<ul style="list-style-type: none"> 地図機能が有効であった。 車いすの表示マークがわかりやすい。 送迎車の乗り込みに介助を要するために早く到着する必要がある等、利用者の状況を把握しやすい。 追加利用者の組み込みが行いやすい。 利用者情報や備考欄が使いやすい。 ドライバーの運転履歴、運行状況、安全に運行できているかを見える化できた。運転の状況(スピードを出し過ぎている等)はこれまで感覚値だったが、AI ツールにより根拠のある指導ができるようになった。

③ 導入後の効果・新たな課題について

図表 X-55 導入後の効果・新たな課題について

カテゴリ	主なご意見
スケジュール作成者の観点	<ul style="list-style-type: none"> ● ボタン 1 つで送迎スケジュールを作成できる等、ツールの操作方法が簡単で利便性が高い。 ● 送迎スケジュールを組む時間が短縮された分、生活相談員の時間に割くことができるようになった。 ● 他の業務の合間に送迎スケジュール作成業務ができるようになった。 ● そもそも新規利用者の名札を作成する作業自体がムダだったことに気づき、業務が効率化された。 ● 月末の残業が減少した。 ● 「他の職員もスケジュール作成ができる」という安心感や負担軽減を実感している。 ● ベテラン職員の退職時でも、新規職員に業務の伝達ができた。 ● Web 上の地図より混雑状況を加味して、利用者を割り込んで追加できるようになった。導入前は、混雑状況による、送迎者や時間の変更は諦めていた。 ● 大きく楽になったと感じていないのが正直な感想である。AI によるスケジュール自動作成を使用すると、処理に何分もかかるため、主に過去の送迎計画のコピー機能と、利用者追加機能を使用している。 ● 運行状況がリアルタイムに反映されるのは非常に有用である。 ● 利用者情報を一度 CSV ファイルに記入する作業が大変である。初期設定として、利用者の利用日や車いすの使用有無等、介護記録ソフトから利用者情報を連携できると非常に負担が軽減する。 ● 利用者には、1 か月間、同じ時間に送迎に行く運用である。AI でルートを作成すると、都度スケジュールが変更され、毎日利用者に時間を連絡する手間が発生する。1 か月ごとに自動作成できる機能があると良い。 ● 職員のスキルや相性に関する設定が難しい。職員のスキルによる配車の調整が、スケジュール作成時に最も負荷がかかる事項である。介助が必要な場合、ドライバーと介護士が同行しなければならないため、応援として他部署の職員がドライバーになることがあるが、設定が難しい。
ドライバーの観点	<ul style="list-style-type: none"> ● 送迎ルートを知り尽くしているため、Web 上の地図の提案ではなく経験してきたものを優先してしまうことがある。 ● 送迎ルート変更に伴い、最初は利用者に朝の段階で時間変更を伝えて対応した。ご家族からも時間変更の要望があるため、柔軟に対応している。 ● 送迎時間の変更については、利用者にご希望を聞きながら状況を説明し、ご理解いただきながら運用している。

カテゴリ	主なご意見
特に生産性が向上した業務内容	<ul style="list-style-type: none"> 導入前は、手書きで修正していたが、AI ツールで修正が可能となり、負担が軽減した。 送迎漏れが軽減した。 AI ツールが導入前とは別のルートを提案してくれたり、運転時間を自動計算してくれるため、不可能だと思っていた送迎ルートを開拓できた。 体感的には、AI ツールによる大きな効果はない。
経営面への影響	<ul style="list-style-type: none"> 経営的な変化は見られなかった。

④ 今後の取組の意向について

図表 X-56 今後の取組の意向について

カテゴリ	主なご意見
継続意向あり	<ul style="list-style-type: none"> 入退職が多くあり、全員が送迎ルートを知っているわけではない。急に訪問することになった場合、道を知らない人が運転する際に AI ツールは有効であるため、AI ツール導入は継続した方がよいと感じる。 継続する意向である。AI ツールの導入前の方法に戻す方が大変である。
継続意向なし	<ul style="list-style-type: none"> 継続せず、導入前の送迎スケジュール作成方法に戻したが、AI ツールを活用したおかげで、送迎スケジュールを組むのが楽になった。AI が意図する送迎スケジュールを提示してこない場合に初期設定を修正する等、送迎スケジュールを調整したことにより、送迎スケジュールの組み方について勉強になった。現在は、AI ツールを使っていないが、送迎スケジュール作成にかかる時間は、事前よりも減少している感覚がある。 デイサービス単体で考えると、AI ツールにより見える化はできる。一方で、前週の送迎スケジュールをコピーし、追加・削除は手作業で実施している。全自動で送迎スケジュールを作成してくれるわけではないため、送迎スケジュールを考える作業は従前と変わらない。

⑤ 生産性向上に関する話し合いの場について

図表 X-57 生産性向上に関する話し合いの場について

カテゴリ	主なご意見
会議・委員会の開催	<ul style="list-style-type: none"> 業務効率化に関する月1回のオンライン会議がある。 生産性向上推進体制加算(Ⅱ)を算定しており、委員会を設置している。委員会で新しい機器の導入を提案している。 月1回、施設全体で生産性向上委員会を実施している。通所単体での委員会は実施していない。
生産性向上の取組	<ul style="list-style-type: none"> AI ツールの導入によって、職員の皆も生産性向上に意識が向き始めている。 新規利用者の名札の準備や送迎スケジュールの紙への転記・印刷がなくなることが好評で、業務改善の効果を感じている。

(7) 実証対象事業所以外の送迎スケジュール作成ツール活用事例

送迎スケジュール作成ツールを効果的に活用している事業所にヒアリング調査を実施した。取組の概要および導入の効果等について意見を伺い、主な意見を整理した。

① 取組の概要について

図表 X-58 取組の概要について

サービスの種類	通所介護
取組の目的	送迎スケジュール作成業務の属人化の解消および時間外業務の削減
導入したツール	DRIVEBOSS
導入の時期	令和6年7月

② スケジュール作成ツール導入前の課題について

図表 X-59 スケジュール作成ツール導入前の課題について

カテゴリ	主なご意見
業務時間	<ul style="list-style-type: none"> 送迎計画作成業務の属人化、送迎ミスの頻発、送迎スケジュール作成業務への職員の負担が大きく、時間外業務・サービス残業が発生していた。 仕事の帰りや休日に自家用車で利用者の自宅に下見に行く等、サービス残業につながっていた。
スケジュール作成・調整業務	<ul style="list-style-type: none"> 個別の送迎時間変更希望に対応できない状況であった。 新規利用者があると、抜け漏れが頻発していた。 送迎予定表の管理は、紙媒体をファイルに閉じていたが、管理ができていない状態だった。

③ 導入時の取組について

図表 X-60 導入時の取組について

カテゴリ	主なご意見
導入時の課題	<ul style="list-style-type: none"> 特になし。
定着までの期間	<ul style="list-style-type: none"> 定着まで1カ月ほど要した。 操作は視覚的にも簡単で、感覚的に操作できた。 介護職員7名全員が送迎表作成業務を行うことができた。
運用ルール・オペレーションの見直し	<ul style="list-style-type: none"> 法人として、タイムスタディ調査を年に2回計測している。 時間外勤務に影響している業務があることに気が付いた。 業務のムダを見える化し、業務改善に取り組んでいる。
現場導入時に有効だった仕組み・機能	<ul style="list-style-type: none"> 利用者宅の情報とWeb上の地図が連動しており、すぐに地図を参照できる。 介護記録ソフトとスケジュール作成ツール、音声入力等、全てが連携していることが最も生産性向上の効果を生み出している。

④ 導入後の効果について

図表 X-61 導入後の効果について

カテゴリ	主なご意見
職員の観点	<ul style="list-style-type: none"> 介護記録ソフトと連携しているため、介護記録ソフトの情報が、送迎スケジュールが反映され、送迎ミスが非常に軽減した。 送迎スケジュール作成に対する職員の心理的負担がかなり大きかったが、AIツールが組んでくれることで負担が軽減された。 送迎表がデジタルになったことで、紙面をファイルに閉じる必要がなくなった。
業務時間の変化	<ul style="list-style-type: none"> AIツール導入前は送迎スケジュール作成・調整に最大4時間ほどかかっていたが、現在は誰が作成しても15分程度で作成可能になり、87.5%以上の時間削減をしている。
年次有給休暇の取得状況、超過勤務時間の変化、休憩の取得状況	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務は、ほぼなくなった。 ツール導入後の令和6年度は、5～7日間の連続リフレッシュ休暇を希望者全員が取得した。 有給休暇取得率も向上し、介護テクノロジー活用で余った時間を利用者のためだけでなく職員にも使うことで、休めるときは休むということに取り組んだ。その結果、ツール導入前(令和5年度)とツール導入後(令和6年度)を比較して、休暇取得率が10%向上した。
経営面への影響	<ul style="list-style-type: none"> 削減した時間に他業務を行うことが可能になり、必要人員数の削減に成功した。

カテゴリ	主なご意見
	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者の楽しみの時間を増やすことができるようになった。イベントの起案数が月平均で倍になり、AI ツール導入前と比べて稼働率も上昇した。 • 利用者から欠席の希望があった場合でも、2～3 回送迎に行くことができるようになった。 • 総利用数の増加に伴い収入が増加した。 • 導入前はエリア外の利用者は、利用を断っていたケースもあったが、送迎できるようになった。

⑤ 生産性向上に関する話し合いの場について

図表 X-62 生産性向上に関する話し合いの場について

カテゴリ	主なご意見
会議・委員会の開催	<ul style="list-style-type: none"> • 会議ではないが、現場職員内で、問題点や、負担が大きい作業、どのような機器を導入したいかについて、集まって話をする機会が毎日ある。その際に出た課題のうち対応可能なものは、課長が、法人内に共有している。

令和 7 年度
「介護テクノロジー等による生産性向上の取組に関する調査及び効果測定事業」
報告書(Ⅱ/Ⅲ)

発行:令和 8 年(2026)年 3 月

発行者:厚生労働省 老健局高齢者支援課

〒100-8916 東京都千代田区霞が関1-2-2

電話 03-5253-1111(代表)